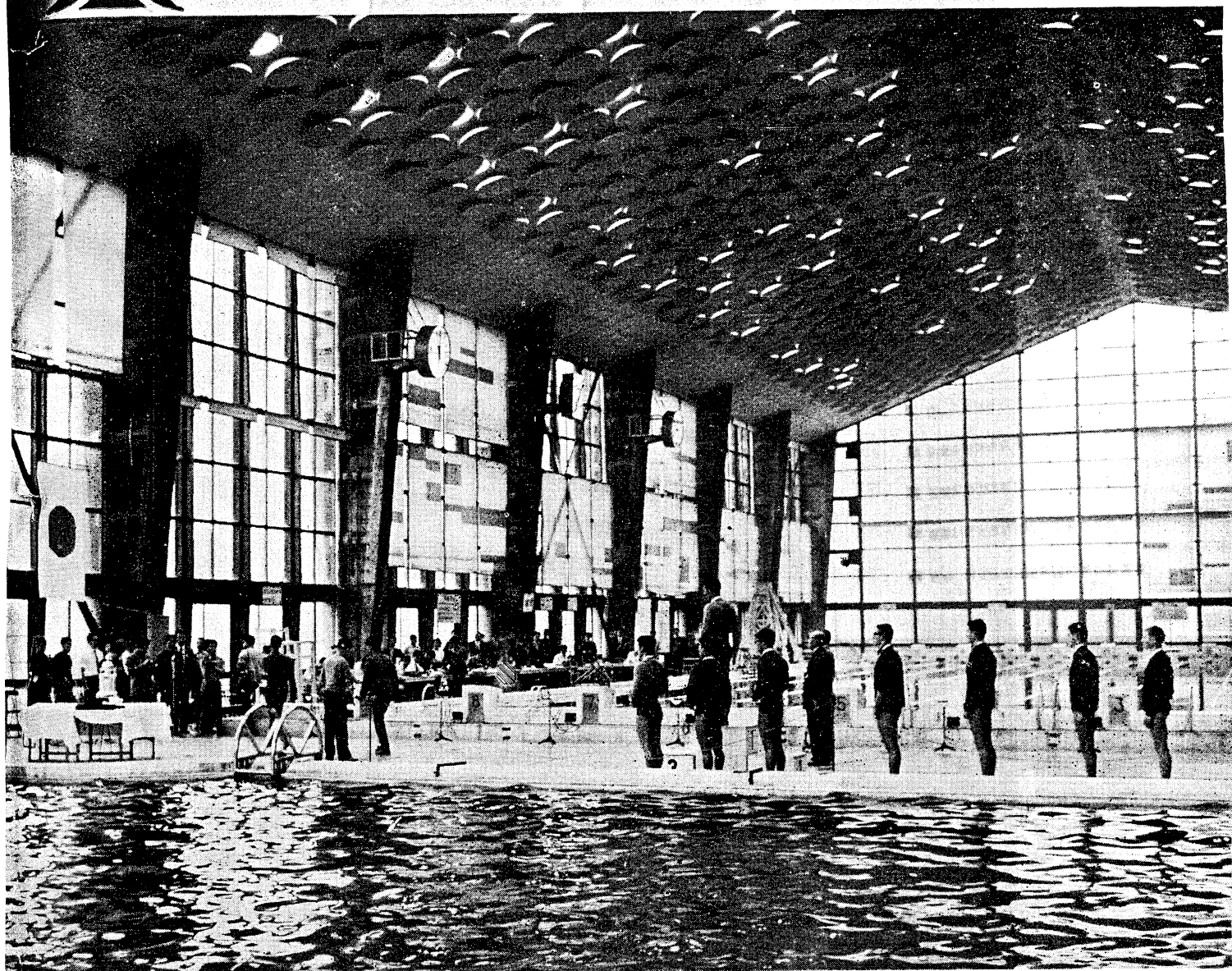
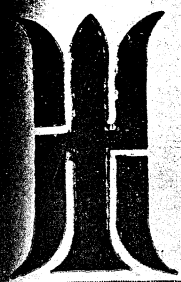


日本水泳連盟
機関誌

水泳

第 1 5 1 号
昭和 38 年 5 月



No. 151

“SUIEI”

May 1963

NIPPON SUIEI RENMEI

(Amateur Swimming Federation of Japan)

目

次

日豪対抗水泳競技大会	(2)
第 5 回室内選手権大会	(16)
座談会 オリンピックの前年を占う	(18)
全豪選手権派遣選手団報告	小 柳 清 志… (27)
アメリカに遠征して	金 戸 俊 介… (33)
渡米中学生チームの競泳報告	藤 垣 亮太郎… (35)
西独水球コーチ招へいによる強化練習報告	鴉 田 武… (40)
38年度第1・四半期 (4 月 ~ 6 月) 強化計画	(49)
これからのシンクロ競技	島 崎 恵美子… (50)
オリンピック水泳競技日程案	(53)
オリンピック競泳準候補選手決定	(56)
第 5 回室内選手権大会記録	(57)
海外 ニ ュ ー ス	坂 本 宗 隆… (63)
水 連 だ よ り	(68)

日豪対抗水泳競技大会

日本 2 連勝をとげる

日豪対抗水泳競技大会は昨年1月、日本チーム、(田口正治監督, 山中毅, 福井誠, 藤本達夫, 石原勝記, 吉無田春男, 重松盛人, 中川清, 佐藤好助, 福島滋雄, 富田一雄) が豪州へ遠征した際豪州よりの申出により第1回日豪対抗競技大会として、豪州各地で行った競技会の得点を累計して勝敗を決めたもので豪州アンポル石油会社より見事な大トロフィーが寄贈されている。結果は日本 130 点, 豪州 49 点で日本の勝利に終わった。

第2回大会はこのたび豪州より 15 名の選抜最強チームを招聘して、東京と別府で対抗競技会を開き、両大会の得点を合計して勝敗を決することになった。

先づ東京大会は4月20日, 21日両日東京都屋内プールに於て開かれ、日本49点, 豪州 23 点で日本がリードした。競技内容は豪州の新鋭、ウインドル選手が 200 m 自由形で 2 分 0 秒 3, 日本チームが 800 m リレーで 8 分 9 秒 8 の世界新記録を樹立、その他日本新記録多数を出し、世界の 2 強豪の激突にふさわしい競技会であった。豪州選手はシーズン・オフでもあり十分な実力を発揮できなかった感じがあり、殊に 200 m タバフライの世界第一人者と目され世界記録保持者でもあるベリー選手が佐藤選手に敗れる番狂わせがあった。

別府大会は4月27日、別府市営プールに於て開かれたが日本チーム依然好調で佐藤好助選手は 200 m タバフライで再びベリー選手を破り 2 分 12 秒 0 の世界第3位の記録をマークした。ホープ福島滋雄選手は 400 m 個人メドレーで 4 分 54 秒 6 のこれも世界歴代第3位の記録を作り、得点も日本 29 点, 豪州 15 点と引離し合計 78 点对 38 点で日本が圧倒的勝利を収め、オリンピックを来年に控えた日本水泳界としては幸先のよいスタートを切った。

然し、豪州チームは遠征疲れもあり持てる力を十分に発揮できなかった点を考慮すれば、楽勝ムードに酔うことなく引続き行われる日米対抗、プレ・オリンピック大会の完勝を目指してカブトの緒をしめ直す必要があると思う。

豪州選手紹介

監督



ウイリアム・ホランド
William J. Holland

豪州クイーンズランド
水泳連盟名誉主事

選手



ディビッド・ディクソン
David Dickson

(主将) 21才
ウエスタン・オーストラリア大学生
最高記録
自由形 110 y 55.3
220 y 2:30.8



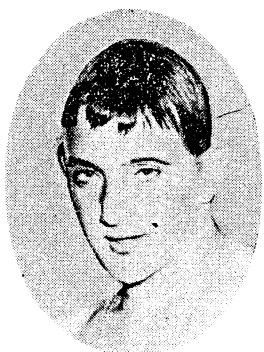
アンソニー・ストラハン
Anthony Strahan

19才
学生
最高記録
自由形 110 y 55.9
220 y 2:02.9
440 y 4:26.1



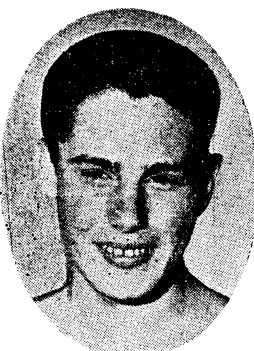
ロバート・ウインドル
Robert Windle

学生 18才
最高記録
自由形 110 y 55.6
220 y 2:01.1
(末世界新)
440 y 4:22.5
880 y 9:06.9
1650 y 17:18.0



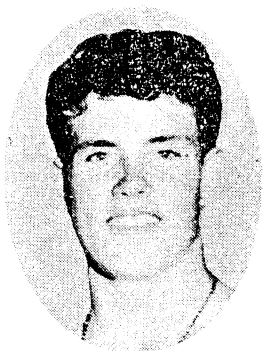
リチャード・リング
Richard Ling

学生 16才
最高記録
自由形 110 y 58.1
220 y 2:06.4
440 y 4:26.7
880 y 9:25.6
1650 y 18:03.0



ラッセル・フェーガン
Russell Phegan

学生 15才
最高記録
自由形 110 y 58.0
220 y 2:06.7
440 y 4:27.0
880 y 9:25.7
1650 y 17:50.8



ジョン・ピック
John Pick

学生 15才
最高記録
自由形 110 y 57.9
220 y 2:07.2
440 y 4:28.9
1650 y 17:45.5



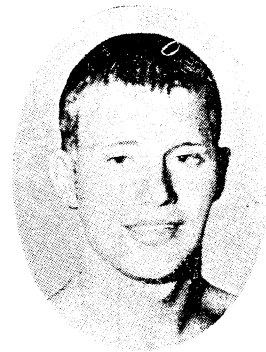
アイアン・オブライエン
Ian Obrien

15才

学 生

最高記録

平 泳 110y 1:11.3
220y 3:36.3



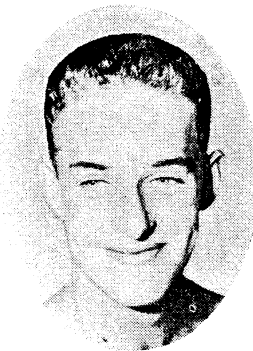
ウィリアム・バートン
William Burton

20才

事務員

最高記録

平 泳 110y 1:11.3
220y 2:36.8



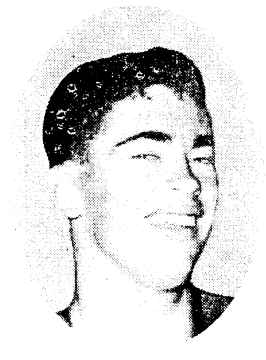
ケヴィン・ベリー
Kevin Berry

17才

学 生

最高記録

バタフライ
110y 59.0 (未世界新)
220y 2:08.4 (未世界新)



ネーヴィル・ヘイズ
Neville Hayes

18才

学 生

最高記録

バタフライ
110y 1:01.0
220y 2:12.2
自由形 220y 2:06.5



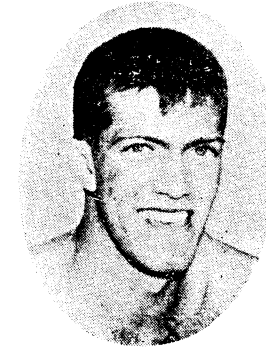
ブレット・ヒル
Brett Hill

18才

セールスマン

最高記録

バタフライ
110y 1:02.0
220y 2:15.2



アンソニー・
フィングルトン
Anthony Fingleton

22才

教 員

最高記録

背 泳 110y 1:03.8
220y 2:21.0



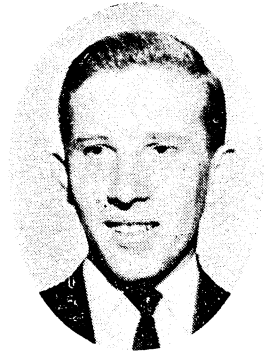
ジョン・バイロム
John Byrom

15才

学 生

最高記録

背 泳 110y 1:05.2
220y 2:24.2



ウィリアム・エブサリー
William Ebsary

15才

学 生

最高記録

個人メドレー
440y 5:12.9

日 本 選 手 紹 介

監 督



村 上 勝 芳
Katsuyoshi Murakami

愛媛県出身
日大出

日本水泳連盟常務理事
" 強化本部員
日本大学水泳部監督

選 手



福 井 誠
Makoto Fukui

島根県出身 23才
170cm 70kg
浜田高出
八幡製鉄勤務
自由形 100m 55.8
200m 2:02.2
400m 4:22.8



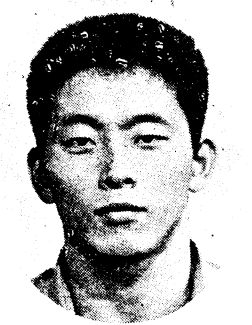
藤 本 達 夫
Tatsuo Fujimoto

兵庫県出身 23才
180cm 68kg
中大出
松下電器勤務
自由形 100m 56.6
200m 2:02.9
400m 4:25.1



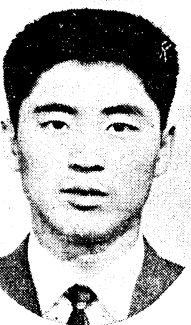
岡 部 幸 明
Yukiaki Okabe

島根県出身 21才
167cm 67kg
早大学生
自由形 100m 56.9
200m 2:04.6
400m 4:32.0



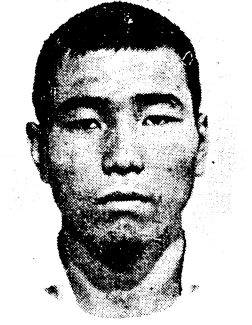
吉 無 田 春 男
Haruo Yoshimuta

熊本県出身 23才
174cm 75kg
早大出
八幡製鉄勤務
自由形 200m 2:05.5
400m 4:29.4
1500m 18:06.8



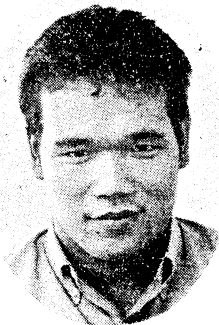
庄 司 敏 夫
Toshio Shoji

千葉県出身
177cm 68kg
安房一高出
BSタイヤ勤務
自由形 200m 2:05.2
400m 4:29.5
1500m 18:15.8

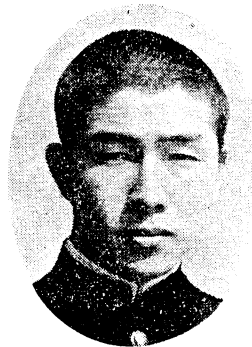


佐 々 木 末 昭
Sueaki Sasaki

大分県出身 20才
174cm 66kg
中大学生
自由形 400m 4:30.5
1500m 17:51.9



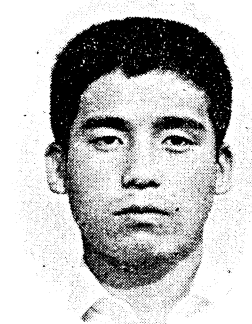
山 中 毅
Tsuyoshi Yamanaka
石川県出身 24才
175cm 78kg
早大出
大洋漁業勤務
自由形 100m 56.0
200m 2:00.4
400m 4:16.6
1500m 17:25.0



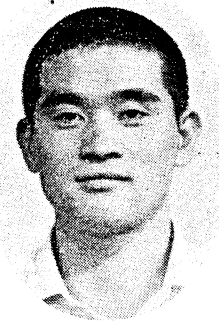
大 林 敦
Atsushi Obayashi
静岡県出身 20才
174cm 68kg
中大学生
バタフライ
100m 1:00.5
200m 2:16.5



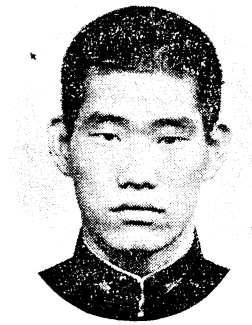
松 本 健 次 郎
Kenjiro Matsumoto
大分県出身 19才
175cm 74kg
早大学生
平 泳
100m 1:09.8
200m 2:33.5



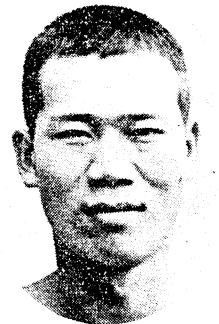
佐 藤 好 助
Kosuke Sato
熊本県出身 21才
161cm 62kg
八幡製鉄勤務
バタフライ
100m 1:00.6
200m 2:13.8



敷 石 義 秋
Yoshiaki Shikiishi
熊本県出身 21才
176cm 67kg
日大学生
平 泳
100m 1:11.8
200m 2:33.4



福 島 滋 雄
Sigeo Fukushima
東京都出身 20才
181cm 73kg
日大学生
背 泳 100m 1:02.1
200m 2:13.5
個人メドレー
400m 5:00.2



増 永 文 昭
Fumiaki Masunage
大分県出身 24才
181cm 79kg
日大出
日本鉱業勤務
バタフライ
100m 1:01.1
200m 2:14.3

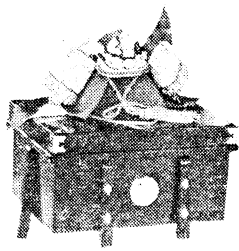


富 田 一 雄
Kazuo Tomita
福岡県出身 24才
167cm 63kg
日大出
BSタイヤ勤務
背 泳
100m 1:03.5
200m 2:18.3

日豪対抗水泳競技東京大会

4月20、21日 東京都屋内プール(50m) 公認
 室温 23° 水温 25°2

対抗



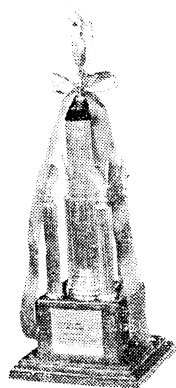
スポーツニッポン社
寄贈

100m 自由形

- 1 ディビット・ディクソン(豪) 56.3
 - 2 福井 誠(日) 56.3
 - 3 岡部 幸明(日) 56.5
 - 4 アントニー・ストラハン(豪) 57.5
- 豪 3 ~ 3 日

オープン

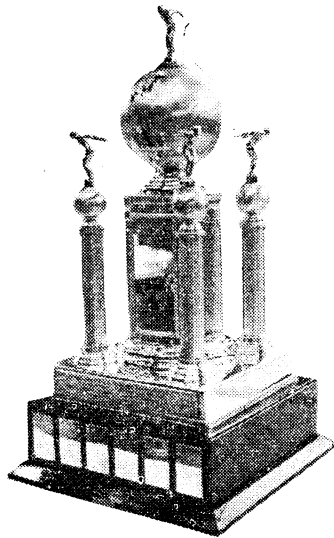
- 庄司 敏夫(BSタイヤ) 56.6
- 後藤 忠治(日大) 56.7
- 福井 清(大洋漁業) 57.6
- ジョン・ピック(豪) 59.1



大洋漁業株式会社
寄贈

200m 自由形

- ロバート・ウインドル
(豪) 2:00.3
27:2 57.4 1:28.8(世界新)
- 福井 誠(日) 2:01.3
27.8 59.2 1:30.2

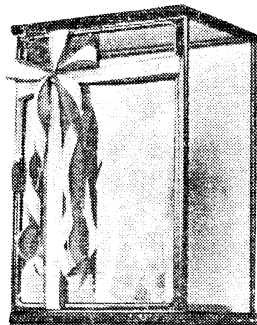


豪州アンポル石油会社寄贈の
大会優勝トロフィー

- 3 山中 毅(日) 2:01.5
27.8 58.7 —
 - 4 アントニー・ストラハン
(豪) 2:09.0
1:00.4
- 豪 3 ~ 3 日

オープン

- 庄司 敏夫(BSタイヤ) 2:04.7
1:00.5
- 後藤 忠治(日大) 2:05.3
1:00.3
- リチャード・リング(豪) 2:06.1
1:00.3
- 岡部 幸明(早大) 2:06.8



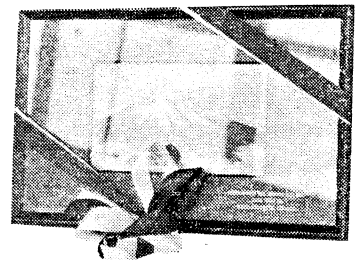
東京電力株式会社
寄贈

400m 自由形

- 1 ロバート・ウインドル
(豪) 4:20.3
1:09.1 2:07.4 3:14.5
 - 2 山中 毅(日) 4:21.7
1:01.6 2:08.8 3:16.6
 - 3 藤本 達夫(日) 4:25.6
1:02.6 2:09.6 3:17.4
 - 4 リチャード・リング(豪) 4:33.7
- 豪 3 ~ 3 日

オープン

- ラッセン・フェーガン
(豪) 4:26.1
1:03.3 2:11.2 3:18.6
- 吉無田春男(八幡製鉄) 4:28.6
- 浦 満広(〃) 4:34.9
- 山田 忠信(早大) 4:38.7



野村証券株式会社 寄贈

1500m 自由形

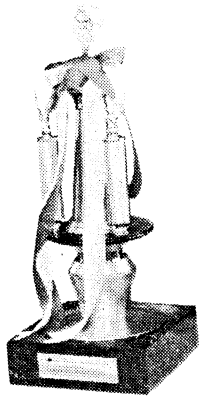
- 1 ロバート・ウインドル
(豪) 17:35.6
 - 2 佐々木末昭(日) 17:38.0
 - 3 吉無田春男(日) 18:01.3
 - 4 ジョン・ピック(豪) 18:34.7
- 豪 3 ~ 3 日

オープン

- 山田 忠信(早大) 18:21.9
 - 靱山 稔(日本鋼管) 18:22.7
 - 浦 満広(八幡製鉄) 18:30.3
- ### 800m 正式計時
- 佐々木末昭(日) 9:20.9
 - ロバート・ウインドル
(豪) 9:21.0

1500m 自由形ラップタイム

	ウインドル	佐々木	吉無田	ピック	山田	粂山	浦
100m	1:07.3	1:06.3	1:07.4	1:06.5	1:07.7	1:07.5	1:06.3
200	2:18.4	2:16.6	2:19.1	2:19.0	2:19.7	2:20.3	2:18.8
300	3:29.3	3:27.2	3:30.6	3:30.6	3:33.3	3:33.6	3:30.9
400	4:39.2	4:37.7	4:42.6	4:43.0	4:47.1	4:46.9	4:43.4
500	5:46.8	5:47.3	5:55.4	5:56.3	6:00.4	6:00.3	5:56.9
600	6:57.6	6:57.7	7:08.0	7:09.8	7:15.2	7:15.0	7:11.0
700	8:08.8	8:08.9	8:20.5	8:26.2	8:29.9	8:29.6	8:25.8
800	9:21.0	9:20.9	9:33.2	9:40.6	9:44.3	9:44.3	9:40.2
900	10:33.1	10:33.1	10:46.4	10:57.7	11:59.0	10:58.9	10:56.1
1000	11:45.4	11:45.5	11:59.7	12:13.0	12:13.7	12:13.7	12:11.9
1100	12:54.5	12:55.7	13:12.4	13:28.3	13:28.1	13:29.0	13:27.7
1200	14:04.7	14:07.2	14:25.3	14:47.3	14:42.9	14:43.1	14:44.1
1300	15:16.3	15:18.4	15:38.2	16:04.6	15:57.4	15:58.0	16:00.6
1400	16:27.6	16:29.4	16:51.2	17:20.8	17:11.0	17:11.5	17:16.5
1500	17:35.6	17:38.0	18:01.3	18:34.7	18:21.9	18:22.7	18:30.3



住友金属工業株式会社
寄贈

100m 平泳

- 1 松本健次郎 (日) 1:11.7
- 2 アイアン・オブライエン (豪) 1:11.9
- 3 敷石 義秋 (日) 1:13.1
- 4 ウィリアム・パートン (豪) 1:14.5

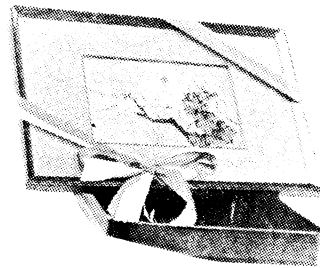
豪 2 ~ 4 日

オープン

- 石川 健二 (日大豊山) 1:10.9
 中野 勇治 (宇部興産) 1:11.2
 和気 統 (日大) 1:14.6

200m 平泳

- 1 松本健次郎 (日) 2:34.5
34.6 1:13.5 1:54.6
- 2 敷石 義秋 (日) 2:36.7
- 3 アイアン・オブライエン (豪) 2:39.6



野村駿吉氏 寄贈

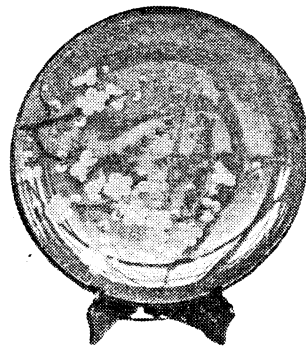
4 ウィリアム・パートン

(豪) 2:45.3

豪 1 ~ 5 日

オープン

- 中野 勇治 (宇部興産) 2:36.7
 石川 健二 (日大豊山) 2:37.2
 和気 統 (日大) 2:40.1



株式会社 日本放送 寄贈

100m バタフライ

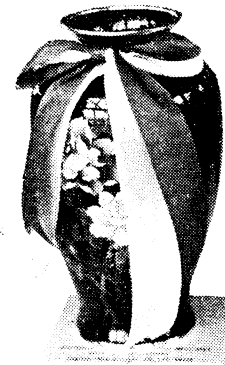
- 1 ケヴィン・ベリー (豪) 1:00:0
- 2 大林 敦 (日) 1:00.2
- 3 佐藤 好助 (日) 1:00.5

4 プレット・ヒル (豪) 1:02.2

豪 3 ~ 3 日

オープン

- 中島 功 (BSタイヤ) 1:00.0
 増永 文昭 (日鉱佐賀関) 1:01.4
 岩本 光司 (早大) 1:01.9
 三好 恭正 (中大・参考) 1:02.2
 ネーヴィル・ヘイズ (豪) 1:06.1



八幡製鉄株式会社
寄贈

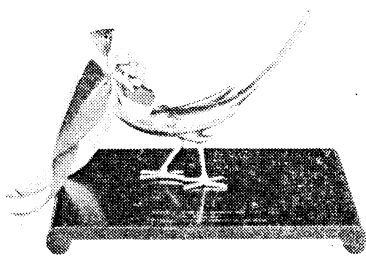
200m バタフライ

- 1 佐藤 好助 (日) 2:13.1 (日本新)
- 2 ケヴィン・ベリー (豪) 2:14.0
- 3 増永 文昭 (日) 2:14.9
- 4 ネーヴィル・ヘイズ (豪) 2:21.6

豪 2 ~ 4 日

オープン

- レット・ヒル (豪) 2:17.0
 三好 恭弘 (中大) 2:17.8
 大林 敦 (日) 2:18.8
 岩本 光司 (早大) 2:19.8



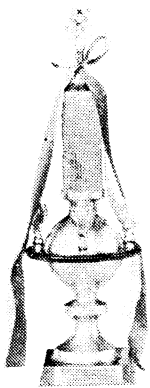
三菱モンサント化成株式会社 寄贈

100m 背泳

- 1 福島 滋雄 (日) 1:02.7 (日本新)
- 2 富田 一雄 (日) 1:04.7
- 3 アンソニー・フィングルトン (豪) 1:05.3
- 4 ジョン・バイロム (豪) 1:05.7 豪 1~5 日

オープン

- 1 伊藤 圭祐 (早大) 1:03.7
- 2 大隅 潔 (明大) 1:06.1



いすゞ自動車株式会社 寄贈

200m 背泳

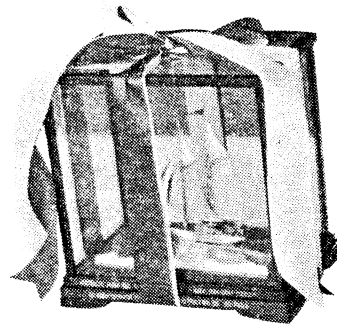
- 1 福島 滋雄 (日) 2:13.6 30.2 1:03.4 1:38.5(日本新)
- 2 富田 一雄 (日) 2:21.1
- 3 アンソニー・フィングルトン (豪) 2:25.3
- 4 ジョン・バイロム (豪) 2:26.8 豪 1~5 日

オープン

- 伊藤 圭祐 (早大) 2:20.3
- 大隅 潔 (明大) 2:20.9

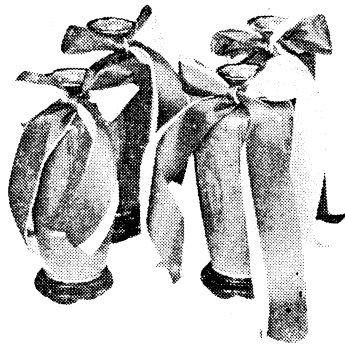
400m 個人メドレー

- 1 福島 滋雄 (日) 4:57.2 1:06.7 2:16.9 3:50.6(日本新)
- 2 山影 武士 (日) 5:10.0
- 3 ウィリアム・エブサリー (豪) 5:14.5



千代田化工建設株式会社 寄贈

ブレット・ヒル (豪) 失格 豪 1~5 日



三菱石油株式会社 寄贈

800m リレー

- 1 藤本 達夫 (日) 8:09.8 山中 毅 (世界新) 岡部 幸明 福井 誠 59.2 2:02.7 3:00.9 4:04.6 5:03.2 6:08.5 7:06.6
- 2 ロバート・ウインドル (豪) 8:15.7 ディビット・ディクソン ラッセル・フェーガン アンソニー・ストラハン 58.4 2:02.4 3:00.4 4:05.3 5:03.8 6:08.9 7:07.6 豪 0~3 日

オープン

- 吉無田春男 (日) 8:27.0 庄司 敏夫 浦 満広 後藤 忠治 1:02.1 2:06.4 3:05:8 4:11.2 5:12.1 6:20.5 7:20.8

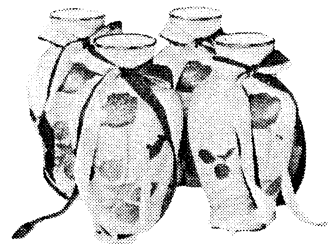
200m 正式計時

- ロバート・ウインドル

(豪) 2:02.4

藤本 達夫 (日) 2:02.7

吉無田春男 (日) 2:06.4



株式会社産経新聞社 寄贈

400m メドレーリレー

- 1 福島 滋雄 (日) 4:07.5 松本健次郎 (日本新) 大林 敦 福井 誠 1:02.6 2:12.9 3:12.2
- 2 アンソニー・フィングルトン (豪) 4:13.5 ケヴィン・ベリー アイアン・オブライエン デビット・ディクソン 1:06.3 2:18.6 3:18.7 豪 0~3 日

オープン

- 伊藤 圭祐 (日) 4:08.1 石川 健二 (日本新) 中島 功 後藤 忠治 1:03.7 2:13.1 3:12.2
- ジョン・バイロム (豪) 4:20.9 ブレット・ヒル ウィリアム・バートン アンソニー・ストラハン

東京大会得点

種目	豪	日
100m自由形	3	3
200m "	3	3
400m "	3	3
1500m "	3	3
100m平泳	2	4
200m "	1	5
100mバタフライ	3	3
200m "	2	4
100m背泳	1	5
200m "	1	5
400m個人メドレー	1	5
800mリレー	0	3
400mメドレーリレー	0	3
合計	23	49

女子オープン競技

100m 自由形

- 1 高島 美枝 (成女学) 1:10.7
- 2 北鹿渡郁子 (") 1:11.0
- 3 常田 汐子 (二階堂高) 1:11.7
- 4 淵井 紀子 (") 1:11.7
- 5 横井真由美 (横学園) 1:11.7
- 6 渡辺 浩子 (白木屋) 1:11.7

200m 自由形

- 1 北鹿渡郁子 (成女学) 2:34.2
- 2 横井真由美 (横学園) 2:36.4
- 3 高島 美枝 (成女学) 2:36.4
- 4 渡辺 浩子 (白木屋) 2:36.7
- 5 内野 典子 (東田ク) 2:37.9
- 6 木村 遊子 (東田中) 2:39.6

100m 平泳

- 1 山重百合子 (学横園) 1:27.8
- 2 小牧 敬子 (白木屋) 1:30.0
- 3 牧谷 仁子 (佼成中) 1:32.0
- 4 吉沢 和子 (横学園) 1:33.7
- 5 阿部 和子 (二階基高) 1:34.6

200m 平泳

- 1 山重百合子 (横学園) 3:11.6
- 2 牧谷 仁子 (佼成中) 3:11.6
- 3 小牧 敬子 (白木屋) 3:16.8
- 4 吉沢 和子 (横学園) 3:17.0
- 5 阿部 和子 (二階堂高) 3:21.2

100m バタフライ

- 1 土屋 節子 (二階堂高) 1:20.7
- 2 高橋 淑子 (成女学) 1:21.0
- 3 高野美代子 (東田中) 1:22.1

- 4 麻生真由美 (横学園) 1:24.7
- 5 佐々木千鶴子 (二階堂高) 1:32.9

100m 背泳

- 1 四本 博美 (白木屋) 1:16.1
- 2 佐藤美代子 (成女中) 1:19.2
- 3 水落志保美 (成女学) 1:22.4
- 4 武樋マキ子 (二階堂高) 1:23.0
- 5 阪本 訓子 (東田中) 1:25.6
- 6 石沢 洋子 (二階堂高) 1:28.4

200m 背泳

- 1 四本 博美 (白木屋) 2:42.0
- 2 佐藤美代子 (成女中) 2:51.3
- 3 武樋マキ子 (二階堂高) 2:58.9
- 4 阪本 訓子 (東田中) 3:03.3
- 5 水落志保美 (成女高) 3:05.0
- 6 菅井 礼子 (二階堂高) 3:22.5

日豪対抗水泳競技別府大会

4 月 27 日 別府市営室内プール

100m 自由形

- 1 ディビット・ディクソン (豪) 56.6
- 2 岡部 幸明 (日) 56.8
- 3 藤本 達夫 (日) 56.8
- 4 アンソニー・ストラハン (豪) 58.0

オープン参加

- 庄司 敏夫 (BSタイヤ) 57.6
石原 勝記 (") 58.8
小手川 守 (白杵高) 1:00.5

400m 自由形

- 1 山中 毅 (日) 4:19.7
- 2 ロバート・ウインドル (豪) 4:27.2
- 3 福井 誠 (日) 4:27.4
- 4 ラッセル・フェーガン (豪) 4:30.8

オープン参加

- 吉無田春男 (八幡製鉄) 4:30.4
浦 満広 (") 4:33.9
ジョン・ピック (豪) 4:34.9
佐々木末昭 (中大) 4:35.3
岩村 喜平 (旭化成) 4:44.2

1500m 自由形

- 1 ロバート・ウインドル (豪) 17:39.6
- 2 佐々木末昭 (日) 17:42.6

- 3 吉無田春男 (日) 18:00.2
- 4 リチャード・リンク (豪) 18:18.9

オープン参加

- 木田 和夫 (佐伯鶴城) 18:39.0
高瀬悦二郎 (八代東) 18:49.0
中坊 昌美 (BSタイヤ) 19:28.6

200m 平泳

- 1 松本健次郎 (日) 2:37.2
- 2 敷石 義秋 (日) 2:37.4
- 3 アイアン・オブライエン (豪) 2:44.3
- 4 ウィリアム・バートン (豪) 2:45.6

オープン参加

- 重松 盛人 (八幡製鉄) 2:38.5
伊藤 靖博 (BSタイヤ) 2:38.8
吉田 正明 (白杵高) 2:42.8
大渡 幹士 (諫早高) 2:48.3

200m バタフライ

- 1 佐藤 好助 (日) 2:12.0 (日本新)
 - 2 ケウイン・ベリー (豪) 2:12.7
 - 3 プレット・ヒル (豪) 2:15.9
 - 4 増永 文昭 (日) 2:16.0
- オープン参加
大林 敦 (中大) 1:18.4
中島 功 (BSタイヤ) 2:19.5
中村 征春 (") 2:24.1

- ネーヴェル・ヘイズ (豪) 2:25.4
山野内伸二 (佐伯鶴城) 2:27.2

200m 背泳

- 1 福島 滋雄 (日) 2:13.9 (日本新)
- 2 富田 一雄 (日) 2:18.6
- 3 アンソニー・フイングルン (豪) 2:24.8

オープン参加

- 中原 紀 (八幡製鉄) 2:24.0
酒井 良明 (BSタイヤ) 2:30.7
原 学 (") 2:33.4
末次 学 (三藩高) 2:37.2

400m 個人メドレー

- 1 福島 滋雄 (日) 4:54.6 (日本新)
- 2 ウィリアム・エブサリー (豪) 5:19.0

400m リレー

- 1 福井, 藤本, 山中, 岡部 (日) 3:46.5
- 2 ウインドル, ディクソン, ストラハン, フェーガン (豪) 3:48.4

オープン参加

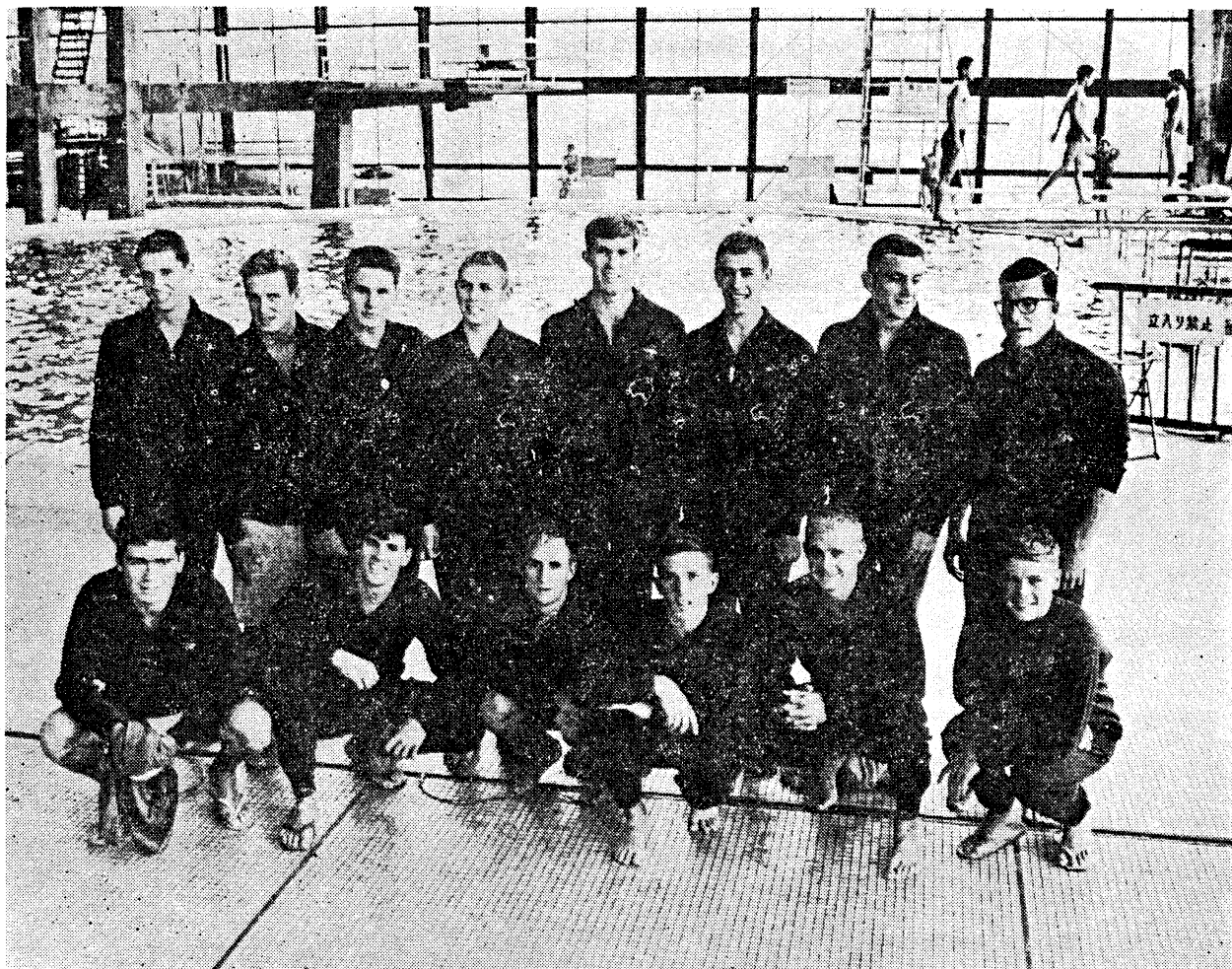
- 浦, 中島, 小手川, 吉村 (九州A) 3:55.8
(九州B) 4:02.8

得点

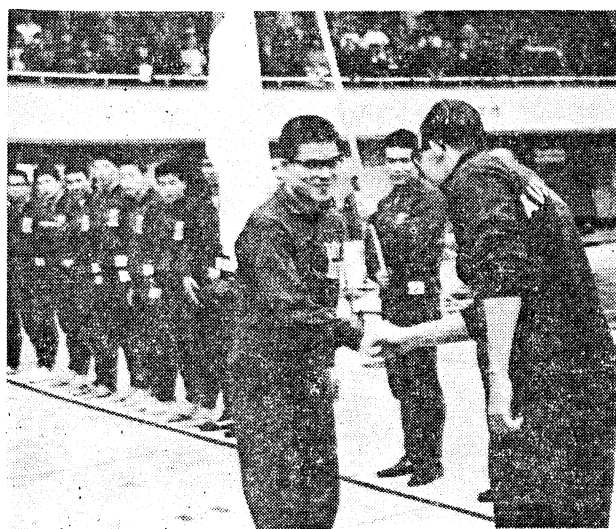
別府大会	日	29	豪	15
東京大会		49		23
合計		78点		38点

日豪対抗水泳競技大会

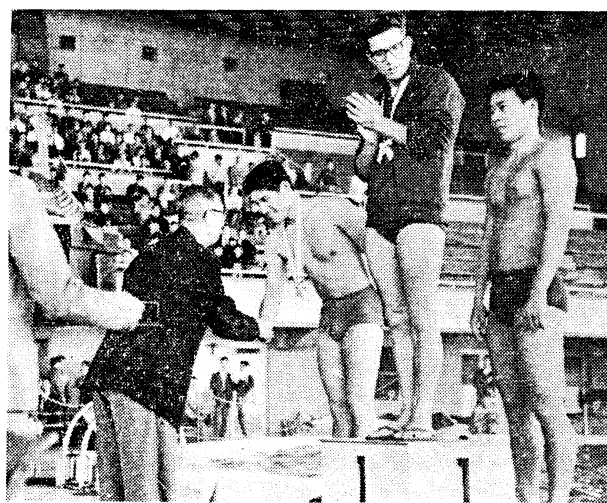
(東京大会)



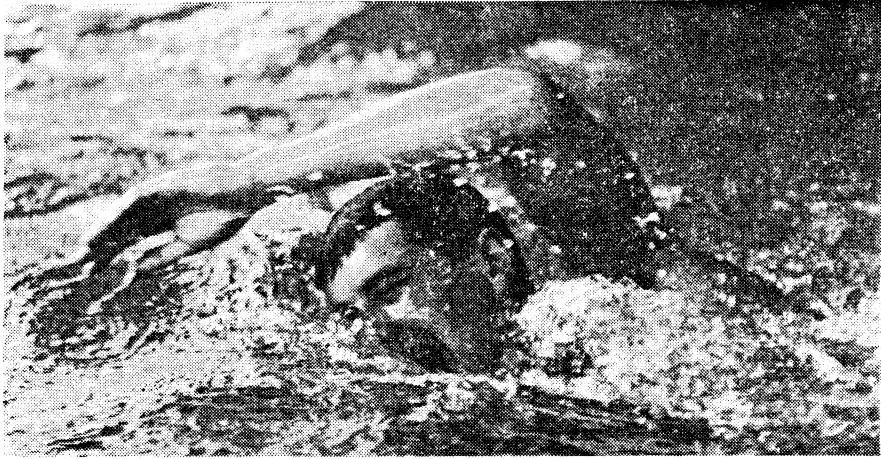
豪州選手



開会式における両国主将握手
左 富田選手, 右 ディクソン選手



100m 自由形決勝の表彰
左より藤田明氏, 福井 (2着) ディクソン (1着)
岡部 (3着) の各選手



200m 自由形に
世界新を出した
ウインドル選手



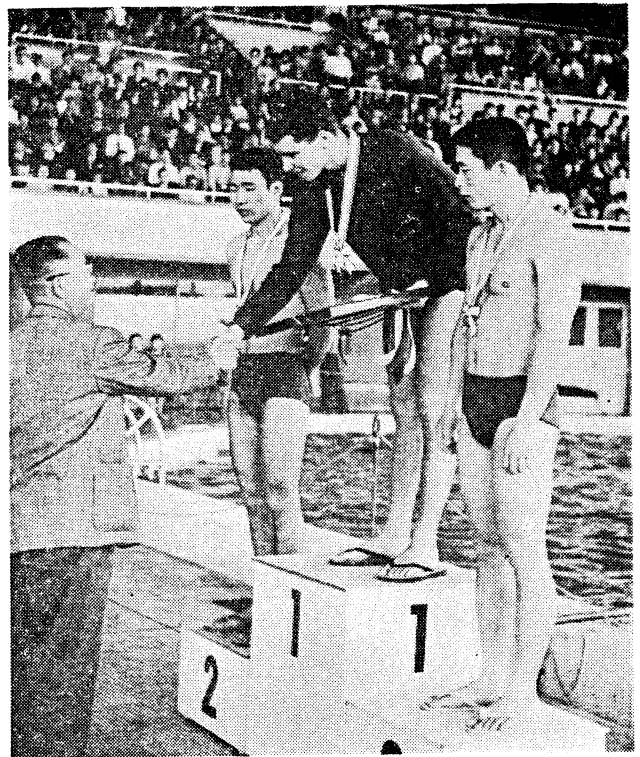


←200m 自由形の表彰式

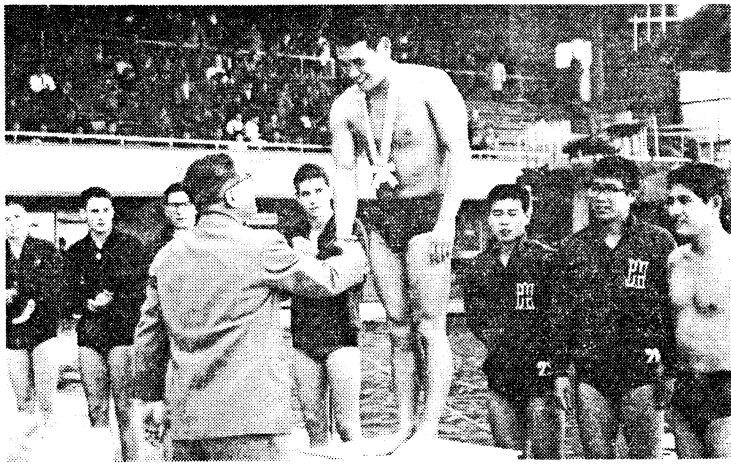
山中 (3着) ウィンドル (1着)
福井 (2着)



400m 自由形決勝の表彰式
左より山中 (2着) ウィンドル (1着)
藤本 (3着) の各選手。

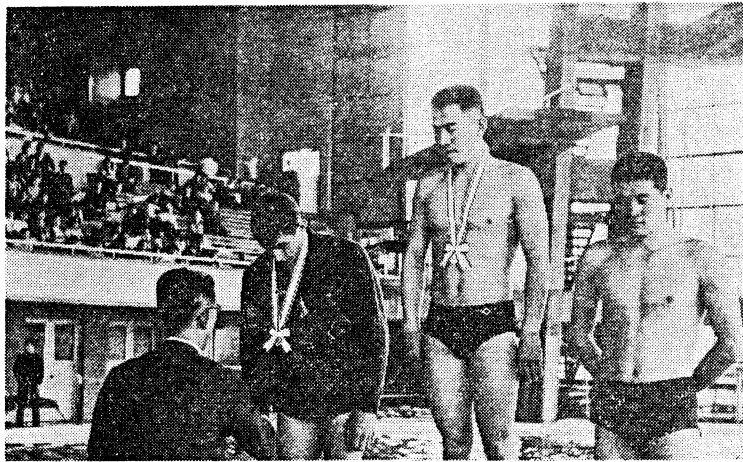
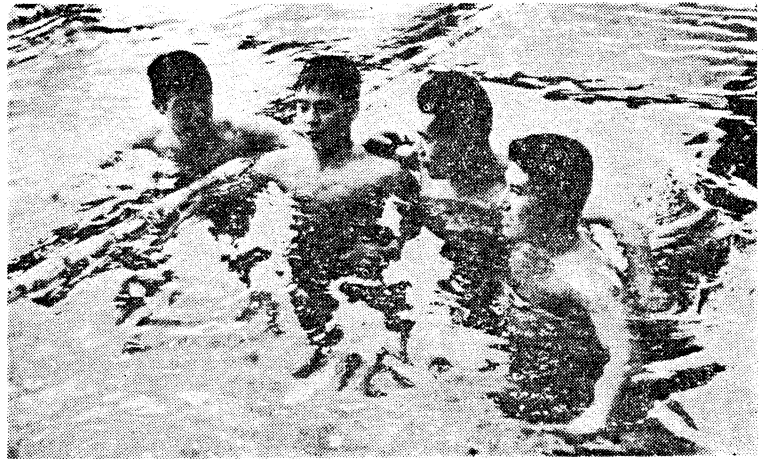


1500m 自由形の表彰式
左から佐々木 (2着) ウィンドル (1着)
吉無田 (3着) の各選手。



800m リレーで世界新記録を出して優勝した日本チーム。
右より福井，藤本，岡部，山中の各選手。
左側は豪州チーム。中央は根上理事長。

800m リレーで世男新記録を出した→
日本チーム。
左より藤本，岡部，山中，福井の各
選手。

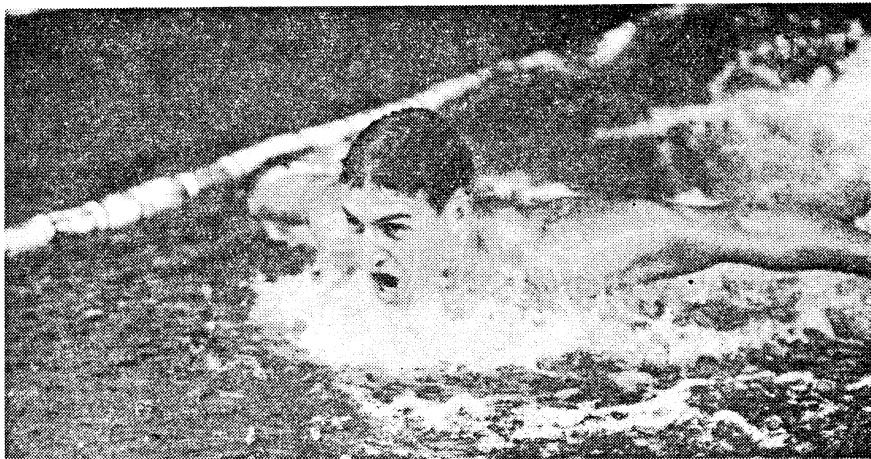


←100m 平泳の表彰式
左より安部FINA名誉主事，
オブライエン（2着）松本（1着）
敷石（3着）の各選手。

力泳する佐藤好助選手。→

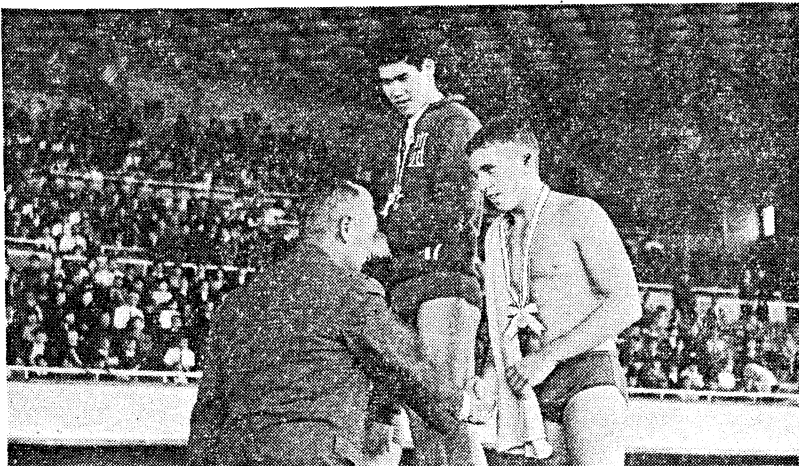
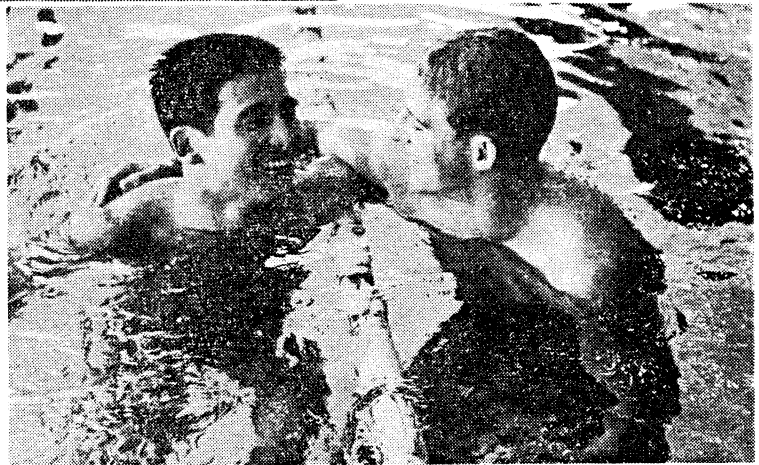


200m バタフライの表彰式→
 左からケヴィン・ペリー選手（2位）
 佐藤好助選手（1位）
 増永文昭選手（3位）



←200m バタフライで
 世界記録を持つペリー選手。

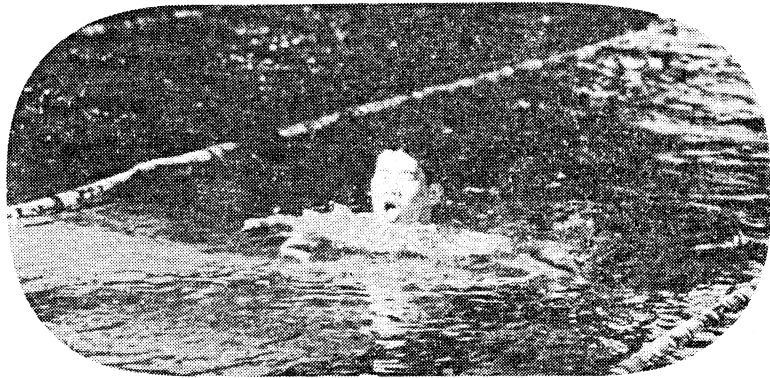
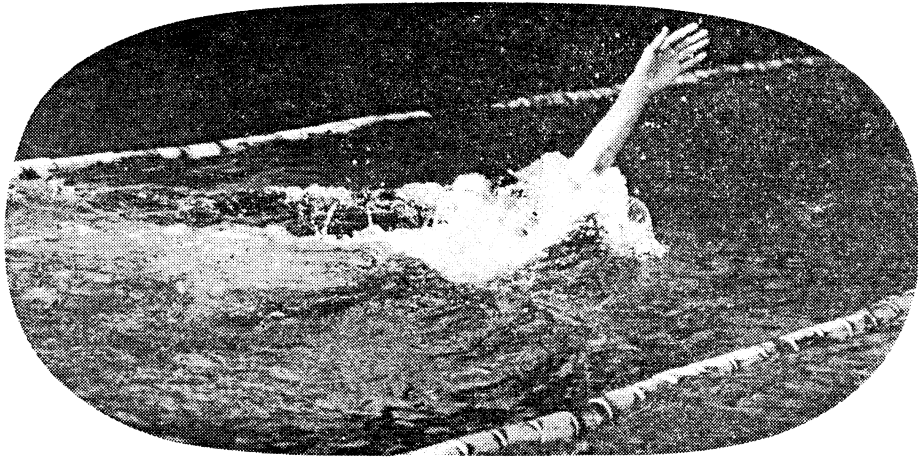
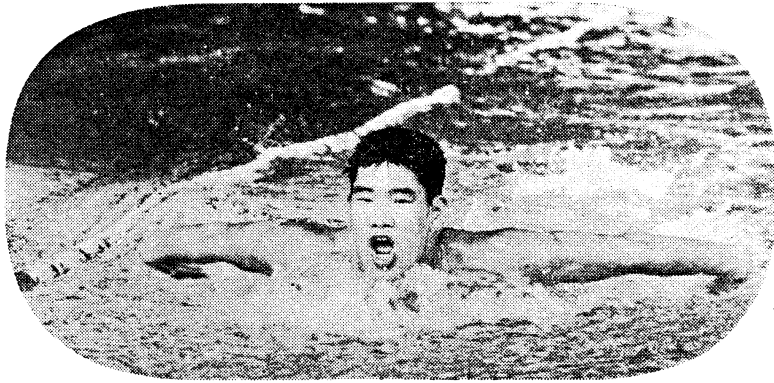
バタフライの両雄→
 左より佐藤選手，ペリー選手。

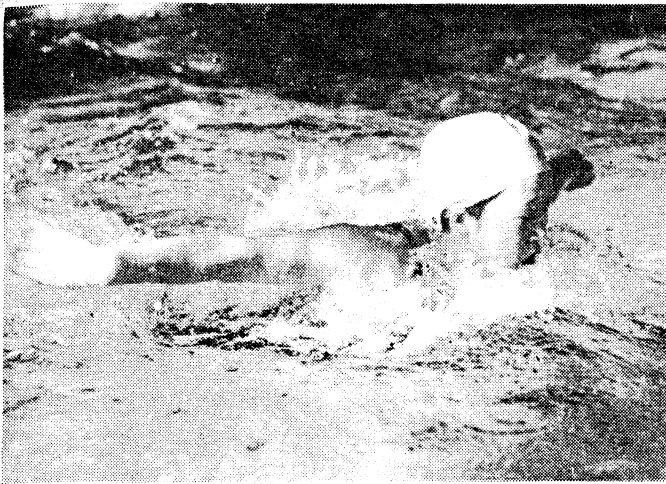


←200m 背泳の表彰式
 高石会長，福島選手，
 フィングルトン選手。

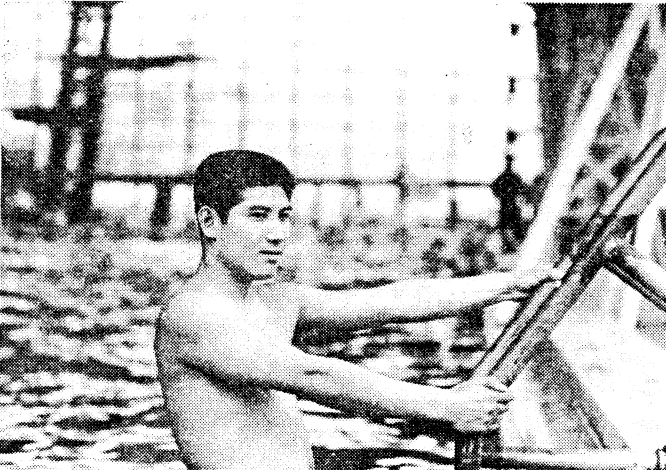
第5回室内選手権大会

400m 個人メドレーで新記録を出し好調の福島選手。

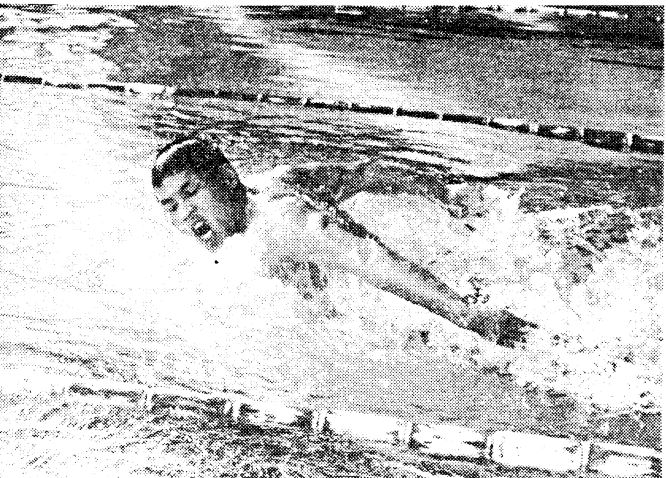




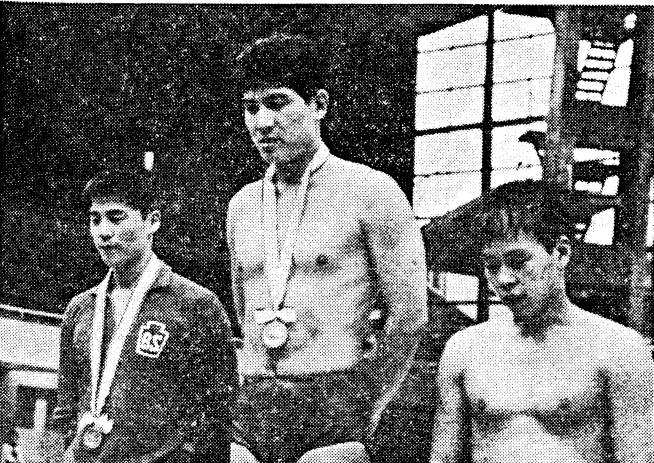
女子バタフライで日本新記録を出した高橋栄子選手。



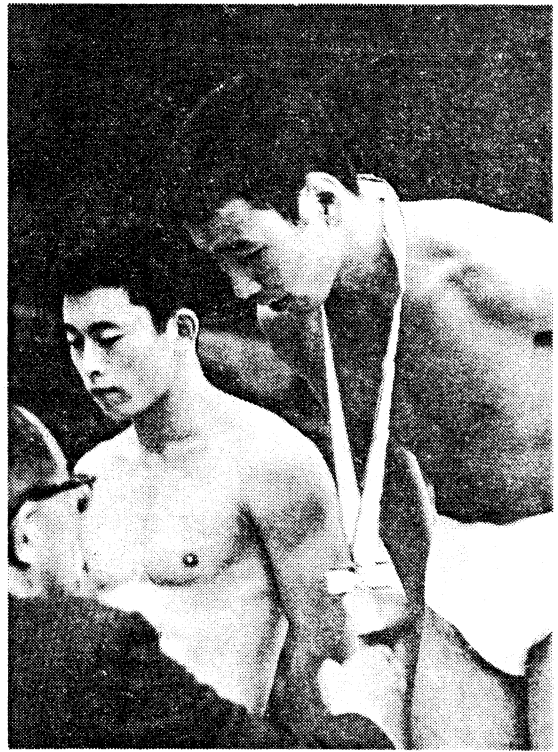
100m で日本人初の 55 秒台を出した福井選手。



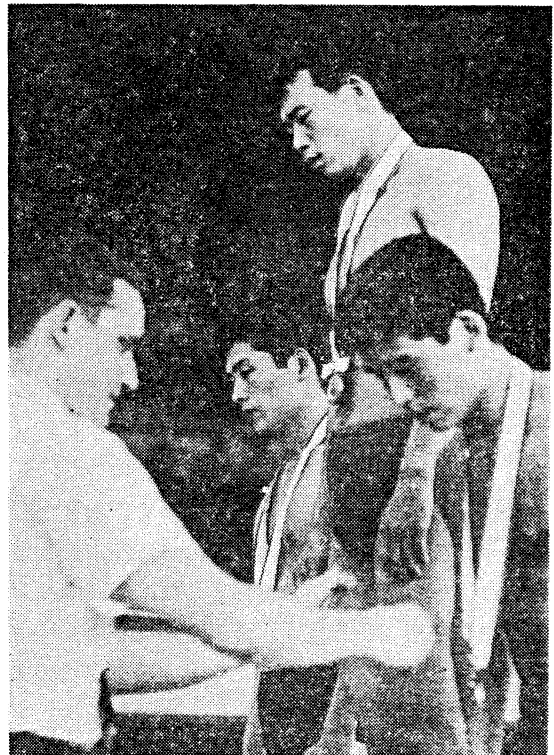
100m バタフライで好記録を出した中島選手。



200m 自由形決勝の表彰式
左より庄司（2着）福井（1着）岡部（3着）の各選手。



1500m で優勝した佐々木選手と
吉無田選手（2着）。



200m バタフライ決勝の表彰式
左より大林（2着）増永（1着）佐藤（3着）
の各選手。

オリンピックの前年を占う

昭和38年4月10日

於 水連丸ビル事務所

出席者 栗村 中丸・宍道 洋一・菊池 章
(発言順) 坂本 宗隆・金田平八郎・島田桃一郎

栗村 1963年度のシーズンも過日行われました第5回室内選手権大会により開幕されましたが、これから来年のオリンピックまであと1年6ヵ月を残すのみとなり、水泳界にとって、全く待ったなしの時期に到来した感じですか。そこで水泳連盟は、年中無休というか、「1年中がすべてシーズン」という合言葉の下に、相次ぐ強化合宿を行って、選手づくりに打込んでいる。その結果と申しましょか、室内選手権大会では日本新記録が続出し、まことに幸先よいスタートを切りました。本日はベテランの方々のご出席を得まして「オリンピックの前年を占う」という題目で、主として国際的、国内的両面にわたっての記録面から見た水泳界の実態と、これからとくに輩出するであろうところの新人群の展望などを織交ぜて、きたんのないお話をうかがいたいと思います。

すでにご承知と思いますが、読者の便に供するためお集りの方々を私から一応簡単にご紹介させていただきますと、まずは水連の第一線から退かれましたが、最近まで多年にわたって記録委員長、編集委員長を担当され、戦前から令名の高い宍道さん、それに毎号の機関誌に細密かつ詳細な外国関係の記録情報を寄せ、機関誌の権威を高からしめている坂本さん。島田さんは申すまでもなく全国各競技会の記録を取りまとめ、この道の生き字引的な存在です。お3人を称して、その頭文字をとって、「3S」と呼ばれていることも有名(笑)であって記録マニアというよりも、記録の分析、変遷等を通じて水連の目となり耳となってゆく、貴重な存在であります。菊池さんは全国高体連の水泳副部長として、またおひざ元東京都水協の幹部として、高校関係の取りまとめの責任者であります。金田さんは小金井一中、東田中の水泳部長として、熱心に中学生の指導育成に当っておられる先生であります。最近も新聞紙上に、東田中における金田先生の指導の実情が報道されまして、中学生強化対策の第一線の推進役であります。

それでは、まず過日の室内大会から話題にのぼらせようと思いますが、この大会では、ほとんど昨年室内大

会をしのぐ記録が生まれて、日本新記録も合計10個を数えている。この中には豪州に遠征した高校生によってつくられたものもありますが、とにかく多数の日本新が出た。そこで室内選手権大会の記録的な観点という意味でこれからの展望はどうですか。

宍道 この大会の前のオーストラリアの遠征が非常に華々しかったので、期待したほどではないと思うけれども、分析してみると、シーズン初めとしては、非常にいい成果が上がったのじゃないかと感じますね。

栗村 記録的な収穫という点では、一番取上げられるのはどういう点ですか。

宍道 新記録ではないけれども、私は増永君の200mのバタフライ2分14秒3あたりを、かなり高く評価しているのじゃないかと思う。それと、わずかに0.2秒であるけれども、福井君が56秒の壁を破って55秒台にはいったということだ。中距離はちょっと期待はずれ感じですね。女子はオーストラリア遠征が華々しかったので、疲れているのでしようけれども、それにしても全面的にいい記録だったですね。

栗村 増永君あたりはビッグ・レースにはファイトを燃やして、学生時代の気魄で、そのままの力を出しきって若手を押えて優勝しましたが、その点まことに見事ですね。福井君は、本人は、練習不足だったために、本来中距離に出るところを短距離に出たといっているが、たとえば、ターンでも、クイック・ターンをやらずに、普通のターンをやった。そういうことからいえばまだ伸びる余地があると思うが、本人はやはり200、400をねらいたい気持なんですね。そういう意味からいって、裏を返せば、福井君を除く短距離陣の不振を如実に物語っていることであって、今大会で強く感じたのは、後藤君をはじめとして、短距離若手陣の奮起一番をおねがいしたいということです。

菊池 その通りです。福井君はスプリンターですから今後も短かくてもいいのじゃないですか。200でも強いし、国体の実績からいえば100も強いですね。

栗村 オリンピック種目には400メドレーリレーがあるし、あのような記録が出れば、メドレー要員ということも当然でせうが、まことに、今後の福井君の行動半径が広がった感じで、指導者もその点に関心をもつものと思います。

宍道 今まで、国際的にみた場合、長い方から100専門に向って伸びた選手は見当らない。100専門かう伸びた選手はいるけれども。

坂本 それは回る時期の問題だと思うね。ヘンリックスだって長い方からきたんだし、チャプマン・デビットもそうだ。だから早い時期に短距離に回るかどうかだ。晩年になって回っても成績は上がらないのじゃないか。どういう時期に短距離へ回るかという時期の問題で、去年、おとしあたりの成績から見て、ぼく自身は福井、藤本、岡部の3人は、誰が一番先になるかわからないが100の練習をすねば3人とも5秒台を出るのじゃないかと思っていた。それが、福井君が先鞭を付けたわけで、練習次第で藤本、岡部も55秒台に十分いく可能性があると思いますね。

栗村 そのほかでとくに目立ったのは、福島君の背泳の活躍だと思いますが。

宍道 これは前から強いという評判だったし、われわれは期待通りの活躍をしてくれたと思う。とくに、オリンピック種目ではないが、100の背泳1分2秒1は高く評価していいと思う。

栗村 今度はオリンピック種目の背泳が200になり、これはストックの10秒9です。これを破るには容易ならぬ努力が要ると思う。福島君もこれから練習方法に工夫をこらしてやると思うが、かれの今後の課題はスプリントをつけることでしょうね。

菊池 西ドイネへいかれた竹林地さんがいわれたのですが、欧州選手は200でも全部クイックターンをやっているそうですね。福島君はその差で負けたそうですよ。

坂本 室内選手権では最初一回使った。

菊池 「全部やるくらいでない」といってました。本人も自覚していたからやると思ったが。

栗村 福島君は200の決勝ではクイック・ターンは最初だったですか。

坂本 隣りのコースの富田がターンでぐっと離されましたね。

栗村 クイック・ターンをフルに活かしていない……

坂本 男子の背泳で、予選のときクイック・ターンを一人もやらない組があった。

栗村 短距離のクイック・ターンは昔のキーファー・ターンのことですか。

坂本 いまのは腰から持ち上げるものだから、あれと

はちょっとちがう。

栗村 女子では田中聡子さんの活躍ですが、田中さんは体をこわして本来の記録が出なかったというが、それにしても100で1分10秒6を出している。田中さんについてはどんな風なことがいえますか。

金田 今度の室内選手権は、オーストラリア遠征後であるし、あの記録で十分ということは云えなくても、かなり良い記録だったということがいえると思います。

栗村 オーストラリアの活躍が高かったので、室内に期待が寄せられた感がありますが、彼女は今後十分スタミナと、スプリントを養成して、よりベターなものになっていくことは確かですね。

金田 シーズンが深まれば9秒は出るでしょう。

栗村 二線級で記録的な収穫というところ。

宍道 バタフライの大林君を筆頭に挙げたい。国際的にはまだまだだけれども、去年からみた伸び率からみると、一番じゃないかと思えますね。今度日豪対抗でもまかれて、国際的な試合に経験を積んでくれば、今年、来年は大いに期待していい選手だ。(島田中座から戻る)

栗村 島田さん、専門的な観点から収穫というものを

島田 女子がよくなり、日本記録が破れなかったのは、100m自由形と200m平泳、200m背泳ですね。背泳は田中さんが出れば破ったでしょうが、とにかく3種目を除いて全部日本新記録が出た。女子は相当に進歩していると思います。

栗村 国際的なレベルは？

島田 その点ではまだ田中、高橋両選手を除くとちょっと物足りないですね。400の木村、早川両選手はかなりよくなっているが、まだ世界的には二流程度。

栗村 それでも、昨年、一昨年から比べると、非常に飛躍を遂げているといえるでしょう。

島田 男子も総体的には上がっている。もっとも男子は世界のレベルまできているから、そう急には上がらないと思う、上向いていることは事実ですね。

宍道 女子は一般的に国際的レベルの糸口に着いたという感じだ。去年の下半期あたりから。

栗村 とくに、ことし急速に豪州で腕を上げた高橋は非常に期待される。岡田先生の熱心な指導が功を奏したと思いますね。

宍道 バタフライのフォームは簡単に直るのかな。高橋は見違えるようによくなったといわれているが。

栗村 上下動が少なくなっ、水面をはうように行くといわれますが、たしかにリズムカルスピードがある。

話の分野を広げて、これから第1回と2回の日豪対抗が東京と別府で開かれて、ことしの国際試合のフタ明けになるわけですが、これは接戦が予想されている。豪州

から強い選手がくるので、勝敗は分らない。それについて8月の日米対抗、10月の国際水泳競技大会と、ことしは大きな国際競技大会が3つもある。オリンピックの前年というか、非常にぜい沢な競技会が控えているわけです、それだけに選手ならびに関係者が張り切って、緊張していると思います。まあ、そういう国際大会がありますだけに、記録は向上していくと思います。

そこで、目を国内的に、新人の面に転じてみたいと思います。高校生でことしとくに活躍が期待される選手はどんな人ですか。豪州へ行った人たちを中心として。

菊池 木田、中野、石川、これらは動かんでしょう。あと諫早の古川ですね。

栗村 有望な選手はことし大学へ入学したわけですね。したがって、せばまってきますか。

宍道 しかし中学から高校へはいった新人もいますからね。いまのところははっきりしてないでしょうか。

島田 中野悟君がいいですね。2年生だが18分32秒1を出している。これは伸び具合を表にすると一番よい、昨年も一番伸びている。1500で2分、400で30秒近く伸びている。

栗村 女子で目ぼしい人は？

金田 自由形では木村トヨ子。早川一枝はものすごくいい根性を持っている。これでスピードがつけば、せり合うと強いので文句ない。練習中200で23~24秒を出しているが、レースになると、ラップにその記録で入ってくるんです。あのくらいファイトのある選手はなかなかいないですよ。

坂本 早川は木村といつもせっているが、スプリントがないと不利だね。

栗村 早川さんは、木村さんとせり合う形で、その意味でもいいライバルにみられているが、最近体を見ても中学時代より一回り大きくなったようですね。女子ではことし一番の成長株だ。

坂本 いま背の方に取られているが、肉が付くと馬力も付くでしょう。

島田 早川さんは、ことしは1500を泳いで記録を取っておく必要がありますね。800は相当のレベルまでいっているから……。

坂本 1500をやればいい記録が出るでしょう。

栗村 オリンピック種目でない1500をやらせることによって、強くさせるという意味ですか。

島田 それと記録を残しておきたいものです。日本記録は世界中の人が見るのですから今の記録でははずかしい。あの選手もだんだん短距離になってくると思うので

坂本 相当な記録が出れば本人も自信が付くでしょうし。

栗村 これに関連して、みなさんご承知の通り、いまでも水泳連盟の高等学校の最高記録として残っている1932年(昭和7年)に、当時の浜松一中の宮崎康二さんがつくった100m 58秒0、これは過日岩崎君によって破られたが、とにかく30年間というものは宮崎氏が保持していた。それは直ちに破られなかったという点、同氏の偉大さを物語るわけですが、同時に中学校の最高記録としても、1931年(昭和6年)、日本選手権で同じ浜松一中時代秒を出している。これは宮崎さんが14歳のときだったと思います。そういうわけで中学3年で59秒2、上級生になって58秒0という記録を30年ぶりでやっと岩崎君が破った。いかに彼がいい素材だったかということ立証するわけです。これは、案外ご存じない方がいるのじやないかと思って、あえて申し上げたのですが、あとの自由形にしても、特種目としても、ほとんど新人諸君によって破られている。もちろんこの記録はいまの国際レベルからはほど遠くなったわけです。そういう意味で、中学生、高校生が、どしどし記録の書き替えをやっていたらいいと思います。

島田 30年も破れなかったのは、戦後中学生が全国大会を開けなかったことも、一つの大きな原因じやないでせうか。

栗村 そうなんです。最近、高石会長によって強く主張され、中学生の全国大会が開かれるようになってから進歩した。これから記録は向上すると思います。

島田 おそすぎた感じですね。オリンピックのためにもう4、5年早かったらという感じがいたします。

菊池 昔は小学校からあった。

栗村 昔のインターミドルのようになってもらいたい。当時の中心はインターミドルで構成されたというけれども中学生や高校生の低学年あたりが、日本の水泳界をリードする方向へ、早く持っていってもらいたいものです。

宍道 日本のインターミドルの全盛は昭和5年から10年だった。そのころは大学生より中学生の方が強かった。選手権で優勝するのはほとんど中学生だった。北村牧野、宮崎、小池、なつかしい時代だ。

栗村 あこのころの神宮プールは、インターミドルという、満員の観衆で、大変な騒ぎでした。早くあいつた時代を再現したい。

宍道 中学生に力を入れれば、昔を再現することは可能だ。

栗村 それには、いろいろと水連の会長以下執行部も数年來苦勞されているが、文部省の教育方針など、いろいろ学校制度の問題があり、強い壁があって、それらの制約を打ち破ることができないということだったが、最

近水泳連盟が唱導して、選抜大会を設けたことは、スポーツ界にとってもエポック・メイキングだと思うのです。

金田 第1回大会から昨年の第2回大会にかけて、記録的にも非常に上昇しています。お話があった戦前のように、中学生や高校生が全日本の一線を占めることはそう急には無理としても、中学の大会に力をそそいでいただければ、そう遠からず大学生と肩を並べるところまでいくのではないかと。

栗村 アメリカにはエイジ・グループ・システムがあって、日本からも中学生諸君が派遣されているが、向うにも文部省に相当するものもあるでしょうが、日本のような強い規制がなくて、子どものときから自由に水泳を楽しみつつ、自然に訓練をする制度が出来上がっている。これは進歩の大きな土台になっているわけだ。日本も、そこまでいかななくても、いい選手はこちらでつかまえて、アメリカのようにしていきたいと思えますね。

金田 その意味で、昨年度の小学生のランキングをつくったことは非常にいいことだ。

栗村 あれはどの程度の学校が参加しているのですか

島田 去年は初めてなので、準備しなかった府県もあり、報告が少ししかこなかった。記録はまだよくない。それと、種目も50mばかりなんです。戦前は1500、800を除いて現在の一般種目をほとんど全部あった。

菊池 50にしても中には驚くような記録がある。

坂本 アメリカのエイジ・グループを日本式にやるには、年齢でなしに、学年別でやるのが一番いいのじゃないかと思う。中学校の大会を学年別にやれば、2年とか1年生にも励みがつくし、現在より以上に盛んになるのじゃないか。

栗村 小学生のランキングの問題については、普及委員会の上野先生の方でも、熱心に推進されているが、早くランキングにしても、また小学生対策も確立して、小学生から水泳が始まるという一つの方策をつくっていく必要がある。それにはPRを徹底していくべきですね。

島田 少なくとも各種目100mをやって貰いたいと思えますね。一昨年、女子100m自由形でいまアメリカへ行っている齋藤妙子さんが1分18秒で泳いでいます。小学校6年のときです。だから、100mは決して無理ではないでせう。この記録表が戦前の小学生最高記録です(表別掲)

栗村 37年度は50mm1本ですね、男女とも。

島田 そうです。ことしもそうです。

栗村 自由形も、特種目もすべて?

島田 男女ともそうです。

栗村 ことしの記録年鑑の昭和37年度の日本競泳ラン

キングによると、一般の部と高校の部と中学の部を一本にして、一目してわかるような仕組に編成し直したのは大変いいことですね。これをみると、高校生なり中学生が、自己の記録が一般の第何番目に相当するかがすぐわかる。ことしの競技会が終って、来年度またこれをつくるならば、上昇率もすぐわかる。ひとつ、大幅に飛躍していただきたいですな。

穴道 この表では、女子の中には、中学生の方がいいのがいますよ。

島田 高校と順位で競り合っている種目もある。

金田 背泳の木原。

栗村 400フリーの早川さんが中学生ではもちろん一番なんですけど、一般と比較すると第2位の記録だ。800は1位。100の平泳の葉室さんが第4位。バックでは木原が100で第4位という具合に、女子は一般の部に伍して好成績を挙げている。

坂本 中学生はもう少しレベルが上がったら、日・米・豪の通信競技をやったらどうかと思う。戦前、ドイツと通信競技をやったでしょう。ああいう式で。

栗村 いつごろやったの。

島田 昭和15年ごろです。

坂本 第2次大戦の初めごろだが、それにはもう少しこっこのレベルが上からないといけない。日にちを決めてお互いに競技会をやって、その記録を交換し合う。

穴道 ドイツとやったときは、日独軍事同盟を結んだりして、政治的に密接なつながりがあった、お役人が後援した、なんでもドイツというわけだね。そういう機運があった。それでやりやすかった。

栗村 「スポーツは平和のきづな」というし、非常に結構なことですね。これなら中学生が海外へ旅行する度合も少なくてすみますね。居ながらにしてできるわけですから、非常にいい案だ。強化対策の面からいってもいいですね。

坂本 太平洋をはさむ世界の水泳の3大国が通信競技をやる。

島田 このことは、7、8年前にも木村象雷さんから水連に提案された。ところがあのころは、日本では中学生は府県内の大会しかできないというときだったし記録も問題にならなかった。

金田 ぜひ実現していただきたいですね。通信競技なら問題はないのじゃないか。

栗村 金田先生は前に学年別競技のことをいっておられましたけど、あれは中学生ですか。具体的には?

金田 1年生と3年生は非常に差があるから、中学校全体で競技会をやった場合、3年生が出場して、1年生は出場のお機に恵まれることが少ない。そこで、何とい

っても大会に出るということは非常な刺戟であり、練習の励みになるのであるから、全国の同じ年齢の者が大会を開くということになると、1年生のときから本格的に、意欲を燃やして練習に励むことになるということですね。

坂本 学年別にすれば目標も近くなるし、自然励みになる。

栗村 今後小学生対策が強化されて、レベルが向上していくと、中学生の1年と3年の差がちぢまっていくことが考えられる。しかし、これは希望にあって、なかなかそこまですぐにはいきつかないと思うが、これは強化委員会なんかでご提唱になったことはありますか。

金田 競泳委員会で再三取上げようとしたことはあるんですが、実施面で実現不可能だった。東京都では学年別を行い、それによって、従来東京は弱かったのが、渡辺、石井、増田、福島といった優秀な選手が出ています。まだこの他にも多くの東京で生まれ育った優秀選手がいますが、やはり学年別大会がプラスしているのじゃないかと思えますね。

坂本 学年別をやっているのは、東京と九州の一部だ。高校、中学、できれば小学校もそうだが、やればプラスになる。だからなるべくやった方がいい。

金田 選手の層も厚くなるし。

栗村 山中君がこの間全米室内選手権大会で17分9秒を短水路で出したという情報があるわけですが、いい記録だと思いますね。まだまだ彼も選手寿命が長いし、今後が期待されると思う。

島田 あの大会の直前ですか、50mプールで17分25秒とかを泳いだとか、ゆう話しがあるが……

坂本 高石会長から聞いたが、山中から高石会長のところへ個人的に手紙がきているらしい。それによると、その直前にサアリを負かして、ロスの50メートルプールで出したそうです。だから、それだけの実力があるなら長距離は相当使えるですよ。

栗村 山中に次ぐ選手としては、藤島君と佐々木君がいるが、17分50秒あたりで低迷しているのではまだまだですね。短距離と同様、長距離陣の奮起一番をお願いしたいところですね。

坂本 佐々木はこの間の選手権では12秒で安定している。だからスピードをつけることだ。これから多田・中野とか、若い連中が伸びてくるでしょうが、いまのところさびしいですね。

栗村 外国関係についても、1962年度の世界ランキングをみると、まだまだ日本の選手は落ちるような気がするわけです。とくに100mでは、去年クラークが54秒3前年にはサントスが53秒台を出している。100mはオリ

ンピックの優勝記録としては53秒台という話が出ていますね。福井君が55秒8で、55秒台に突入したと喜んだが、短距離陣の奮起を期待するほかない。坂本さん、外国関係はどうですか。

坂本 55秒台では、世界の二流にやっとはいった程度だ。54秒台でなければトップクラスとはいえない。

栗村 去年のランキングだけで拾っても、55秒を出した者は21人いる。そのくらい100mについては、外国は人材豊富だということだ。とくにアメリカなんか、非常に多数の選手を擁しているということが立証されている。それから400、800、1500の3種目についても、去年のトップは全部ローズが占めている。ローズの選手生活の寿命の長さには驚嘆すべきものがあると思う。ローズは、もちろん東京オリンピックをねらっていると聞きました。長距離には山中君がいるにしても、油断ならんものがあるですね。

坂本 ローズがもし東京大会に出て400で優勝すると3連覇、今までオリンピックの歴史にいない。

栗村 400の優勝記録を予想すると何秒くらいですか

坂本 いまの世界記録よりは、少し、程度の進んだものになるのじゃないか。

栗村 13秒から12秒くらいと考えていいですか。

穴道 4分20秒を割らないと決勝に残れないだろう。

栗村 つまり、20秒を割ることに目標を置くということですね。1500の優勝記録は？

坂本 おそらく16分台でしょう。

栗村 去年ローズが17分15秒7を出している。

坂本 上昇のカーブから見ると、世界のランキングの首位は、ことしあたり当然17分を割って、16分にはいるところまでいかなければいけないと思う。

穴道 そうなると日本の長距離陣はさびしいですね。ことしあたりなんとかしてもらわないといけない。

金田 大切な時期ですよ。

栗村 ことしあたり長距離も芽を出さないと、おいていかれますね。

坂本 1500となると、一ぺんに20秒や30秒ははね上がるという例は沢山ある。だから、いま17分台だからといって悲観することもない。誰が急に伸びてくるか分らないですよ。

栗村 日本のお家芸の平泳は、ほかと比べて人材が豊富で、それだけに競争も激しいから、これから飛び抜けた選手が出てくると思う。とにかく200にしても優勝記録ば当然30秒を大きく割ることを考えなければならぬが、まだ日本には30秒を割った選手が出ていない。これからむずかしいところでしょう。

坂本 現在世界記録を持っているジャストレムスキー

は学業の関係でオリンピックには出られないようなことをいっていたそう。ことしが最後らしいが、彼が出なければ、一番の強敵はあとのアメリカ選手より、ソ連だ

栗村 プロコペンコやコレスニコフ？

坂本 そうじゃない。ソ連はプレストの層が厚いからこの2人に限らず、50秒を割る選手が沢山いる。だからソ連の選手全体を警戒すべきでしょう。

栗村 昨年の世界ランキングで、日本の敷石が2分33秒4で第4位にあるが、それに重松、松本とつづいている。ソ連のプロコペンコは2分32秒8で第2位、カレトニコフが同じく2分32秒8で3位だ。坂本さんのお話のようにソ連は相当な泳ぎ手が沢山いて、層が厚い。やはり警戒すべきでしょうね。

坂本 プレストは日本のお家芸になっているが、ソ連もおそらくそういっているでしょう。昔から世界のトップは日本とソ連が争っている。アメリカがプレストで出てきたのは最近ですからね。

島田 しかし優勝をねらえる圏内にあることは事実です。

栗村 バタフライでは、この前日本にきたニコラオが昨年100m57秒0を出して、非常に強い。200では豪州のベリーがやはり昨年2分9秒7を出している。

坂本 ことしは8秒4です。今度日本へきます。

栗村 この間の室内で増永君が14秒台を出した。去年佐藤君が13秒台を出してはいるが、ちょっと差がある。バタフライは楽しみな種目だが、外国勢は非常に強いと考えざるを得ない。バタフライについては、外国関係はどうですか。豪州、アメリカ以外で。

坂本 それ以外では、ヨーロッパにも、いまのところあまり強いのはいない。

栗村 問題の背泳ですが、福島君がどんどん成長していくという楽しみがあるわけですが、なんといっても、アメリカのピッチの早いストックが2分10秒9で、トップです。当然オリンピックでは10秒を割る記録で優勝すると思うし、福島君にしても苦勞が多いと思う。ストック以外はどうか。

坂本 ストックはことしの室内選手権では負けています。ビディックが100ヤードも200ヤードも取った。ビティグというのはこの前の日米大会のときにもきた古い選手だが、去年はリレーだけで、フラット・レースには出なかった。これがカムバックして優勝しているんです。そのほか、アメリカは背泳は豊富だから、これから誰が強くなるがわかりません。200の背泳はアメリカばかりでなしに、ヨーロッパ、ソ連にも強いのがいる。

栗村 西独はキューパースがいますね。

坂本 ソ連のバルビエル、東独やハンカリーにもいま

すよ。

金田 福島は100より200の方が勝負しやすいんじゃないですか。後半強いから。

栗村 外国は、アメリカ、豪州はもちろんのこと、ソ連、西独などが虎視眈眈として、日本のお株を奪おうと努力しているようで、われわれとしても油断できないわけですね。

宍道 ヨーロッパには、昔から「英雄的存在」というのがいるんですね。たとえばボウトオとかラーデマッヘルのように。しかし、やはりチームとしては日米豪の3国でしょう。まとまったチームを編成できるということでは。というのは、リレーは3国の中から1位が出るですからね。

栗村 結局、総合的には日米豪が強国ですか。

宍道 ただ、ヨーロッパから「英雄的存在」が出てくるということです。ソ連の平泳とかフランスとか。

金田 問題は400リレーですよ。これはフンドシをしめてかからないと苦しいでしょう。ことしから400が来て、オリンピックにもあるですからね。

島田 いまの力では3位までにはいれません。

菊池 800リレーでもものすごい記録になるでしょう

栗村 800と400とメドレー・リレーの3つですね。

宍道 つまり、短距離泳者の負担が重くなったということですよ。

島田 そうですね自由形が強くなっちゃダメだということですね。

宍道 だから、日本の弱点をついたような結果になった。

坂本 アメリカが一番喜んでいるでしょうが、400mはオリンピック種目としてばふさわしくないと思う。

宍道 インカレの200mリレーみたいなもので、ぼくは感心しないね。800リレーで代表していると思うよ。

坂本 しかし、ある以上、こっちも力を入れなければならない。

栗村 年齢層なんです。日本の水泳の年齢は、短かいといわれている。島田さんは平均年齢の統計を出されたことがありますね。

島田 昔は20歳位が最も強かったが、最近では室内選手権をみても、22～23歳の選手が優勝している。

宍道 年齢的な問題はいちがいにいえないのじゃないか。昔からみて、よく鶴田さんの存在が特異な存在だというのが、前畑さんだって、ベルリンでは23歳くらいだった。いまの佐藤喜子くらいの年だ、そうかと思うと、半面、宮崎さんのように15歳で優勝した人もある。これはやはり個人的な特性で、一般的にはいえないものだと思います。

う。

坂本 一定の水準を何年間保つか、ということ調べてあげれば、寿命が長いとか短いとかは、特定の間だけピックアップして、それをいっても始まらないと思う。

栗村 ワイズミューラー・アルネボルグ、にしても、第一線で活躍したのはそう若くなかったですね。あのころとは社会情勢やスポーツの事情もちがってきたと思うが、ことしはいま島田さんがいったように、20歳以上です。

島田 オリンピックに例をとると、ロサンゼルスで日本が圧倒的に勝った時の平均年齢が18才50、メルボルンで豪州が勝った時が平均18才36、ローマで優勝のアメリカが19才28と何れも若い。戦後日本は何れも平均21才位で負けている。室内選手権で22.3才の選手に若手が負けているのは誠に心許ないような気がする。もっとも年齢は何歳でもかまわない要は東京大会に強い選手を出場させて、勝って貰うことですね。

坂本 学制が変わって、若くして大学を卒業する。それで社会人になってもまだ相当つづけられる事情もあるのでしょうね。

島田 まあひとつには、勤労者大会などがそういうような役割をしているのでしょうね。勤労者大会へ出すために練習をつづけさせるといふこともある。

菊池 大学へいかないで、高校から直接会社へは行っていく。福井なんかはそうだ。

栗村 実業団がいい成績を挙げて、去年なんか大学生に追いついていったような記録が出ている。これはいい傾向だと思いますね。層が厚くなって、水泳人口がふえるわけだから。……

オリンピックも近くなって、水連も忙がしくなってきましたが、昨年来から「1年中がすべてシーズン」ということで、相次ぐ強化合宿で、練習に打込んだ結果、目ざましい進歩を遂げた。しかしあまり長く合宿練習をやり、レース数を多くするというのも、選手を疲れさすというか、反対の効果になるということにもなりかねないと思うのです。そこで、今後のそういう心構えについて。

宍道 朝日新聞の山下君が、「強化、強化で選手は泳ぎづめだが、水連はこういうことをまともに考えているのだろうか」ということを、去年のことを例にとって書いていたですね。つまり、シーズンが長すぎて、選手は休養を取るひまがないのじゃないか。去年のオーストラリア遠征で重松や、福島が出した記録をととう破れなかった。同じようなことを今年も繰返しては大変だといふのです。

菊池 オーストラリアから帰ってきて、小柳さんは、

「決してそんなことはない」ということを強調していた

栗村 強化合宿を1週間か10日ぐらい、短かくやっても効果はないと思うが、その辺のかね合いなんでしょうね。小柳監督が連れて行って、豪州でいい成績をあげたのは、初期の合宿を裏日本で長期間やったのが効果があったといっているのですが、ことしは3つの国際大会があるし、国内大会も目ぼしいものが沢山ある。これらの大会のうち、どこに目標を置いていいのかわからず、人間なま身だから、選手も大変だろうが、コーチの面からも問題はあるでしょう。

宍道 どこに目標をおくかといっても、第一線の選手は、日豪対抗から学校対抗の定期戦、オール・ジャパン日米対抗、インター・カレッジ、国際大会と休むひまがないですよ。酷使される可能性は十分あります。

菊池 小柳さんも、さっきの話のように強調したと同時に、「休養」ということをいっていた。それには年間の計画をびちっと立ててやらないとむずかしいといっていた。

栗村 ヨーロッパもそうだが、アメリカは室内選手権が盛んだが、室内大会と屋外大会に分けて盛大にやっている。やはり選手は年中無休だと思うが。

坂本 アメリカは室内と室外とシーズンがはっきり分かれて、室外は7、8月ごろ開く。屋外選手権のような、全国的な大会は一本で、あとはローカルです。室内シーズンにはみな泳ぐけれども、屋外になってから全然やらない選手もいる。ヨーロッパはのべつまくなしのようだ。

金田 何年か前までのやり方と、水連が最近打出しているシーズンオフの体力づくり、陸上トレーニングも相当考えているので、選手の体力は相当上がってきていると思う。だから昨年とか一昨年よりは、ことしはシーズンが長くてもいいのではないか。日本水連の目標で外国に追いつき、追い越そうというので、一年を2シーズンとか3シーズンに有効に使おうというわけで、年間のスケジュールをもってやっていけば、ことしは昨年のようなテツは踏まないと思う。体力的には相当上向いてきているから。ただ、問題は休養とか、どこにピークをおくか、やはり年間の計画が大事だ。

宍道 長い目でみれば、来年のオリンピックに勝つためにピークをもっていくべきで、そのためには今年の日米大会で敗れても仕方がない。当面の目標は来年10月のオリンピックだ。今までの努力はすべてそうなんだから

栗村 前は「日米対抗を制するものはオリンピックを制する」というジンクスがあったが、長い目でみれば、来年のオリンピックが一番大きな問題ですね。むずかしいことだが、そこにピークをおく。

金田 今度の合宿は室内選手権の前にやりました、一応は室内選手権で良い記録をのぞんだと思うんですが、あくまでも、その主目標は、夏によい記録を出すことにあったと思います。それで室内選手権の記録は両手をあげて喜ぶ状態ではなかったかもしれませんが、夏に相当期待できるんじゃないですか。

坂本 オリンピックの種目について。ひとつ陸上競技は普通の競技会にあるような種目は全部あるが、水泳に関しては種目がとても少ないと思う。そこで男子なら200のフリーとか、特種目は100、200ずつにする。女子は800なり1500なり、種目をもっとふやしてもいいのじゃないか。ブランデー会長も「種目をふやすことはかまわない。運営さえうまくいけばいい」ということをいっているのだから、その点の問題はないと思うが。

栗村 その点について、きのう準備委員会でも協議しましたが、オリンピックの大会日程を見ると、いまの種目で午前も午後も、プールの関係もあるが、いっぱいという感じじゃないですかね。

菊池 いまの日数ではきついですね。飛込みをまるっきり別のプール、ポロも別のプールということをやればできますがね。

栗村 2つのプールで3つのものをやるのだから大変でしょう。

島田 男子400リレーと個人メドレーを正式種目にふやしたが人数をふやしていけないなら、特種目の100m3つをふやせばよいと思ったのですがね。

坂本 人数は1国1種目1人は無条件、あとは標準記録に達した者を認めるということになれば人数はふえない。それに200のフリーと女子の長距離が一つほしい。

菊池 IOCの認めないのは種目より参加者だからね。

穴道 陸上でも女子の800が復活したからね。しかし陸上の800より水泳の女子の800、1500の方が過酷でないよ。

坂本 日本の選手権のことなんです、選手権でリレーを去年入れたが、また廃止になった。外国の例をみても、私の知っている範囲では、選手権にリレーを入れないのはおそらく日本だけだ。やめた理由ははっきり知らないが、結局選手の負担を軽くしようということじゃないですか。

栗村 クラブ組織が確立していないということじゃないですか。

菊池 大阪で去年やって、棄権が多くて、内容そのものがないということでやめたんですよ。栗村さんがいわれたように、クラブ組織が確立しておればいいが、日本の場合、クラブというより、学校とか職場、事業所の関

係で、いままでの慣習が残っているから、おいそれとリレーに重点をおいても、リレーというと、人数が多いしそれで経費の問題が起きてくる。

金田 しかし、400リレーをつくることによって、100メートルの泳ぎ手が多くなることはプラスだ。

坂本 私がいうのは、400がどうこうというのじゃなくて、リレーがないのは日本だけだから、リレーを入れたらどうかというのですよ。選手権に出るのは稲泳会とか、桜泳会とか、白水会とか、クラブの名前で出ているのが多いが、早大とか日大で出ても、リレーチームは自由に編成できるでしょう。別にクラブ組織が確立していないからということとは理由にならないと思う。

菊池 去年みてみると、非常に淋しいですよ。ない方がいいような感じだ。

坂本 なじみがないから申込みが少ないのでしょうか1年やってみて、すぐやめるのはおかしい。

菊池 でも、意味がないものはしょうがない。

坂本 2、3年やってからやめるのなら仕方ない。

栗村 外国の例からみると淋しいが、外国はクラブ制度が発達しているので気楽というとおかしいが、やりよい。日本はそこまでいってないような気がする。いまのお話のように、桜泳会とかで、OBも出るということになると層が厚くなるし、記録の向上からいってもいい。

坂本 それから、選手権では準決勝を相変わらずやっているが、準決勝はオリンピックと地区選手権、たとえばヨーロッパ選手権とかの大会だけで、どこの選手権でもやってない。準決勝をやめれば選手の負担はうんと軽くなる。タイムレースで、8人なら8人、予選ですぐ取ってやるふうにしたらどうか。

島田 ことしからそうなつたでしょう。

坂本 いや選手権はやっぱりやります。これはやめた方がいい。

金田 方法は、タイムレースとか、最後にもっていくとかありますね。実際問題としては、いままで遠征メンバーの選考を兼ねた場合に、個人レースに主眼点をもっていき、ムダなエネルギーを使わせないようにしようというのが各チームの問題点となつたのではないですか。

坂本 ムダなエネルギーは準決勝をやめれば使わなくてすむ。アメリカの選手権は個人メドレーは200と400あるが、2つともタイムレースだ。それでも1人2種目なんて制限していない。それで個人で多く得点したものを表彰している。準決勝というのは、選手層が厚くて決勝へ残る選手をなるべく公平に取るためにやるわけでしょう。いまのように仮りに100m56秒の選手と62秒くらいの選手と一緒にやって、上の方だけとっても、不公平ではないでしょう。選手層が厚いわけではないから、だ

から準決勝の必要はないと思う。

栗村 オリンピックの優勝記録を予想してみたいのですが。

坂本 オリンピックの予想は早すぎるのじゃないかな

栗村 100は53秒6ぐらいですか。400は15秒をもちろん割る。1500は16分台と考えていいでしょう。プレストの200は30秒を割る。200 バックも10秒を割る。200 バタフライはもちろん10秒を割る。女子についてはどうですか。

坂本 女子はいま短距離はフレイザーが飛び抜けているから、彼女が出るかどうかで大分ちがってくる。フレイザー以外には2秒を割る選手がいないから。

島田 水泳の予想はとくにむずかしい。何しろ高橋栄子さんのように、豪州へ行って突然世界記録をつくってそれも教えている岡田先生も驚いているし、本人も驚いているのだから。

坂本 ことしオリンピックをやるのなら予想もやるが来年、それも秋だからね。

宍道 まあ、しかし、男子はいまいったところだ。

島田 バタフライが6.7秒位までいくのじゃないでしょうか。

坂本 メドレーリレーだって4分を割るでしょう。800リレーはどうですか。8分内外になるのじゃないか。

菊池 800 リレーなんかは従来の常識では考えられないようなすごい記録になるでしょうね。

島田 こういう場合思うのですが、たとえば、田中さんがいい記録を出すと、すぐ「オリンピックの優勝候補」……ならまだよいが、優勝確実と報道される。あれは酷だと思う。いい記録を出すと、すぐ優勝はひどい。まあ大いに可能性はあるわけだが……

坂本 あれは精神的な負担になるでしょうね。

栗村 期待している証左でしょうが、報道関係はそういった点慎重にしてほしいですね。

菊池 勝って当たり前という雰囲気をもっていくのはいやですね。

島田 そうなんです。スキーの猪谷選手が3位になった時、運動競技に関心を持つ人はみんな大喜びだった。ところがヘルシンキ大会で橋爪選手が1500で2位になった、その時ファンが「何だ、だらしない」本人は表彰台の上でしおれている「国へ帰るのが嫌になった」という。水連には悪罵の手紙が沢山来る、こんな雰囲気にはされては、たまりませんよ。

宍道 私が感じているのは、女子の実力は非常に伸びている。日本もそうだし、外国もそうだが、現在の日本の女子の最高レベルの力は、丁度30年前の男子と同じなんです。30年前のアムステルダムで優勝したのは400は

5分1秒だったが、それがいまでは世界の女子のNo 1は4分44、5秒ですよ。800は10分そこそこだ。プレストは鶴田さんが48秒だったが、いまは女子200プレストは2分48秒です。バックも清川君とか河津君あたりが1分8、9秒だったが、いまの女子も1分8、9秒です。こういうふうには女子の力が30年前の男子と同じになっているんですね。

坂本 私もそれを調べてみたが、去年出た女子の記録で最高といわれるフレイザーの100が、女子の記録の中で一番おくれています。ワイズミュラーが昭和の初めに出した58秒6は世界新記録でしたが、それがいま59秒5でしょう。40年くらいおくれています。一番進んでいるのが個人メドレーで、1957年の長水路の標準記録を0秒1破っている。これは何年も開きがない。

島田 あれは割合を新種目ですからね、又、陸上でも100mは破れないように、短いほど破られるのがおそくなるのじゃないでしょうか。

菊池 100mになると、力とウエイトがかかってくるから、男子の100mとはちがう。

坂本 1500は古橋と橋爪が37秒を出したけれども、あの当時といまとのおくれですね。

宍道 この次のオリンピックあたり100m自由形にバタフライをやる者が出て、56秒台を出すかもしれない。これは分らないよ。

菊池 非常に近くにはなるでしょうね。

栗村 ではこの辺で、どうも有難う御座いました。

(終り)

昭和17年調査小学生最高記録

男子

50自	32.6	讚岐 寛	東京・鈴ヶ森
100自	1:12.6	古橋 広之進	静岡・雄踏
200自	2:42.4	古橋 広之進	〃
100平	1:33.2	岡野 信三	和歌山・橋本
200平	3:27.3	岡野 信三	〃
50背	40.3	榎谷 周二	〃 九度山
100背	1:32.4	木部 俊之	静岡・静浦

女子

50自	36.8	奥野 峯子	静岡・藤枝
100自	1:27.4	百田 サト子	和歌山・橋本
100平	1:34.1	市成 豊子	台湾・南門
200平	3:23.1	市成 豊子	〃
50背	44.8	笠松 敬子	和歌山・九度山
100背	1:41.0	笠松 敬子	〃

全豪選手権派遣選手団報告

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 目的 2. 構成 3. 日程表 (1)全豪選手権の日程とパースの環境
(2)親善試合日程について
(3)東京合宿について
(4)山代合宿について 4. 合宿地選定 (1)プールの全面使用の可能程度とコンディション
(2)栄養管理
(3)生活環境 5. 基本的練習計画 | <ol style="list-style-type: none"> 6. 具体的練習方法と資料の作成
(1)目標記録の設定とペース表
(2)練習量の内容と実施方法一覧表……………表 1
(3)練習種目の傾向(山代合宿)……………表 2
(4)個人別練習記録表
(5)インターバル平均記録最高一覧表……………表 3
(6)レースのための最小限インターバルトレーニング記録一覧表……………表 4
(7)¼平均記録一覧表……………表 5
(8)試合記録一覧表……………表 6 7. 反省と雑感 |
|--|--|

今回の豪州遠征を無事に終了し得ましたことは内外の数多くの水泳関係者の選手団に対する愛情と理解、そして惜しめない支援の賜と深く感謝し紙上をもって心より御礼申し上げます。

又コーチ並に選手の皆さんは国内に於ける激しい合宿、在豪中の苦しい転戦によく耐え、終始一貫日本選手団の誇りを持って行動し、和して流ることなく各自の最善を尽されたことに対し心より敬意と感謝の意を表します。

燦として輝く金城は一日にして成らず、東京オリンピックに日章旗を、の悲願の一助となることを信じ当時のデーターをその儘報告致します。

1. 選手団の目的と目標

東京オリンピックに勝つための全豪選手権参加であるこの遠征を通じて日本水泳代表としての誇りある行動に終始することは勿論シーズンオフの日本からシーズンインの豪州に遠征する生理的、心理的な不利を克服し、国際試合に馴れ、人の和を基盤としたチーム力で憶することなく有名豪州選手と堂々と戦い、各個人が好成績を収めると共にその貴重な経験を東京オリンピックに生かす意欲を持つことが今回の目的であります。そして選手は与えられた環境内で最善の努力を尽し、昭和37年度の自己最高記録をマークするか、破ることを目標としています。更にこの選手団の目的、目標を意義づけるため記録の整理は克明に行い、そのデーターに基づいて厳しい反省をなし、東京オリンピックの一助となることに熱意を持つことであります。

2. 選手団の構成

監督	小柳 清志(早大)	監督
男子コーチ	古賀 長善(三瀨高校)	部長
女子コーチ	平山 綽保(競泳強化委員)	
シャペロン	原田 静子(淑徳高校)	部長
マネージャー	末広 力(柳井商工高校)	部長
選手 男子	岩崎 邦宏(佐伯鶴城)	18 自、短
"	山影 武士(岡山関西)	18 "
"	藤島 祥三(柳井商工)	18 自、長
"	岩本 和行(柳井商工)	16 "
"	多田 寿之(尾道高)	18 "
"	木田 和夫(佐伯鶴城)	16 "
"	江本 正(柳井商工)	17 バタフライ
"	管 隆則(佐伯鶴城)	18 "
"	青木 守喬(日大豊山)	18 背泳
"	石川 健二(日大豊山)	17 平泳
"	山南 宏一(佐伯鶴城)	18 "
"	高島 光生(三瀨)	18 "
女子	佐藤喜子(ロート製薬)	24 自、短
"	江坂 君子(椋山職員)	19 "
"	木村トヨ子(筑紫)	16 自、長
"	早川 一枝(富士中)	15 "
"	高橋 栄子(佐伯鶴城)	17 バタフライ
"	斎藤 弘子(椋山)	18 "
"	田中 聰子(八幡製鉄)	21 背泳
"	木原美知子(旭中)	14 "
"	田上 和子(八代東)	16 平泳
"	山本 憲子(筑紫)	18 "

役員 5 名、選手 24 名（男子選手は高校選抜 12 名、女子選手は全日本選抜 10 名）計 27 名であります。

女子は日本の一線級であり男子は高校生のトップクラスとは言っても全般的には日本の二、三線級であります

3. 日 程 表

1月6日	山代合宿一期開始 正午集合	2	
7	前期（準備期、鍛練期）	3	東京合宿終了
8		4	
9		5	
10		6	
11	後期（鍛練期）	7	羽田発 17.00
12		8	
13		9	
14		10	
15	山代合宿一期終了 渡航、其他の手續のため上京 練習は休養を含めて休み	11	ブリスベン着 8.50
16		12	
17		13	
18		14	
19	山代合宿二期開始	15	全豪選手権開始 於パース
20	前期（鍛練期）	16	対クイランド州 於ブリスベン
21		17	
22		18	
23		19	
24	後期（鍛練期、準調整期）	20	対ニューサウスウェルズ州 於シドニー
25		21	
26		22	
27		23	
28	山代合宿二期終了	24	全豪選手権終了
29		25	
30		26	
31		27	
2月1日	調整期	28	パース発 バンコック着 バンコック発 羽田着 東京一泊 解団式

日程表の作成と検討は慎重にしました。何故ならば如何に練習を合理的にしても又選手の意欲を盛りたてても行動に円滑を欠くことにより思わぬ事態が生じて折角の努力が水泡となることが多いからであります。日程表作成につき次のことを検討しました。

- (1) 全豪選手権の日程とパースの環境について
- (2) 親善試合日程について
- (3) 東京合宿について
- (4) 山代合宿について
 1. 第三次オリンピック候補合宿の効果を直結させるため合宿開始時期について
 2. 合宿練習期の分割、渡航手続のため上京する時期と帰京の時期について

(1) 全豪選手権の日程とパースの環境

全豪選手権の日程は 2 月 15 日より 23 日まで 9 日間で、15、18、20、22 日が予選、16、19、21、23 日が決勝、17 日は休養日であります。予選、決勝と繰返される毎日一発勝負であります。日本選手にとってはブリスベン・シドニー、メルボルン転戦後の長期試合である為、負担が大きいことを予想しました。一発勝負と云っても試合前の選手の神経は異常なる刺戟を受け緊張度が加わることは変りがなく、又相手の実力不明のため予選から全力をあげることの必要性を感じました。この困難な日程を乗り切る方法は選手団の和と選手個々の意欲高揚と節制以外にないと判断し特にブリスベン、シドニー、メルボルンの転戦中に団体行動の厳守、外出禁止、食事の統制、観光気分の排除、自己の最高記録はパースで出すんだと云う意欲の注入に全力を挙げる必要があります。

パースはエンパイヤゲームの開かれた処であるので、プール施設の点は心配はないが問題はインド洋に面していることで気候的なものがシドニー程度か否かは全く不明であり、ブリスベン到着後調査する以外に方法はありません。又宿舎の状態、プールとの距離、食事等に不安もあり、この点充分パース到着前に予備知識を豪州水連関係者及選手より知得する必要がありました。

(2) 親善試合日程について

5 日羽田発、6 日ブリスベン着夜間約 15 時間の飛行旅行である。親善試合は 8 日ブリスベン、10 日シドニー、12 日メルボルンで夜間に開催される。9 日、11 日は各 2 時間飛行旅行。13 日は 4 時間 30 分パースまでの飛行旅行という強行日程であります。羽田発の 5 日よりパース着の 13 日まで 8 日間で飛行時間は約 24 時間、丸 1 日は大体飛行旅行であり、そして飛行場よりホテルまで又ホテルより飛行場と練習と試合に通う乗車時間等を計算するとこれだけでも目に見えぬ負担があります。気候的にもメルボルン、シドニー、ブリスベンと気温は高くなるし、冬の日本よりブリスベンではより負担を多く感じる事が予想出来ます。

6 日シドニー着、当地に於て 10 日まで調整することが全豪選手権のために選手団の負担を軽くすることと考えブリスベンの試合を止めるよう希望しましたが、豪州水

連の意向を尊重して実施することにしました。これら三回の親善試合は全豪選手権のための前哨戦と考え、気候食事、ヤードプール、試合の雰囲気、生活様式になれること、豪州選手の実力等を測ること、パースの環境を知り対策を建てること等の点について鋭意調整する必要があります。

(3) 東京合宿について

1日より5日出発までの5日間のプール使用は50米プールの午前中、25米プールの東大が午後であり、宿舎よりバスで練習に通い、食事は所謂旅館食であります。その上出発前の準備等で生活内容が激変するものと思われたので選手の体調には特に注意する必要があります。山代合宿の成果を保持するためにも、渡豪後の強行日程を無事消化するためにも、東京合宿は健康管理と練習は実戦的方法を採用し、生活は団体行動を乱さない程度で余り厳しくせず余裕を持たせるに特に留意することです。

此の間コーチは、出発諸準備を分割担当して支障なきよう万全を尽さねばなりません。従って選手は調整に専念しコーチは神経面に多くの負担が予想されます。

(4) 山代合宿について

開始時期については第2次、第3次オリンピック候補合宿の効果に直結させるため、早い時期を選ぶことがよい、従って12月27日に第3次合宿は終了するので10日以内に実施することが効果があると判断し1月6日より開始する。

合宿中に渡航手続、其他事務連絡の上京は練習の一貫性と効果を妨げることなく、練習期分割を優先し、適当な時期を選んで実施しました。

選手の体調を保持するため往復の旅行準備は万全を期し、特急券、寝台券の早期手配、車中食事厳選健康管理特に風邪の予防明朗の中に規律を持す等疲労を最少減にするよう留意する。山代合宿の練習は今全豪派遣の総べてであるため練習期は準備、鍛練、調整と分け更に前、後期と細分化し、練習日程は慎重に研究する。

4. 合宿地の選定について

日程表中合宿期間は、特に重要な部分なので合宿地の選定には慎重を期しました。合宿候補地を視察した結果一長一短はあったが山代観光センターを選定しました。

日程表作成とは関係はないが合宿地選定についての考え方は、選手団の要望する諸条件を充分満してくれるか、或はそれに近いものの中より合宿地を選定する必要があります。条件の主たるものは

(1) プールの全面的使用の程度とコンディション

(2) 栄養管理が可能かどうか、栄養士、献立の作成、変化のある料理、愛情のある料理等

(3) 生活環境の程度——部屋、寝具、便所、娯楽設備、食堂、プールと食堂、部屋との距離等

(1) プールの全面的使用が可能かどうか及びそのコンディション

プールは合宿期間中に於て如何なる時にも使用出来なくてはならない。一般公開のプール、共同使用のプール等に於ては時間的に制約されるし、水の濁る度も多い又落ちついて練習することも出来ません。

練習計画を建てる場合、如何なる時機に休養日をとるかは選手の体調と意欲の具合等によって定められる場合が多い。従って休養日の設定は適当な時にいつでも出来ること、練習時間を変更する必要性のあるときはいつでも出来ること等、プール使用が全面的に自由に使用出来る必要があります。

更に水温、室温、コース数、深さ、水質等プールそのものの内的コンディションと宿舎との距離等の外的コンディションが、よりよく併行されるものが必要であります。今回の選手団の構成は男子高校、女子一般、高校、中学と複雑であります。私自身大学生専門であるため1日も早く選手の泳法の特徴を知るためにも、又この複雑化を早く統一するためにも練習其他全面的に目が通ることを特に要望しました。50米のプールより25米の5コースは小さい感じはありますが、この要望を満すためには効果があったと思われます。又練習法も合理的に組立てることにより大きな不便はなく、プール、宿舎、食堂が一棟の中にあることも種々の不便さを解決することに役立ちました。

(2) 栄養管理が可能かどうか

練習量と質は栄養管理と併行して始めて効果があると言っても過言ではありません。有り余った費用で合宿を実施するならば別ですが、一定の予算制限があるので、より有効に予算を消化するためにも栄養士の献立表により栄養管理を実施することが大切であります。更に献立表も現地の栄養士により作成され調理されることが良いと思います。この点の可能かどうかは合宿地選定の一つの要素であります。合宿期間が長ければ長い程又練習が激しければ激しい程選手は変化のある料理、愛情のある料理を欲求します。鍛練期中の肉体的疲労、試合前の神経疲労による食欲減退には毎日食事に変化を持たせ、選手の好みそうなものを考慮するとか、盛りつけを良くし美味しそうに見せる、目で摂る栄養とでも云うか、愛情のある料理が非常に大切になって参ります。

栄養士の良否はこの様に重要な役割を果します。其の他調理場の設備、食堂、宿舎と食堂、食堂と便所との

距離を調査し調理者の検便，食器の消毒等を実施することが必要であります。水泳選手に限らず運動選手の肉臓の失患は致命的であるから夏の食事は充分配慮しなければなりません。

(3) 生活環境について

合宿生活は明るく規則正しい中から人の和を生むものでなくてはならない。激しい練習後の生活環境には周囲の愛情と理解と激励が必要であります。合宿地には水泳関係者或は水泳ファンがより多く存在することが何かにつけ環境を豊にしてくれます。これらの人的援助と，より良い設備が整っていること，環境の改善に合宿者自身が努力することが肝要であります。

以上の環境の条件を持ち，交通に不便を多く感じない静かな土地に合宿地を選定出来るならば，合宿効果は大いに挙るし，又これらの好条件は座して得られるものではなく常日頃から念頭に置き，種々の候補地を視察して選定することです。

5. 基本的練習計画

選手団が目標を達成するためには練習の基本的な考えを明確にし，その基本に沿って時機に応じた具体的練習法を立案することが大切であります。選手層の構成は複雑多数であるから男女別，種目別には分割せず，実力同等の選手を組合せ練習を実施し，記録の整理は忠実に実行し，コーチはその資料に基づいて研究，選手は反省と意欲を持つことです。

練習の構成は泳速を体得させる質的な方法を実施し，ペースの配分に主眼を置き，レースに於て常に自己のペースで泳げるための努力をすることです。

練習は忍耐力と克己心の養成であり，体力的限界をより高めるためには旺盛な意欲をもって練習すること以外にはありません。基本的練習方法の精神的背景はこの意欲であり，体力向上は合宿，遠征を通じて病気をしないことにあります。

1/6 山代合宿開始より 2/27 帰国までの日程表を検討し立案します。1/7～16 一期山代合宿は，準備期と鍛練期に分割する事。

東京オリンピック候補の強化合宿は第2，第3次に亘り実施され，12/27 第3次が終了するので，10日後に山代合宿が直結する事。

従来のシーズンオフの遠征に比較すれば，選手は良い状態と判断され，従って準備期としての調整は4，5日で鍛練期に入れる。この期間は長い距離のインターバルによる量的なスタミナ養成を主眼として実施する事。

コーチは出来る限り早く各選手の泳法等を把握することに努め，又選手団のチームワークの養成，健康管理

特に風邪に注意しなければならない。

1/19～29 二期山代合宿は鍛練期とする。

17，18日の渡航手続のための旅行，予防接種の影響，其他選手の体調を打診しつつ短い距離によるスタミナ養成を前期に実施し，後期は個人的な鍛練を主眼として，各個人の短所を是正することは勿論であるがむしろ長所の摘出發揮に重点を置く事。

山代合宿に於ては，試合直前の調整法は実施しないことを原則とする事。

東京合宿に於て実施する調整法に効果をあげる基礎をつくるために徹底した泳速体得の練習法を実施する事，日数的に完全な効果を挙げることは難しいが，コーチ，選手の練習法に対する理解と過渡的方法の立案実施により可能である。

1/31～2/5 東京合宿

午前中のみ50mプールを使用するので，長水路に馴れることに心掛けると共に短水路の泳速を長水路に移行しつつ調整を実施する事，山代合宿に於ける鍛練の度合と効果は東京合宿の調整法の良否に関連してくるので慎重にしなければならない。練習はスピードに重点を置き短時間で要領よく切り上げ，休養を充分とる様に心掛ける。

山代合宿，東京合宿に於ては記録会は実施せず， $\frac{1}{4}$ のためのインターバル， $\frac{1}{4}$ の練習方法により，レースに対するペースづくりを実施し，選手が試合に臨み自己のペースで泳ぎ得る自信を持たせる様にする。

2/6～14 親善試合

体調を整える程度の軽い練習であるがあくまで団体練習を実施し，節度のある練習を短時間で終了することにする。一試合毎に慎重に泳ぎその結果により次の試合のための反省をなし，三試合を通じたデータに基き調整方法を再検討し，全豪選手権により良い成績を挙げるために努力する。

2/15～23 全豪選手権

個人練習を主体として実施する。親善試合の結果により調整方法を決定する。以上が練習計画の基本的な考えであります。水泳の練習方法には絶対的なものではありません。しかしその中に於てより勝れた練習法を実施してこそ日本のために全豪派遣選手団の経験が意義づけられ，生かされるのです。この練習計画の基本的な考えを勇気をもって迷うことなく実施し，東京オリンピックに於ける勝利の一助となることを念願して止みません。

6. 具体的練習方法と資料の作製

具体的練習方法は，基本的練習計画に沿って，時機に応じて変化し，効果的な方法でなくてはなりません。目

的を達するためには具体的合理的な練習方法でなくてはならぬし、選手団の構成を考え対象となる選手の質、量を熟知し、日程表を研究して日程内に於ける可能な練習の具体化、或は合宿地の環境に合致した無駄のない練習方法等々既に慎重に計画され基本的練習計画に沿って、具体的練習方法は定められるべきであります。

資料の作成は、具体的練習方法の発展段階をより合理化し、毎日整理された記録を種々の角度より検討することにより練習効果の度合を具体的に把握することが出来ます。又厳しい反省をすることにより、次期練習方法はより有効な具体性を持つこととなります。資料の作成は選手に対し最も親切な方法であり、コーチにとっては最も大切な苦しい指導方法の一つであります。

(1) 目標記録の設定とペース表

各選手は目標記録を設定したならば、泳速を体得する練習過程を経て自分の特徴を生かした自身のペースを創り、目標記録を達成しなければなりません。

目標記録は各選手の実力相応でなくてはならないが、必ずしも可能なものに限定することはありません。むしろ高い所に目標を置き練習過程に於て努力を重ねつつ逐次修正すべきであります。

選手にはナタシオン紙の水泳記録表を参考として、自己のペース表を作成させました。ペース作成と併行して、インターバルトレーニングの泳速体得の必要性を強調し、練習中に於て目標記録の達成に意欲を持たすことに重点を置くべきであります。

ペース表に従って、断続的練習方法より出足、泳速、ラストパートの実感体得した後は、連続的練習方法によりスタミナの配分を体得しつつ目標記録に達するペースが組立てられなければなりません。

※ ペース表は、試合記録一覧表を参考……表6

(2) 練習量の内容と実施方法一覧表……(表1)

基本的練習計画と具体的練習方法の実際を系統的に整理するためには、練習の量的内容と質的内容を詳細に明示したものが必要であります。その内容は毎日整理された記録と比較検討されることにより効果の確認となり、全体の傾向を把握することになり、次期に移行する練習方法の資料となるのであります。

(3) 練習種目の傾向(山代合宿)……(表2)

(4) 個人別練習記録表

選手が自分の泳速を知るということは大切なことです。インターバルトレーニングの長所は色々ありますがこの泳速を知ることによって多くの特徴を持っています。しかしインターバルトレーニングが泳速の体得に本当に役立つためには詳細な個人別練習記録の整理をしなければなりません。この整理された記録により選手は毎日の自分

の記録を知ることが出来、泳ぐ毎に知ることが出来ますので練習そのものに興味を持ち意欲が出て来ます。コーチは選手の体調の傾向とか泳法と記録の関係とか更に選手の試合に影響する性格的な長短まで知ることが出来ます。距離、回数、インターバル、制限タイムの4要素からなるインターバルトレーニングには色々の目的がありますから、その目的に沿って選手が努力したかどうか、他に変化のあるインターバルトレーニングを採用すべきかどうかという判断をするためにも記録表は良いデータとなります。練習場で記帳された練習記録は個人別練習記録表に日附(1/25)練習時(AM, PM)種目(200m×5t-5')各回毎の記録の順に整理します。この記録表から先づ平均記録を出します。次に最初の回と最後の回を除いた中から最高記録と最低記録を出します。最初の回は不安定な場合が多いので除き、最後の回は余力を計ることもあるので除きます。

泳速養成を目的としたインターバルトレーニングでは全体の回数に最高と最低の差がなく、最高、最低と平均記録との差のないものが良いのです。

一例ですがA選手は平均記録が良く、最高と最低の差がありません。

B選手は最高、最低の差はA選手と同じです。平均記録は各種目とも悪かったが試合で強かったことがあります。A選手の毎日の平均記録が不安定であったのに対しB選手は安定していました。これが原因のすべてではないが参考になります。

(5) インターバル平均記録最高一覧表……(表3)

毎日整理された個人別練習記録表より、インターバル平均記録最高一覧表を作成します。この表にインターバル平均記録最高を個人別、日時、種目別に記入します。制限記録の設定、選手の体調変化の把握、記録の種目別比較等の研究資料となるので、平均記録最高の内容も良く検討することです。インターバル平均記録の最高が良いものが必ずしも試合に好成績を挙げ得るとは限らず、又悪いものが試合に不成績だともいい切れません。大体インターバル平均記録最高が種目別にムラがなく良いものは試合で好成績を挙げ得るし、加えて内容の良いものならば余程の原因のない限り間違いなく好成績は挙るものです。選手は自己の記録を記憶し練習で上昇さす意欲を持つことです。コーチは内容を良く検討した一覧表を練習場で所持し選手の意欲高揚させながら泳法、泳速、計時に注意をはらいながら指導することです。

(6) レースのための最小限インターバルトレーニング記録一覧表……(表4)

調整方法として $\frac{3}{4}$ 練習方法を実施するときに、練習種目の中でインターバルトレーニングは4つの要素を目

的に従って変化させ準備期としての、平均記録上昇のための、 $\frac{3}{4}$ のための インターバルトレーニングと移行し $\frac{3}{4}$ 調整方法を実施することになります。

今回の合宿で $\frac{3}{4}$ のための インターバルトレーニングを実施するには、期間の余裕がなかったので、レースのための最小限インターバルトレーニングを補助的なものとして採用してみました。

実施方法は（山代合宿26日AM 27日PM）（東京合宿の2日PM）に示してあります。これを一覧表として更に参考記録を記入してあります。この補助的な方法の良否は現在不明ですが色々の角度から検討することにより練習方法の一つの研究課題となります。この表の見方は下記の通りです。

山	200	41.0	44.0	46.5	45.5
	257.0	目標記録ペース 200m の 50m, 100m, 150m, 200m, の 50m のラップタイです			
	目標記録 2.56.5	50 ×	20 - (45. 37)		
	//26	41.74	44.68	① 43.6 ⑩ 45.4	45.41
	1/27	41.28	44.82	② 44.4 ① 45.4	44.42
本	2/2	40.14	42.77	① 41.6 ⑩ 44.1	44.42
	日付	50m × 5t - 60" 上から 200m の出足	50m × 10t - 30" 下から 200m のペース	50m × 10t - 30" 下から 200m のペース	50m × 5t - 20" 下から 200m のラスト
		平均記録	平均記録	上記が最高 下記が最低 ① } 記録された ⑩ } 回数	平均記録

- (7) $\frac{3}{4}$ 平均記録一覧表…… (表5)
- (8) 試合記録一覧表…… (表6)
- (9) 体重表…… (略)
- (10) 記録グラフ…… (〃)
- (11) 日誌…… (〃)
- (12) 其他の表…… (〃)

7. 反省と雑感

この報告には不備な点が多々あると思われませんが、派遣団が如何なる時期、条件で如何なる練習により、如何にして親善試合、全豪選手権に持てる力を発揮してきたかについては、出来るだけ卒直に報告した積りです。

この私達の方法が絶対に良いなどは考えてません。もっと良い方法があることは確実です。残念ながら水泳にはしっかりした理論、原理はありません。どんな方法でも知らされたり、見せられたりすることは有意義です。

しかし、一つの混成チームが組織されて、それを受持つ監督は一貫した自分自身の方針に従って自信も持って行動する必要がある、目的をはっきり定め、慎重に準備し、そして勇気を持って実行することであり、人間生身である以上失敗は当然と思われ、同じ失敗であっても自分自身が最善を尽した失敗である方が、他人

の無責任な言葉に従って失敗するより遙かによいと信じます。只オリンピックの失敗は許されません。オリンピックに最善を尽し、そして失敗をせず、勝つためには、今回の遠征の経験が多少役立ってこそ意義があると思われれます。

私達の今回の合宿地の選定、其他につき種々異論もあったようですが、北陸初の豪雪に見舞われ、山代より東京迄25時間の強行軍の果て幸にして帰ることが出来ました。この結果東京合宿の練習スケジュールを急変変更することになりました。この間関係者に心配をお掛けしたことになりましたが、この練習スケジュールの変更と関係者に心配をおかけした事は心から反省しています。其他は雑音が入らずに思い切って練習が出来、人の和が出来たことは満足であります。只合宿中数人の地方指導者が雪の中をわざわざ激励に来て下されたことは、選手団一同に大きな力を与えてくれました。多くの激励の言葉より一つの実行がどれだけ励みになったか御礼の言葉がありません。監督として又一現場の指導者としても心より感謝致します。

表 1 練習量の内容及実施方法一覧表

期	種目	内容	容	日	練習量			実施方法
					A M	総量	P M	
前期	④ 400m×5t-8' (40') ⑤ 100m×20t-2' (40') ⑥ 50m×16t-40' (20') ⑦ 100m×10t-2' (20') ⑧ 200m×5t-5' (25') ⑨ 50m×20t-1.5' (30') ⑩ U P, DW-400m (10') ⑪ P K-30'×5t-30' (10') ⑫ P K C-50m×10t (30') 陸上トレーニング	○基本練習計画に基づいて準備期としての種目の選定をした。 ○制限タイムをつけず、泳速についてもあまりこだわらないようにする。 ○総体的に量を多くしたのは次期鍛錬に備えて負荷感覚を少なくすること、又選手が耐え得るだけの体力が保持されているものと判断した。 ○⑩、⑪は長い距離を採用し、インターバル時間を長くとする、男子は、1500を中心とし、女子は練習量を考慮した。 ○⑫は短い距離を中心置く。 ○P Kの要領を早く習得させ30'を5t全力でゾルすることに重点を置く。 ○種目を選定し、各種目毎の所要時間を算定する(40')	④ 2,800	7,200	4,400	<p>○A M-午前 PM-午後</p> <p>④-長距離 ⑤-短距離 M-早朝</p> <p>⑥-フリーランニング P K C-プール・キック・コンバネーション</p> <p>⑦-スタートダッシュ D-リビリーダッシュ I D-個人メドレー</p> <p>⑧-プールは25m, 5コース, 選手は22名, 所定の練習量を消化し, 記録の正確を期するためにはコーチ選手は練習の実施要領を充分心得ることが大切である。練習前に納得するまで詳細を説明する。</p> <p>○⑩男女6人と⑪男女2人が交代, ⑫は泳力の順にA, Bの2組に分け交互にインターバルを実施する。</p> <p>○インターバル時間は残時間制とする。</p> <p>○⑩は実力相応の男女を別個に実施, ⑪は泳力順にA組B組と分け実力向上と共に組替えをする。</p> <p>○U P, DWは目的を理解して効果的に実施さす。</p> <p>○陸上トレーニングは④組と⑥組とに分けてU P前とI N後に最大筋力を主として腕, 脚, 背, 腹筋に重点を置き2セット交代して実施する。</p> <p>○P Kは全種目を同時に, P K Cは④組と⑥組の2組とし, 1組毎連続して実施する。</p>		
			④ 1,800	5,200	3,400			
			④ 1,800	5,200	3,400			
			④ 4,200	8,900	4,700			
			④ 3,000	6,700	3,700			
			④ 3,200	6,900	3,700			
			④ 4,200	8,900	4,700			
			④ 3,000	6,700	3,700			
			④ 3,200	6,900	3,700			
			④ 4,200	8,900	4,700			
			④ 3,000	6,700	3,700			
			④ 3,200	6,900	3,700			
			計	48,000	107,600		59,600	
後期	④ 200m×10t-4' (40') ⑤ 100m×20t-2' (40') ⑥ 100m×10t-2' (20') ⑦ 50m×20t-70' (24') ⑧ 200m×5t-5' (25') ⑨ 100m×10t-2' (20') ⑩ U P, DW-400m (10') ⑪ R D-50m×20t (15') ⑫ P K-30'×5t-30' (10') ⑬ P K C-50m×10t (30') 陸上トレーニング	○④のI Nは200m, 100mの距離にしたが、前期の400m, 100mの記録を参考として制限タイムをつけて平均をあげる努力をする。 ○⑤のI Nは泳法矯正と泳力不足のため、前期に引き続き同種目を採用した。R Dには特に注意する。 ○⑬は男女共練習量の不足が目立ったので長い距離を採用する。 ○今期はR Dを実施するが、これは普通のDとは異なりスピードは欠けるがスタート, 引継ぎとスプリントの養成のために実施した。 ○前期に引継ぎ P K-30'×5t を実施する。 ○総体的に練習量を多くし平均タイムをあげる。	④ 5,900	11,600	5,700	<p>○前期の実施方法を反省し, 次のことを後期に於て特に注意する。</p> <p>1. 練習時間を有効に利用するため練習種目は種目別の時間を算定して, 食事前30'に練習を終了するようにしてある。集合, 支度, 交代, 等の動作を迅速にすること。</p> <p>2. U P, DW-400mは自分の泳法を200m入れ, 相当の泳速で実施すること, 練習量が増加し疲れてくると軽視する傾向がある。</p> <p>3. ターン, タッチの特別な練習は実施しないので各人が練習中に意欲を持って実施すること。</p> <p>4. P K-30'×5t-30'或はP K C-50m×10t は1回1回全力で実施し特にフリーに注意すること。</p> <p>自由形の R K-30'×5t のキックは前, 左, 前, 右, 前の順序で実施すること。</p> <p>○今期は鍛錬期である, 練習量が多くなり, 疲労度が増えると選手には倦怠感が生じてくるので練習に気が入らなくなる, 選手に意欲を持たせるため, 平均タイム表をつくり, 平均タイム記録会等を実施したり, 日常生活に刺激を与え倦怠感の排除に努力する。特に病気には注意し, 薬品, 食事, 疲労, 其他生活環境の改善をなし, 予防対策を考えて早期発見に努力する。</p>		
			④ 4,900	9,600	4,700			
			④ 4,900	9,600	4,700			
			④ 5,900	11,600	5,700			
			④ 4,900	9,600	4,700			
			④ 4,900	9,600	4,700			
			④ 5,900	11,600	5,700			
			④ 4,900	9,600	4,700			
			④ 4,900	9,600	4,700			
			④ 5,900	11,600	5,700			
			④ 4,900	9,600	4,700			
計	62,800	109,700	46,900					
山代台宿	④ 23,600 ⑤ 19,600 ⑥ 19,600	④ 41,900 ⑤ 33,900 ⑥ 33,900	④ 18,300 ⑤ 14,300 ⑥ 14,300	AMはMの練習量を含む。				

期	種 目	内 容	日	練習量			実 施 方 法
				A M	総 量	P M	
2	④	400m×5t-8'	(40')	4,100	9,150	5,050	<p>○A-19日, 21日, 23日 B-20日, 22日隔日に実施する。</p> <p>○30'のインターバル時間はトランプでタッチした者より計時する。</p> <p>○RDは10tの時は3t, 20tの時は6t全員バタフライを実施する。10t~20tにしたのは練習終了時間の調整をするためである。</p> <p>○個人的に調整を要する者, 個人メドレーに出場する者は各人毎特殊な練習を組み入れる。</p> <p>○起床後階段登りを実施する。要領は約80段の階段を3t往復する。手を組んで頭上にあげ, 音, 背筋ののびはしり, リラックスしつづける。</p> <p>○INの2tは連続して実施せず間隔は1時間前後とする。</p> <p>○Dは間隔を充分とり1回つづつ確実に計時する。25mを先に実施し50mは25mの泳速を保持する様に努力する。</p>
		200m×10t-4'	(40')	3,100	6,150	3,050	
		100m×20t-2'	(40')	3,100	6,150	3,050	
		50m×40t-30"	(60')	3,700	9,000	5,300	
		100m×10t-2'	(20')	2,700	6,000	3,300	
		50m×20t-30"	(25')	2,700	6,000	3,300	
		50m×10t-30"	(25')	2,700	6,000	3,300	
		200m×5t-5'	(25')	3,700	9,000	5,300	
		100m×10t-2'	(20')	2,700	5,900	3,200	
		50m×20t-30"	(25')	2,700	5,900	3,200	
		50m×10t-30"	(25')	3,700	9,000	5,300	
		UP, DW-400m	(10')	2,700	6,000	3,300	
		PK-30"×5t-30"	(10')	2,700	6,000	3,300	
D-25m×10t	(25')	3,700	9,000	5,300			
階段登り 3t		2,700	5,900	3,200			
計		46,700	105,050	58,350			
前 期	種 目	別	練習量	④	18,900	45,150	26,250
				④	13,900	29,950	16,050
2	④	200m×10t-4'	9,000	9,000	5,300	<p>○26日 AM 27日 PM</p> <p>UP-400m</p> <p>100m×3t-60"</p> <p>100m×20t-20"</p> <p>100m×10t-20"</p> <p>(女子100m×10t-20")</p> <p>D-25m×10t-60"</p> <p>50m×5t-60"</p> <p>IN-50m×10t-30"</p> <p>50m×5t-20"</p> <p>PK-30m×5t-30"</p> <p>DW-400m</p> <p>○28日 PM 29日 PM</p> <p>UP-400m</p> <p>300m×3t-10'</p> <p>PKC-200m×1t</p> <p>UP-400m</p> <p>75m×3t-5'</p> <p>PKC-200m×1t</p> <p>RK-25m×10t</p> <p>D-25m×10t</p> <p>50m×5t</p> <p>DW-400m</p> <p>正確なスタートと計時をする, 泳ぎが力みすぎないように注意する。</p> <p>○PK-200m</p> <p>○スタートより全力を出し計時をする。以上のことをご注意する。</p> <p>○今期は実戦的練習方法を実施するが量的には少ない。一種目毎に全力を尽し, 質的な効果をおけることに重点を置く。</p> <p>○練習時間は充分なので組み分けを細分してよりインターバル時間を正確にする。余った時間は休養に当てる。</p> <p>○ベ-ースの体得とスプリントの養成が今期の主眼となる。</p>	
		100m×20t-2'	6,000	6,000	3,300		
		50m×40t-30"	2,700	6,000	3,300		
		50m×20t-30"	2,400	5,500	3,100		
		100m×20t-2'	3,400	6,500	2,600		
		100m×5t-2'	3,400	6,500	2,600		
		50m×20t-30"	2,050	4,650	2,600		
		50m×10t-30"	2,050	4,650	2,600		
		100m×10t-2'	2,700	5,500	2,800		
		100m×5t-2'	2,200	6,500	3,800		
		50m×20t-30"	2,200	4,650	2,450		
		50m×10t-30"	2,200	4,650	2,450		
		UP, DW-400m	3,450	3,450	3,450		
PK-30"×5t-30"	2,775	2,775	2,775				
D-25m×10t	2,450	5,900	3,450				
50m×5t	2,450	5,225	2,775				
RK-25m×10t	2,450	5,225	2,775				
PK-200m×1t	2,450	5,225	2,775				
階段登り 3t	31,050	77,950	46,900				
計							
後 期	種 目	別	練習量	④	11,250	29,350	18,100
				④	12,250	31,350	19,100
期	種 目	別	練習量	④	9,400	23,300	13,900
				④	9,400	23,300	13,900

○今期は1期の総決算の意味で, 種目内容を多く採用した。各種目の最高平均タイムを出すことに重点を置き泳速を各回毎に正確にする。

○早期練習を階段登りに切替える。

○スプリント養成のためDを組み入れRDも前期より泳速を要求するようにする。

○INにはIN-50m×10t-30"×2tを採用泳速を要求する。

○総体的に練習に変化を持たせ出足の養成に重点を置いた種目内容を採用する。

今期も前期同様変化のある種目内容とするが, 選手の上向の度合はスタートの点に於て, 特に良いと判断する, 然しスプリントの点に於ては稍々欠ける結果が見受けられるので, 前期より更に短い距離と少い回数をINの内容とし, D, RDは前期以上に重点を置いた。INの断続的なものを連続的なものとする。3/4のためINと3/4の調整法の準備のための種目を採用した。

期	種	目	内	容	日	練習量			実施	方	法			
						A	M	P						
東	④	400m × 5t-8'	50m × 40t-30'	400m-¾, I N	1500m-I N	④	4,400	7,700	3,300	A M (都プ-ル)	U P-800m I N-400m × 5t-8' 200m × 5t-5' 100m × 10t-2'	U P-400m I N-50m × 40t-30' 50m × 10t-30' 50m × 20t-30'		
							④	3,400	5,600				2,200	
							④	3,400	5,600				2,200	
							④	100m × 10t-2'	5,600				2,200	R D-44m × 20t (プ-ル権を往復) 3人1組 D W-400m
							④	50m × 5t						
京	⑤	200m × 5t-5'	50m × 20t-30'	100m-¾	200m-¾	⑤	2,525	2,525	2,525	U P-400m	D -25m × 5t-60" 上から全力 50m × 5t-60" 上から200m出足 I N-50m × 10t-30" 下から200mペース 50m × 5t-20" 下から200mペース	U P-400m I N-100m × 3t-60" 上から400mの出足 100m × 8t-20" 下から400mペース (女子 100m × 5t-20") 100m × 3t-30" 下から400mペース		
							⑤	2,700	2,700					
							⑤	2,200	2,200					
							⑤	2,200	2,200					
							⑤	2,200	2,200					
合	⑥	U P, D W-400m~800m	P K-30" × 5t-30"	P K C-200m × 1t	R D-44m × 5t~20t	D -25m × 10t 50m × 5t	2,700	2,700	3,100	U P-400m	R D-44m × 5t I N-100m × 3t-60" 上から1500m出足 100m × 15t-20" 下から1500mペース (女子 100m × 10-20") 100m × 3t-30" 下から1500mペース	⑥ ⑥ ⑥ ⑥ ⑥		
							⑥	2,200	2,200					
							⑥	2,200	2,200					
							⑥	2,200	2,200					
							⑥	2,200	2,200					
宿	○	今合宿期間に於て、¾に移行するための I Nが充分に出来なかつた。然し選手は山代合宿に於て泳速は程度の差こそあれ体得したものと判断したので、種目選定の内容は¾に重点を置く。	○今合宿で合宿練習種目選定は終了する。種目選定の難しさを痛感したが、各個人別に種目を選定しようとするれば、適切な種目があったかも知れない。多人数に対する種目選定はパーセンテージの練習内容しか出来ない種々の制限があった。	5	1,600	1,600	1,600	U -400m D -50m × 6t-2t K -200m D W-400m	⑦ ⑦ ⑦ ⑦					
					⑦	1,600	1,600							
					⑦	1,600	1,600							
					⑦	1,600	1,600							
					⑦	1,600	1,600							

○1日は選手の体調を知るためと長水路に馴れるため短水路の練習記録を参考とする。
○各個人のペース表を再検討し、調整練習を実施する。
○U P-400m だけで体調を整えることの難しさを選手に知らせるため、R DかDをU P-400m 後に組入れる。
○¾其他の調整練習法の記録により選手の可能記録が判断出来るので記録会には実施しない。

日	期	前後	種目	50 m					100 m					200m	400m	P.K	P.K.C	R.D	D	陸上 トンダ	
				5	10	20	40	5	10	20											
19日	9日	5期前	長短特																		
		7日~11日	長短特																		
山代合宿	7日~16日	4期前	長短特																		
		13日~16日	長短特																		
7日~29日	10日	6期前	長短特																		
		19日~25日	長短特																		
7日~29日	2日	4期後	長短特																		
		26日~29日	長短特																		

長 距 離

期	前後	50 m					100 m					200m	400m	練習量			
		5	10	20	40	5	10	20	前後期	1.2期	総量						
1期	前																
	後																
2期	前																
	後																

短 距 離

期	前後	50 m					100 m					200m	400m	練習量			
		5	10	20	40	5	10	20	前後期	1.2期	総量						
1期	前																
	後																
2期	前																
	後																

特 殊 目

期	前後	50 m					100 m					200m	400m	練習量			
		5	10	20	40	5	10	20	前後期	1.2期	総量						
1期	前																
	後																
2期	前																
	後																

表 3

(自由形)

インターバル平均記録最高一覧表

(特殊目)

於山代合宿及東京合宿

氏名	400m × 5t - 8'	200m × 10t - 4'	50 m					200m × 5t - 5'	100m × 10t - 2'	50 m	
			10t - 2'	20t - 2'	20t - 30'	40t - 30'	10t - 30'			20t - 30'	
氏名	400m × 5t - 8'	200m × 10t - 4'	10t - 2'	20t - 2'	20t - 30'	40t - 30'	200m × 5t - 5'	100m × 10t - 2'	10t - 30'	20t - 30'	
藤島祥三	① A.M. 5:04.3	② A.M. 2:26.62	② P.M. 1:09.19	② P.M. 31.46	② P.M. 31.92	② P.M. 31.92	② A.M. 2:50.2	② P.M. 1:21.80	② A.M. 38.33	② P.M. 37.98	
多田寿之	② A.M. 5:11.56	① A.M. 2:32.7	① P.M. 1:12.0	② P.M. 32.74	② P.M. 32.89	② P.M. 32.89	① A.M. 2:53.2	① P.M. 1:24.0	② A.M. 40.10	② P.M. 38.98	
木田和夫	① A.M. 4:59.24	② A.M. 2:26.74	② P.M. 1:10.67	② P.M. 32.53	② P.M. 32.69	② P.M. 32.69	① A.M. 2:53.16	① P.M. 1:24.3	② A.M. 38.83	② P.M. 39.12	
岩本和行	① A.M. 5:07.4	② A.M. 2:31.48	② P.M. 1:11.83	② P.M. 32.56	② P.M. 34.08	② P.M. 34.08	① A.M. 2:41.36	① P.M. 1:16.44	② A.M. 35.84	② P.M. 35.29	
木村トヨ子	② A.M. 5:29.8	② A.M. 2:40.95	② P.M. 1:16.9	② P.M. 35.37	② P.M. 34.99	② P.M. 34.99	② A.M. 2:37.84	② P.M. 1:15.68	② A.M. 34.88	② P.M. 34.69	
早川一枝	① A.M. 5:34.76	① A.M. 2:43.67	① P.M. 1:17.1	② P.M. 36.08	② P.M. 36.47	② P.M. 36.47	② A.M. 2:40.46	② P.M. 1:16.83	② A.M. 35.9	② P.M. 36.01	
	100 m	50 m									
	20t - 2'	10t - 2'	40t - 30'	10t - 30'	20t - 70'	20t - 30'					
岩崎邦宏	② P.M. 1:11.01	② P.M. 1:06.41	② P.M. 32.35	② A.M. 29.74	① A.M. 31.25	② P.M. 30.18	② A.M. 2:59.4	② P.M. 1:24.28	② A.M. 38.72	② P.M. 37.23	
山形武士											
佐藤喜子											
江坂君子	② P.M. 1:19.03	② A.M. 1:14.3	② P.M. 36.0	② A.M. 35.13	② A.M. 35.68	② A.M. 35.68	② A.M. 3:00.38	② P.M. 1:26.31	② A.M. 41.04	② P.M. 39.52	
氏名	200m × 5t - 5'	100m × 10t - 2'	50 m								
石川健二	① A.M. 2:50.2	② P.M. 1:21.80	② A.M. 38.33								
山南宏一	① A.M. 2:53.2	① P.M. 1:24.0	② A.M. 40.10								
高島光生	① A.M. 2:53.16	① P.M. 1:24.3	② A.M. 38.83								
菅隆則	② A.M. 2:41.36	① P.M. 1:16.44	② A.M. 35.84								
江本正	② A.M. 2:37.84	② P.M. 1:15.68	② A.M. 34.88								
青木守齋	② A.M. 2:40.46	② P.M. 1:16.83	② A.M. 35.9								
山本憲子	① A.M. 3:13.12	② P.M. 1:34.30	② A.M. 44.17								
田上和子	② A.M. 3:06.56	② P.M. 1:30.32	② A.M. 43.26								
高橋栄子	② A.M. 2:59.4	② P.M. 1:24.28	② A.M. 38.72								
斎藤弘子	② A.M. 3:07.28	① P.M. 1:29.77	② A.M. 40.05								
田中聰子	② A.M. 2:41.2	② P.M. 1:16.99	② A.M. 36.4								
木原美知子	② A.M. 3:00.38	② P.M. 1:26.31	② A.M. 41.04								

表 4

ローヌのための最小限インターバルトレーニング平均記録一覧表

於 山代合宿及東京合宿

山	200	41.0	41.0	46.5	45.5	田	200	34.0	37.0	39.0	3.70	多	1500	9.0	13.0	14.0	15.0
	2:57.0	50×20—(43.46)	① 43.6 ⑩ 45.4 ⑪ 44.8	45.41	2:27.0		50×20—(36.58)	⑦ 36.9 ⑧ 37.4 ⑨ 36.3	36.86	18:38.0	100×20—(12.0)		① 12.4 ② 16.0 ③ 13.0	12.50			
本	1/26	41.74	44.68	⑩ 45.4 ⑪ 44.4	44.42	中	1/27	34.62	37.25	⑦ 36.3 ⑧ 37.5	37.16	田	1/27	9.63	13.86	⑧ 14.2 ⑨ 14.7	8.36
	1/27	41.28	44.82	⑩ 45.4 ⑪ 41.6	44.42		2/2	34.80	36.55	② 37.1	35.76		2/4	10.26	16.5	⑩ 18.0	13.8
田	200	41.0	43.0	44.0	45.0	青	200	33.0	37.5	37.5	39.0	木	800	14.0	18.0	19.0	20.0
	2:53.0	50×20—(42.79)	① 42.0 ⑩ 43.6 ⑪ 42.0	44.64	2:27.0		50×20—(36.01)	① 37.0 ⑩ 37.9 ⑪ 37.0	37.50	10:30.0	100×20—(16.9)		① 16.2 ② 18.6 ③ 15.0	14.33			
上	1/26	41.24	43.0	⑩ 43.6 ⑪ 40.6	44.64	木	1/26	35.16	37.37	① 37.9 ⑩ 37.0	37.48	村	1/27	11.7	16.83	② 17.5 ③ 17.4	14.60
	1/27	40.88	42.71	⑩ 43.3 ⑪ 39.8	44.22		2/2	34.02	37.42	② 37.8 ③ 35.6 ④ 37.9	35.56		2/4	12.36	18.8	⑩ 21.6	19.06
齋	200	37.0	41.0	42.5	43.0	江	200	32.0	34.50	37.0	36.0	早	800	12.0	18.0	19.0	17.30
	2:43.5	50×20—(41.54)	① 40.0 ⑩ 42.5 ⑪ 40.6	43.72	2:19.5		50×20—(34.69)	① 34.7 ⑩ 36.2 ⑪ 33.6	35.62	10:26.0	100×20—(17.1)		① 16.2 ② 19.0 ③ 16.4	16.43			
藤	1/26	38.10	41.75	⑩ 42.5 ⑪ 40.6	44.38	本	1/27	32.26	34.47	⑩ 35.0 ⑪ 34.4	34.92	川	1/27	15.76	18.04	④ 19.2 ⑤ 17.8	16.93
	1/27	38.66	42.80	⑩ 43.0 ⑪ 39.5	44.38		2/2	31.92	35.59	⑩ 36.6	36.95		2/4	15.43	18.23	⑩ 18.9	17.30
木	200	38.0	40.0	42.0	43.0	菅	200	32.0	35.0	36.5	35.5	岩	200	29.0	32.5	32.5	33.5
	2:43.0	50×20—(39.52)	① 39.9 ⑩ 41.5 ⑪ 39.6	41.98	2:19.0		50×20—(35.29)	① 35.3 ⑩ 37.5	37.06	2:7.5	50×(10-29.74) 20-30.18		① 30.4 ④ 31.4 ⑤ 30.1	30.56			
原	1/26	38.26	40.88	⑩ 41.5 ⑪ 39.6	41.98	島	1/26	32.50	36.26	⑤ 37.5	37.06	崎	1/26	29.28	30.93	④ 31.4 ⑤ 30.5	30.26
	1/27	38.60	40.49	⑩ 41.4	42.24		1/27	欠	欠	⑤ 34.2 ⑥ 36.6	36.98		1/27	29.04	30.23	⑥ 29.5 ⑦ 30.1	30.62
高	200	36.5	39.5	40.0	41.0	藤	1500	7.0	12.0	12.5	12.0	山	100	27.5	31.0	32.5	37.0
	2:37.0	50×20—(37.23)	① 35.8 ⑩ 38.8 ⑪ 36.9	38.48	17:56.5		100×20—(9.19)	① 11.2 ⑩ 13.0 ⑪ 11.0	6.50	2:7.5	50×(10-29.58) 20-31.0		① 30.8 ④ 34.3 ⑤ 30.3	32.50			
橋	1/26	35.84	37.92	⑩ 38.9 ⑪ 38.9	38.52	島	1/27	8.03	12.04	⑩ 12.9 ⑪ 11.0 ⑫ 16.3	3.66	影	1/26	高(27.3) 28.40	32.18	① 30.8 ④ 34.3	32.50
	1/27	35.68	38.26	⑩ 38.9 ⑪ 34.8	38.52		2/4	8.6	14.0	⑩ 11.0 ⑪ 11.0	11.7		1/27	29.06	30.77	⑤ 31.1	31.62
石	200	36.0	40.0	40.0	40.0	木	1500	7.0	13.0	14.0	13.8	佐	200	32.0	35.5	37.0	37.0
	2:36.0	50×20—(37.98)	① 39.8 ⑩ 41.1 ⑪ 40.0	39.74	18:20.0		100×20—(10.67)	④ 11.5 ⑩ 13.8 ⑪ 12.0	8.23	2:21.5	50×(10-34.61) 20-35.06		① 34.6 ② 35.8 ③ 34.4	36.44			
川	1/26	37.62	40.23	⑩ 41.1 ⑪ 40.7	39.74	田	1/26	7.63	12.89	④ 13.8 ⑩ 14.0 ⑪ 14.0	7.26	藤	1/26	32.60	35.29	② 35.8 ③ 34.4	35.56
	1/27	36.58	40.17	⑩ 40.6 ⑪ 39.2	40.23		1/27	7.66	12.97	⑩ 14.0 ⑪ 11.0	9.16		1/27	32.76	34.85	④ 35.4 ⑤ 34.1	35.56
山	200	36.0	40.0	40.0	41.0	岩	1500	9.0	15.0	16.0	12.0	江	800	14.0	18.0	19.0	20.0
	2:37.0	50×20—(38.98)	① 40.2 ⑩ 71.3 ⑪ 40.0	40.30	18:50.0		100×20—(11.83)	① 13.4 ⑩ 16.4 ⑪ 14.0	12.06	10:30.0	100×20—(16.9)		① 16.2 ② 18.6 ③ 15.0	14.33			
南	1/26	38.40	40.60	⑩ 40.0 ⑪ 40.0	40.30	本	1/26	9.80	15.47	④ 16.4 ⑩ 16.1 ⑪ 13.1	8.86	坂	1/26	33.56	35.26	④ 36.2 ⑤ 34.8	35.40
	1/27	36.62	40.26	⑩ 40.7 ⑪ 39.3	40.72		1/27	9.53	15.27	④ 16.1 ⑤ 13.1	8.86		1/27	33.60	35.19	④ 36.0 ⑤ 34.1	35.78
高	200	37.0	40.0	41.0	41.5	島	2/4	9.73	16.0	⑤ 17.8	11.2	江	200	33.5	36.5	38.0	37.0
	2:39.5	50×20—(39.12)	① 39.6 ⑩ 40.8 ⑪ 40.0	40.64	18:50.0		100×20—(11.83)	① 13.4 ⑩ 16.4 ⑪ 14.0	12.06	2:25.0	50×20—(35.68)		① 34.2 ② 36.2 ③ 34.8	35.40			
島	1/26	38.52	40.28	⑩ 40.8 ⑪ 40.7	40.64	島	1/26	9.80	15.47	④ 16.4 ⑩ 16.1 ⑪ 13.1	8.86	坂	1/26	33.56	35.26	④ 36.2 ⑤ 34.8	35.40
	1/27	37.70	40.29	⑩ 40.7 ⑪ 39.5	40.76		1/27	9.53	15.27	④ 16.1 ⑤ 13.1	8.86		1/27	33.60	35.19	④ 36.0 ⑤ 34.1	35.78
島	2/2	36.04	39.10	⑤ 39.5	38.70	島	2/2	9.73	16.0	⑤ 17.8	11.2	坂	2/2	32.78	34.82	⑤ 35.3	35.64

表 5

3% 平均記録一覽表

於 山代合宿及東京合宿

山本	1/28	18.5	39.0 (20.5)	61.5 (22.5)	1:21.7 (20.2)	田中	1/28	16.0	33.0 (17.0)	51.0 (18.0)	1:09.0 (18.0)	佐藤	1/28	14.1	31.1 (17.0)	47.4 (16.3)	1:04.1 (16.7)
	1/29	18.86	40.16	61.3	61.0		1/29	17.00	35.13	54.13	53.4		1/29	15.0	32.03	49.33	48.6
田上	1/28	19.0	40.0 (21.0)	1:02.0 (22.0)	1:23.0 (21.0)	青木	1/28	14.2	31.6 (17.4)	48.7 (17.1)	1:06.9 (18.2)	藤島	30	1:03.0 (33.0)	2:11.0 (8.0)	3:20.0 (9.0)	4:28.0 (8.0)
	1/29	18.50	40.00	61.33	61.6		1/29	14.63	32.46	50.30	50.6		1/29	4.26	14.53	26.60	25.4
齋藤	1/28	15.0	32.5 (17.5)	51.5 (19.0)	1:11.5 (20.0)	江本	1/28	14.76	31.5	47.70	47.4	木田	31	1:05.5 (34.5)	2:16.5 (11.0)	3:28.5 (12.0)	4:40.0 (11.5)
	1/29	15.96	35.16	55.63	54.9		1/29	15.16	32.26	49.10	48.2		1/29	5.60	16.80	28.30	36.6
木原	1/28	17.0	35.0 (18.0)	54.0 (19.0)	1:14.0 (20.0)	菅山	1/28	欠	29.5	45.5 (16.0)	1:02.8 (17.3)	岩本	32.0	1:05.0 (33.0)	2:16.0 (11.0)	3:29.0 (13.0)	4:40.0 (11.0)
	1/29	17.10	36.56	56.60	57.2		1/29	14.56	31.30	48.00	47.8		1/29	6.76	19.13	32.43	34.40
高橋	1/28	15.16	34.63	53.56	56.6	影山	1/28	12.93	28.06	43.43	43.1	多田	32.1	8.66	22.53	37.10	34.40
	1/29	15.73	34.50	53.56	54.2		1/29	13.13	28.30	43.80	44.0		1/29	8.90	24.30	44.12	40.3
石川	1/28	15.0	34.5 (19.5)	53.5 (19.0)	1:12.0 (18.5)	岩崎	1/28	12.5	27.4 (14.9)	42.0 (14.6)	58.0 (16.0)	木村	33	1:09.5 (36.5)	2:25.5 (16.0)	3:43.5 (18.0)	4:58.0 (14.5)
	1/29	16.26	35.06	54.10	53.8		1/29	13.10	28.43	44.16	44.5		1/29	12.73	33.16	49.53	50.3
山南	1/28	16.10	35.36	54.33	53.5	江坂	1/28	14.5	32.2	50.46	50.1	早川	35.3	15.31	34.56	54.56	53.7
	1/29	16.30	35.83	54.90	54.8		1/29	15.26	33.06	50.96	51.2		1/29	15.86	37.13	58.10	55.0
高島	1/28	16.5	35.0 (18.5)	54.5 (19.5)	1:14.0 (20.0)	高島	1/28	14.97	32.6	50.53	51.7	高島	35.4	15.13	34.93	53.87	50.1
	1/29	16.23	35.56	55.33	55.6		1/29	15.26	33.06	50.96	51.7		1/29	15.86	37.13	58.10	55.0
2/4	15.73	35.26	54.73	55.2	55.2	2/4	14.97	32.6	50.53	51.3	2/4	15.13	34.93	53.87	50.1		

選手	学年・性別 (m)	目標記録 (メートル表) (m)	予選タイム	決勝タイム	順位
岩崎 100 200	58.4 2:09.0	12.5 27.4 42.0 58.0 29.0 1:01.5 1:34.0 2:07.5	12.2 27.5 42.4 57.0 28.9 40.8 1:34.4 2:06.7	37.2 57.8 29.0 1:01.3 1:34.2 2:07.1 30.0 1:05.6 3:27.7 4:39.1	27.4 59.3 28.8 59.6 1:32.6 2:06.1
山形 100 自背 400 個人メドレー	59.5 5:30.6 2:31.4	12.5 27.5 43.0 58.5	12.3 28.5 43.4 58.4 15.8 31.6 1:07.7	28.2 58.7 32.9 1:07.0	32.4 1:07.2 29.8 2:30.9 4:05.4 5:13.3 1:06.6
菅 100 200	1:03.5 2:22:3	29.5 45.5 1:02.8 32.0 1:07.0 1:43.5 2:19.0	13.7 29.5 1:02.8 31.2 1:08.4 1:45.8 2:23.9	30.0 1:03.6 32.0 1:08.4 1:45.8 2:22.1	29.6 1:04.3 30.9 1:06.9 33.3 1:10.2 1:53.9 2:28.0
青木 100 背	1:08.3 2:29.3	14.2 31.6 48.7 1:06.9 33.0 1:10.5 1:48.0 2:27.0	14.3 32.1 1:08.1 34.2 1:10.9 1:50.2 2:27.9	31.6 1:06.4 35 1:13.0 1:56.2 2:29.7	30.9 1:06.9 33.3 1:10.2 1:53.9 2:28.0
山南 100 平	1:11.5 2:37.2	15.0 34.0 53.0 1:12.5 36.0 1:16.0 1:56.0 2:37.0	37.3 1:18.3 1:58.1 2:36.5 35.0 1:14.4 1:56.2 2:35.4	35.1 1:15.7 1:51.3 2:39.1 15.8 34.2 52.7 1:11.9	34.7 1:12.1 35.2 1:15.2 1:55.7 2:36.3
石川 100 平	1:11.2 2:36.2	15.0 34.5 53.5 1:12.0 36.0 1:16.0 1:56.0 2:36.0	35.8 1:16.9 1:58.1 2:40.7 37.8 1:17.8 1:59.8 2:40.8	36.9 1:18.2 2:01.3 2:43.3 36.1 1:15.5	34.5 1:12.3 36.7 1:16.0 1:57.8 2:39.7 35.0 1:14.3
荒島 100 平	1:14.4 2:40.9	16.5 35.0 54.5 1:14.0 37.0 1:17.0 1:58.0 2:39.5	37.3 1:18.3 1:59.4 2:39.8 38.0 1:19.2 2:03.0 2:44.5	37.1 1:18.2 2:01.3 2:43.3 31.4 1:07.6	36.7 1:16.9 1:59.6 2:42.7 35.0 1:14.3
佐藤 100 自	1:04.2 2:21.4	14.1 31.1 47.4 1:04.1 32.5 1:07.9 1:44.7 2:21.5	14.4 31.4 48.4 1:06.0 32.4 32.4	31.4 1:07.6 32.2 1:09.4 1:49.0 2:28.5	31.5 1:07.6 31.6 1:07.7 1:46.2 2:27.2
田中 100 背	1:11.0 2:31.6	16 33 51 1:09.0 34 1:11.0 1:50.0 2:27.0	15.4 33.4 51.6 1:09.5 35.4 1:12.2 1:52.7 2:29.6	34.4 1:11.4 1:50.1 2:28.9 35.2 1:15.1	34.3 1:10.0 33.9 1:10.9 1:49.4 2:28.5
木原 100 背	1:17.3 2:43.0	17 35 54 1:14.0 38 1:18.0 2:00.0 2:43.0	16.2 34.9 55.2 1:15.7 37.3 1:19.8 2:04.8 2:48.7	37.2 1:20.0 2:44.5 14.6 32.5 50.8 1:09.6	36.7 1:17.9 2:01.5 2:43.6 32.8 1:09.8
高橋 100 200	1:12.5 2:42.0	33.0 54.5 1:11.5 36.5 1:16.0 1:56.0 2:37.0	14.4 32.7 1:09.7 34.6 1:13.8 1:55.0 2:34.3	33.0 1:12.4 35.4 2:58.7 4:38.1 5:58.9	33.8 1:13.0 1:52.0 2:32.2
斎藤 100 200	1:12.8 2:46.4	15.0 32.5 51.5 1:11.5 37.0 1:18.0 2:00.5 2:43.5	15.2 35.0 1:12.7 35.6 1:18.8 2:03.7 2:47.2 36.8 2:56.5 4:43.2 6:00.6 1:21.0	33.8 1:12.5 35.1 1:12.4 35.4 2:58.7 4:38.1 5:58.9	33.3 1:12.6 35.2 1:16.8 2:02.1 2:47.1 35.8 1:19.0 2:53.0 5:57.1 4:37.3
山本 100 平	1:22.2 2:59.3	18.5 39.0 1:01.5 1:21.7 41.0 1:24.5 2:11.5 2:57.0	18.1 1:26.9 2:13.2 2:59.5 40.6 1:27.5 2:13.9 3:00.9	39.8 1:22.6 40.9 失格 (1:26.7)	39.2 1:22.6 41.4 1:27.2 2:13.9 3:00.5
田上 100 平	1:24.5 2:59.6	19.0 40 1:02.0 1:23.0 41.0 1:24.0 1:08.0 2:53.0	18.2 1:27.5 2:13.9 3:00.9 40.8 1:27.5 2:13.9 3:00.9	40.9 失格 (1:26.7)	41.4 1:26.9 2:13.8 2:59.7
江本 100 200	1:04.8 2:22.9	30.5 47.5 1:03.5 32.0 1:06.5 1:43.5 2:19.5	32.3 1:08.9 1:47.0 2:23.2	30 1:04.1	41.4 1:26.9 2:13.8 2:59.7

アメリカに遠征して

金 戸 俊 介

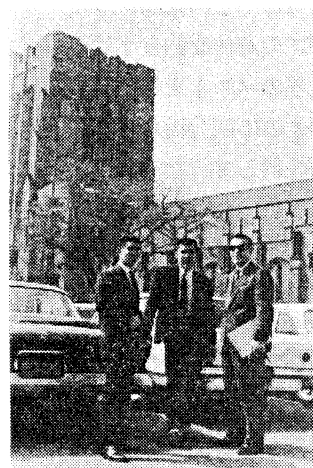
渡米日程

- 3月6日 11.30 羽田発
 6日 11.30 コロンバス着
 7日 午前2時間 午後2時間半練習(1m全種目)
 8日 午前2時間半練習(1m規定, トランポリン) 午後2時間練習(トランポリン)
 9日 午後2時間練習(1m全種目, トランポリン)
 10日 午前2時間半練習(1m全種目)
 (注) 8, 9, 10日オハイオ州インターハイでプールがフルに使えず。
 11日 午前2時間半練習(1m全種目) 午後3時間半練習(トランポリン, 3m規定)
 12日 午前2時間練習(1m全種目, トランポリン) 午後2時間練習(トランポリン, 3m規定)
 14日 午前2時間練習(1m全種目) 午後3時間半(トランポリン, 3m全種目)
 15日 午前3時間練習(1m全種目) 午後2時間半(3m全種目)
 16日 午前 (") " (")
 17日 午前 (")
 18日 9.00 コロンバス発~10.05 ニューヨーク着
 青山氏と共にニューヘブンへ約2時間, 夕方1時間練習(ユール大プール)
 19日 午前2時間半練習(1m規定選択2種目)
 午後2時間(午前に同じ)
 20日 INDOOR AAU 大会
 21日 "
 22日 "
 23日 " 試合終了 (22.00)
 後ニューヨークへ
 24日 午前休養 午後市街見物
 25日 9.00 ニューヨーク発~ホノルル着 17.05
 26日 14.11 ホノルル発
 27日 21.00 日本着

2月19日, 日本水泳連盟より, 土佐忠雄君と私のアメリカ遠征が発表されたが, 二人共あまり突然の事なので驚いてしまった。それまで土佐君は学期末試験の為, 私

は陸上トレーニングで殆んどプールへ行っていなかったのが余計である。

出発迄2週間しかない。慌てて飛込み始めたが, 出発の準備, 旅券の申請等で落ちついて練習は出



エール大学において右より青山氏, 川田君, 土佐氏来なかった。気ばかりあせり, 種目を作るので精一杯であったが, コーチの方々に「飛込の勉強に行くのだから調子は向うに行って整えれば良い」等と元気づけられ, 3月6日午前11.00羽田を発った。途中, ホノルル, サンフランシスコ, シカゴを経て, 午後5.30コロンバスに着く, ここのオハイオ州立大学のプールで17日迄学生達と一緒に練習である。

空港には, 川田太三君, ドン・ハーパー, オハイオ州立大学のダイバー達の出迎えを受け, すぐプールを見に行く。途中学校内をドライブして見せて呉れたが, 8万4千人収容出来るフットボール場3万人入るバスケットボール体育館校内の広さ等, さすが州立大学だと思ふ。室内プールは何十年か前に造った物だそうで古めかしい感じがする。

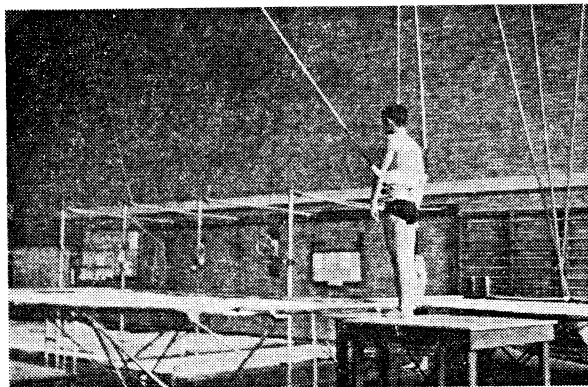
1mの飛板が2台, 3mの飛板が1台ついている。スタンドには千五百人位入りそうだ。私達があまり飛込の練習をやっていない事を話すと, 翌日からトジ・ハーパーについて練習をする様にして呉れる。それから1週間横の体育館でトランポリンをやった後飛込を行う。私達も日本でトランポリンの練習はやっているが前宙返り2回。後宙返り2回。捻り等は危険を伴うので, 余程上手



コロンバス空港にて マイク・ペッペ氏と共に

くならないと出来なかったが、この体育館には天井からロープで身体を釣り下げる設備があり、捻りもベアリング入りのベルトを用いて容易に出来たので空中感覚を取り戻すのに随分助かった。それ迄私はトランポリンと飛込を並行して行なうのは、バネの柔軟度が異なり、タイミングが合わないので無意味だと思い飛込、トランポリンと期間を分けて練習をやっていたが、この様に補助ロープをつけたり、飛込のコーチがついての練習（体操、トランポリン選手の回転、捻りは飛込の回転、捻りと同様に見えてもやり方が異なるので）は良いと思った。

マイク・ペツペもコーチして呉れたが競泳とのコーチを兼ねているので忙しそう。このプールの水深が3 m 50しかないので恐かった。



トランポリン練習

飛込に於て、一番うるさく云われたのが水中で行うセーヴィング（水しぶきを消し、入水の切れを良くする方法）である。私達の飛込は入水時、スプラッシュが多すぎ1、2点は損をするので真直ぐに入った時でもセーヴィングをする様云われる。最初このダイバー達がスプラッシュをすごく気にしているのをなぜかと思つて居たが、試合に於てスプラッシュの多いのと無いのとでは本当に1、2点の差があった。米国の審判がスプラッシュにあまりにも重点を置いているのはどうかと思った。セーヴィング本来の目的は、オーバー・ショットを真直ぐに入った様に見せる為のものであるから、絶対に憶えて帰れと云われ教えられたが、タイミングを覚える迄には相当の日数がかかりそう。

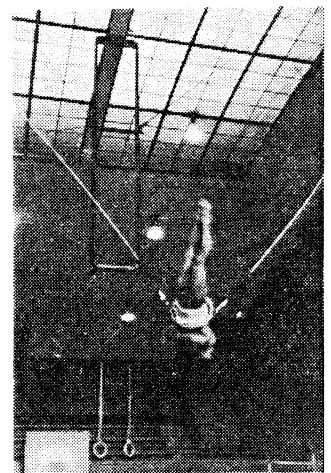
ドンハーバーのコーチは試合前であった為かも知れないが、実戦的であり極端に言えば、板に引っかけても回転を早くしろとか、入水を如何にしてごまかすか、何が何でも真直ぐに入水しろと云う様なコーチの仕方である事は理解出来るのだが、身体が効かないので同じ様な失敗をくり返すと非常に怒り恐かったが、覚えている日本語を駆使(?)しながら丁寧にコーチをしてくれたのには嬉しかった。

土佐君がプールの底で顔をぶつけ、私が貧血を起し倒れたり、最初のうちは大変だったが、15、6日頃には二人共大分調子が良くなって来た。

18日、コロンバスを発ちニューヨークへ行く、青山氏の出迎いでニューヘヴンへ行く。このエール大学のプールで試合が行われた。

1 m飛板2台、3 m飛板1台がついているが、出場選手は約60人位なので練習にならない。外は雪が降っているのに暖房があまり効いていないので、熱いシャワーで身体を温めながら練習をする。

20日、午前9.00から1 m飛板試合開始、出場者は61人、土佐君、予選では調子が良く6位で通る。準決勝で後踏切前飛込は良かったのだが、最後の前宙返り1回半で飛び出しは非常に良かったのだが伸ばすのが早く、練習中見た事もない様な大失敗して14位となつてしまった。楽に決勝



トランポリン練習

に残れたのに思うと残念で仕方がない。私は、前宙返り72回半が浅く、18位で予選落ちである。1位は、リチャード・ギルバート、2位トム・ゴムプ3位ルー・ビトシで全部日本に来た事のある選手である。

3 mの練習では、1台の飛板に50余人も集まるので7、8人のグループに分かれ、午前15分、午後30分等と短時間しか練習出来ず、1日15回も飛べれば良い方だった。

22日、3 m予選、出場55人、2人共調子悪く、土佐君21位、私31位で予選落ちしてしまった。何だか一昨日の1 m試合で気落ちした感がする。1位はリチャード・ギルバート2位、ケン・セッツバーガー3位、ベニー・ライトソンで2、3位はまだ高校生なので驚異である。又選手層の厚さも見事であった。少しの失敗も許されず、一例を上げると1 mに於て、昨年度の選手権者であり、ローマオリンピック大会高飛込優勝者であるボブウェブスターが23位で予選落ちしている。1、2点の差で10位ぐらいの違い、試合の厳しさを思い知らされた。

オハイオでの練習は非常に勉強になり、高度の技術を覚える事が出来た。今夏、ドンハーバーが来日との話があるので楽しみにしている。

来たるべき大会を目指し、今度の遠征での経験を無にしない様、今一度気持ちを新たに頑張って行きたいと思っている。

渡米中学生チームの競泳報告

藤 垣 亮 太 郎

御承知の通り、東京オリンピック強化策の一環として、中学生を対象とする、米国、カナダ（招聘）派遣水泳チーム（男子7名、女子5名、計14名）が発表、編成され国内に於て、18日間の合宿を終了、去る3月19日羽田発約4週間、米国及びカナダに遠征いたしました。云うなれば米国及びカナダのエイジグループ大会に参加、武者修業を行った訳です。では競技内容の概略を順次御報告いたします。

1. 競技日程場所及びその他について

(イ) ロス・アンゼルス地区（AAU南太平洋協会管轄）

3月23日（土）於 サミ・リー水泳学校（25mプール）ロスの宿舎より車で40分

3月24日（日）於 サン・フェルナンド・バリアアソレティック・クラブプール（25mプール）ロスの宿舎より車で30分

両日共参加クラブは約30で、種目は自由形200m迄、特種目200m平泳、100m背泳迄でした。7才以上17才迄の男女別種目別、タイムレースで競技が行われ、参加延人員は約1,600人でした。

(ロ) 桑港地区（AAU太平洋協会管轄）

3月30日（土）於 サン・レアンドロ・ケイスクールプール（25Yプール）オークランド宿舎より車で約15分

3月31日（日）於 " (") "

両日共参加クラブは、これも30で、種目はリレー以外自由形、特種目共100Y迄の短距離。5才以上17才（実際は招待として18才選手出場）の男女別、種目別レースで、午前中予選、午後3時より決勝、参加延人員は約1,000人でした。

(ハ) ポーランド地区（AAUオレゴン協会管轄）

4月6日（土）於 コルトノマ・アソレチック・クラブ・プール（25Yプール）市内

4月7日（月）於 " (") 市内

両日共、参加クラブは21。オレゴン州は勿論、ワシ

ントン州のタコマ、スポーケン、オリンピアを始めカナダよりヴァンクーバー、ビクトリアの各クラブ参加、三色で賑った。種目及び年齢別は前回と殆んど同様。第1日目は午後1時より予選、夜7時より決勝。第2日目は朝9時30分より予選、午後3時より同種目の決勝あり。蛇足になるが、会場のマルトノマ・クラブは75年の歴史を有し、各種競技を網羅し、その設備と会員たる名誉は大変なもので、現在約75,000人の会員を擁する伝統と歴史あるクラブです。ローマ・オリンピックにエイジグループで出場優勝した女子選手のウッド嬢の所属するクラブで、LAA（ロス）と並んで大変有名です。ウッド嬢に逢い話しましたが、東京オリンピックには出場しないとの事で一寸残念でした。

尚同クラブでは1968年のオリンピックに備え、来年より使用出来る様、50mの屋内プール建設に着手することです。尚一同元気であったが、本大会第2日目頃より、気温の変化と疲れの為か、背泳の和田君が風邪をひき、微熱を出し、一寸案じられましたが、よく頑張りました。

(ニ) ヴァンクーバー（カナダ水連のBC地区主催）

4月9日（火）於 パーシ・ノーマン・プール（屋内25mプール）市内

同プールは市内高級住宅街にあり、ダイビングプール（5m飛板付）と25mの競泳用プールを備え、片側約1,500人を収容するスタンド付の立派な近代的屋内プールです。招待、親善大会は、矢張りエイジグループの選抜大会の様子で10才以上17才迄を対象とし、自由形200mの外は総て100mの距離で競技が行われました。アメリカのエイジグループ大会に習ったと云いましょうか、同様なスタイルでイベントが実施されており、又されました。

吾々は最初のカナダ招待でもあり、一応ベストを尽し親善を果すべく心掛けた積りです。

選抜された各クラブ代表選手の中には、あとで報告いたします。記録を参照して戴けば明白な様に、例えば自由形の（各種目に出場）Ralph Hutton（16才）や女子平泳の Wilmlink 嬢（15才）の様に、かなり強力な選手が現れており、カナダ水連が東京オリンピックに対し、又今後の恒久策としてエイジグループ大会を強固にし、

大いに期待している事がうかがえます。多分今回の招待も一つにはそのテスト的な意味もあった事と私は想像して参った次第です。

(※) ハワイ地区 (AAUハワイ水連管轄)

4月11日(木), 12日(金), 13日(土)

於 カイムキ, ハイスクール・プール (25Y) 市内の宿舎より車で約15分

丁度, 米国のイースタン, ホリデーの週末に当り, 同地区18水泳クラブ所属, AAU登録選手約750~800名参加。例の如くAAU規定通り, 男女年令別 (7~17才), 種目別のインドアの選手権大会に, ゲストとして参加した訳です。勿論3月19日ロス直行の際同地に於て, 帰途ハワイ, エージグループ大会に参加の件, 強力に申入れ, エントリーして置きました。これに関連して小林氏及びエリオット坂本氏に大変お世話になった次第です。又坂本コーチ(ハワイ・スイミング・クラブ) フォード紺野氏, 仲間氏外著名水泳人達と懇談しましたが, AAUエージグループに於けるハワイ地区の比重及び盛大な事を認識しました。当地に於ては日本のエージグループ大会に相当する中学大会に参加したい希望がかなり強い様です。競技は3日間共朝7時30分~午後1時過ぎ迄予選, 同夜7時~10時30分迄同種目の決勝が行われました。本大会を通じて, エージグループ別のハワイ記録を突破した所謂ゲスト記録が男女, 自由形, 平泳, バタフライ等, 合計10種目以上に樹立され, 一応招待に副ったと云うべきで, 掉尾を飾って呉れた事を嬉しく思っています。就中, 事前のエントリーに於て男女中距離(400Y)の種目を追加して費いましたところ, チーム自由形陣が揃って自己本来の片鱗を發揮して呉れ, 会場の注目を集めた事を特筆いたします。併せて, ハワイに於ける女子のC. Higgins (100y, Free 58.4) や男子のShibasalsi (100y, Back 58.0) 等代表的な選手の力強い泳ぎが印象的で注目に価値すると思いました。では各地区大会の成績記録を次に報告いたします。

2. 各地区大会の記録報告について

「別紙添付記録表から参照して下さい」

以上を結果よりみますと, 一応, 当初(ロス大会)の調子が最後まで持続されたと判定出来ると思えます。即ち約1ヵ月間の遠征に於て, 平凡ではあるが, コンディションが持続出来たのではないかと考えています。これは年令的なものに(若さ)関連していると思えますが, 他に選手各位の自覚と健康に負うところ大であったと思っています。

但し, 出発当初より懸念していた時差に依る疲労など

充分考慮して, 第1戦に備えた積りでしたが…。休養が充分であったか, 又適当であったか検討の余地はあると思っています。その他第一戦の判定には急激な環境変化に依る心理的な面も加味せねばならないと改めて反省している次第です。以上, 勘案の上よろしく御批判下されば幸甚です。

3. 各地区大会で肝銘したことに就て

この項で報告する事は既に昨年度の渡米派遣コーチや永らくロスで水泳のプロコーチをやっておられたロイ中井氏の報告や講演と重複するものですが, 改めて各地区大会を通じて感じた客観的事項を報告いたします。

(イ) 低学年(6, 7才)より選手は殆んど全部個人メドレーをこなして競技に参加していること。

(ロ) スタート前のウォーミング・アップは全然行はないし, 又一般に禁止されていること。

(ハ) 競技者のスタートの構えが迅速であり, 又ターニングに至っては全部クイック・ターンの技術を忠実に実施していること。

(ニ) 各人最低3~4種目に出場していること。

(大体大会は土, 日曜日の半日, 又は1日にわたって実施されている)

これは肉体的にも精神的にもハードなトレーニングです。低学年より, この調子で, 毎月一回又はシーズン中ともなれば隔週置き位に競技している訳で, 云はば自然に低学年より競技に対する根性を養成している様にみうけました。然もプールに於ける他の設備に比較し休養設備は殆んど見当らず, 又休養スペースがありません。系列的に考えれば個人々々は低学年より積重ねて高学年に至るまで, 以上の様にムードな条件下で選手が養成されている訳になると観察しました。

(ホ) 各地区大会に参加する人々の多いことについて

組織的には, クラブ及びプロコーチ制度の発達に依るものですがエージグループ大会が家庭グルミのリクレーション大会の様相があり, これも一大要素です。

声援は勿論, 競技役員及び実施, 選手の送迎等全部選手の家族の方々がやっておりますこの様な家族の情熱の主なる原因は, 第一に身心の健全と, 第二に勉学と云う一石二鳥の念願に相関々係がある様です。一寸掘下げてみますと, 今米国に於いて, 最大の社会問題の一つは青少年の不良化防止の件で, これには学校家庭の外, オブディミスト, クラブと云う全米に組織をもつ, 社団法人がスポーツを奨励し, 側面的に一大運動をやっている事が大きく影響してますます家庭のスポーツ熱を向上している様です。それに, 中学以上の場合, 学業成績が一定

基準以上でなければ選手のスポーツは禁止される仕組です。そこで家庭では低学年（5,6才）よりスポーツに参加させて、興味と成績を挙げさせ、高学年になればいよいよスポーツを伸長すると共に勉強も並行して実績をあげさせ併せて不良防止化が出来る一石三鳥の手段だと、云う事を幾人もの両親より教えられました。この様な背景より5—10才位の水泳人口は龍大なもので、この人口を基盤として自然に分厚いトップの選手層が出現する事を痛感しました。

以下蛇足になりますが、プロコーチの指導、規律は大変厳格で、又家庭と学校の三者の連絡は緊密です。家庭の競技役員にあっては、現在クラブを組織し、AAU指導のもと競技役員としての資質向上を目的に各種研究会の例会を開催して居り、力の入れ方は大変なものです。又コーチは相互にグループ研究会を定期的にやっている様で、特に弱体競泳種目に就ての研究討論が盛んな事を耳にしました。

(v) 各種目共、選手のペースは飛出し戦法であること日本でもいつも云はれている事ですが、エージグループを観て一様に感じた事は、低学年も含めて、飛出しのペースの様でした。これは幼少からの意識的なコーチやプール（短距離）使用と云う事が大きく原因しているのではないでせうか…。

4. エージ・グループ大会に参加しての所見

五地区、約1ヶ月の大会を終了して、最後の所見を取纏めて申し上げます。泳法の技術的な面に於ては、正直云って肝銘した事はなかった様です。

現在のレベルからみて、トレーニング方法にコーチ各人多少の異論は、あっても、人的物的なものを糾合してダイナミックな泳力養成を目標に精進している事は充分察知いたしました。各地区共、比較的天候気温に恵まれ

（大体一年中泳げる地区が多くシーズンが長い）ている他、前にも申し上げた様な大変良好な環境と米国らしい恵まれた設備（例えばロス地区ではヒーター付プールが約120、家庭ではレジャー設備としてのホームプールがありその数は想像以上に夥しい）を具備しているので、水泳人口は加速度的に増大し繁栄の一途にあります。恐らく水泳は名実ともに近年米国に於ける一級スポーツになりつつあると云えるのではないでせうか。この人口を基盤に強力な分厚いトップ層が発生している訳でおのづから其の将来も予測出来ると思えます。

質に於て互角と観ても、その量に於て問題点が当然出て参ります。明白なことですが矢張低学年よりの水泳人口の普及拡大こそ水泳強化の恒久策であると改めて痛感して居ります。その意味に於て今回の中学生チーム渡米は誠に意義深く、参加選手は勿論の事、関係者並びに低学年水泳選手の今後の動行に大なる期待をいたします。即ち、当面の問題として参加選手各位に遠征の体験を生かしていよいよ精進されて、願くば、東京オリンピックに何人が参加され初期の目的達成されん事と、これにより中学生以下低学年の水泳向上拡大に貢献あらん事を切望いたします。彼我の経済力や国情等対比すべくもありませんので、米国のクラブやプロコーチ制度等真似出来ません。然し戦前以上に、小学校を含めた低学年の水泳の啓蒙普及策を一段と研究強化推進する様、一同努力する事が肝要であると云う事と併せて、スポーツを通じ、親善関係に多少なりとも寄与出来た事をご報告申し上げます。

それにつけても、末筆で申し訳れございませんがこの紙上をおかりして、遠征中、大変御世話になった方に即ち和田氏、ローイ中井氏、小林氏の外、在米日系人の大勢、各地の日本領事館、並びに特記すべきは、ビーバー氏、ヘラー氏、ヨハネソン氏等数々の米国及びカナダの水泳関係と選手の方々の友情と親切に對し衷心より御礼申し上げます（以上）

ロ ス ア ン ゼ ル 大 会

3月23・24日

男 子				5 米 井 要 (") 2:11.6
15~17才 100 m 自由形				6 桑 原 茂 (") 2:12.6
4 浜 口 哲 也 (日 本) 59.2	15~17才 200 m 平 泳			2 日 隈 修 (日 本) 2:43.8
15~17才 200 m 自由形				15~17才 100 m バタフライ
2 浜 口 哲 也 (日 本) 2:08.8	4 斎 藤 哲 (日 本) 1:05.9			
3 高 瀬 悦二郎 (") 2:10.5	15~17才 100 m 背 泳			

8	和田 憲二	(日 本)	1:13.0	3	齋藤 妙子	(日 本)	2:30.9
	女 子			5	中川 静子	(")	2:35.0
	13~14才	100 m	自由形		13~14才	200 m	平 泳
1	齋藤 好子	(日 本)	1:08.9	3	川西 繁子	(日 本)	3:00.7
	15~17才	100 m	自由形		15~17才	200 m	平 泳
1	中川 静子	(日 本)	1:08.7	1	葉室 加奈	(日 本)	3:00.3
	15~17才	200 m	自由形		15~17才	100 m	バタフライ
				3	井野 和子	(日 本)	1:16.7

サン・レアンドロ大会

3月30・31日

	男 子			1	米井・高瀬・桑原・浜口	(日 本)	3:32.5
	13~14才	100 y	自由形		400 y	メドレーリレー	
1	桑原 茂	(日 本)	54.4	2	和田・日隈・齋藤・浜口	(日 本)	4:02.6
	15~17才	100 y	自由形		女 子		
2	高瀬 悦二郎	(日 本)	53.4		13~14才	100 y	自由形
4	浜口 哲也	(")	53.8	4	齋藤 妙子	(日 本)	1:02.2
5	米井 要	(")	54.8		15~17才	100 y	自由形
	15~17才	100 y	平 泳	4	中川 静子	(日 本)	1:01.8
2	日隈 修	(日 本)	1:07.2		13~14才	100 y	平 泳
	15~17才	100 y	バタフライ	3	川西 繁子	(日 本)	1:15.1
2	齋藤 哲	(日 本)	58.0		15~17才	100 y	平 泳
	15~17才	100 y	背 泳	1	葉室 加奈	(日 本)	1:13.4
1	和田 憲二	(日 本)	1:02.7		15~17才	100 y	バタフライ
	400 y	リレー		2	井野 和子	(日 本)	1:07.0

ポートランド大会

4月6・7日

	男 子			2	日 本		1:38.4
	13~14才	100 y	自由形		200 y	メドレーリレー	
2	桑原 茂	(日 本)	54.0	3	日 本		1:53.2
	15~17才	100 y	自由形		女 子		
1	高瀬 悦二郎	(日 本)	52.8		13~14才	100 y	自由形
3	瀬口 哲也	(")	53.7	4	齋藤 妙子	(日 本)	1:02.2
4	米井 要	(")	54.4		15~17才	100 y	自由形
	15~17才	100 y	平 泳	1	中川 静子	(日 本)	1:01.4
1	日隈 修	(日 本)	1:08.6		13~14才	100 y	平 泳
	15~17才	100 y	バタフライ	2	川西 繁子	(日 本)	1:15.8
2	齋藤 哲	(日 本)	57.9		15~17才	100 y	平 泳
	15~17才	100 y	背 泳	1	葉室 加奈	(日 本)	1:13.6
6	和田 憲二	(日 本)	1:05.2		15~17才	100 y	バタフライ
	200 y	リレー		2	井野 和子	(日 本)	1:08.1

バンクーバー大会

4月9日

男子

13~14才 100 m 自由形			
1	桑原 茂	(日本)	1:00.3
15~16才 100 m 自由形			
2	高瀬 悦二郎	(日本)	59.7
4	浜口 哲也	(")	1:00.2
5	米井 要	(")	1:00.5
15~16才 200 m 自由形			
2	米井 要	(日本)	2:09.6
3	高瀬 悦二郎	(")	2:10.1
15~16才 100 m 平泳			
1	日隈 修	()	1:17.0
15~16才 100 m バタフライ			
3	斎藤 哲	(日本)	1:04.3
15~16才 100 m 背泳			
4	和田 憲二	(日本)	1:10.6

15~16才 200 m メドレーリレー

2 和田・斎藤・日隈・浜口 (日本) 2:02.2

女子

13~14才 100 m 自由形			
2	斎藤 妙子	(日本)	1:08.9
15~16才 100 m 自由形			
2	中川 静子	(日本)	1:07.5
13~14才 100 m 平泳			
1	川西 繁子	(日本)	1:24.2
15~16才 100 m 平泳			
2	葉室 加奈	(日本)	1:22.9
15~16才 100 m バタフライ			
3	井野 和子	(日本)	1:17.0
15~16才 200 m ドレーリレー			
3	斎藤・井野・葉室・中川	(日本)	2:20.1

ハワイ大会

4月11・12日

男子

13~14才 100 y 自由形			
	桑原 茂	(日本)	54.1
15~17才 100 y 自由形			
	浜口 哲也	(日本)	53.6
13~14才 200 y 自由形			
	桑原 茂	(日本)	1:57.9
15~17才 200 y 自由形			
	高瀬 悦二郎	(日本)	1:57.4
	浜口 哲也	(")	1:58.6
13~14才 400 y 自由形			
	桑原 茂	(日本)	4:13.1
15~17才 400 y 自由形			
	高瀬 悦二郎	(日本)	4:09.8
	浜口 哲也	(")	4:11.2
15~17才 200 y 平泳			
	日隈 修	(日本)	2:25.4
15~17才 100 y バタフライ			
	斎藤 哲	(日本)	58.6
15~17才 200 y バタフライ			
	斎藤 哲	(日本)	2:08.8
15~17才 200 y 背泳			
	和田 憲二	(日本)	1:02.0
15~17才 200 y リレー			
	浜口・高瀬・米井・桑原	(日本)	1:37.6

15~17才 200 y メドレーリレー

和田・斎藤・日隈・浜口 (日本) 1:51.5

女子

15~17才 100 y 自由形			
	中川 静子	(日本)	1:02.3
13~14才 200 y 自由形			
	斎藤 妙子	(日本)	2:15.4
13~14才 400 y 自由形			
	斎藤 妙子	(日本)	4:48.5
15~17才 400 y 自由形			
	中川 静子	(日本)	4:57.8
13~14才 100 y 平泳			
	川西 繁子	(日本)	1:15.8
15~17才 100 y 平泳			
	葉室 加奈	(日本)	1:15.4
15~17才 200 y 平泳			
	藤室 加奈	(日本)	2:44.2
15~17才 200 y バタフライ			
	井野 和子	(日本)	失格
15~17才 200 y リレー			
	日本		1:54.2
15~17才 200 y メドレーリレー			
	斎藤・井野・葉室・中川	(日本)	2:08.3

西独水球コーチ招へいによる強化練習報告

鷗 田 武

今般水球強化計画の一環として西独より3名のプレーイング・コーチを招聘し、2月13日～3月26日の6週間にわたって水球の技術指導を受けました。コーチとして来日した人々は

Emile Bildstein (G.K. 29才)

Hans Schepers (B.W. 32才)

Friedel Osselman (F.W. 32才)

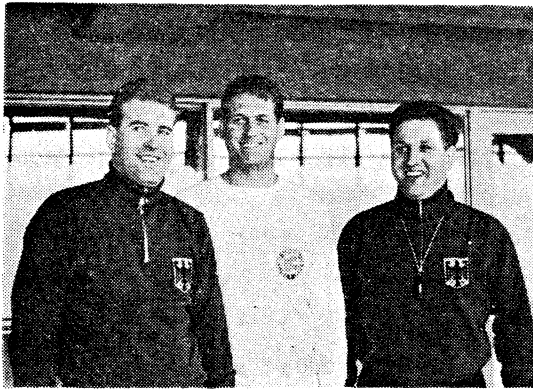


写真1 左よりフリーデル・オツセルマン、エミール・ビルドステイン、ハンツ・シエパース

の3名で、共にローマ大会のドイツ・チームのメンバーとして活躍した人達であり、十分な経験の持主であり、吾々には非常に適切な、そして実戦的な指導をしてくださいました。又今回来日されたコーチは自身が最近迄プレイヤーであり、水に入って選手個々に細い点まで指導してもらえる点、又ゲームも一諸になってやってもらいゲームセンスの育成にも大いに得る所があったと考えます。

強化対象選手としては、候補選手25名と準候補選手2名計27名が強化練習に参加致しました。

強化練習計画としては

○2月16日～3月5日 7:00～9:00 都屋内プール

練習内容

1. ボール・ハンドリング
2. シュート練習
3. ゲーム
4. G.K.基本練習
5. 攻撃フォーメーション

○3月7日～3月20日(合宿練習)

7:00～9:00 都屋内プール

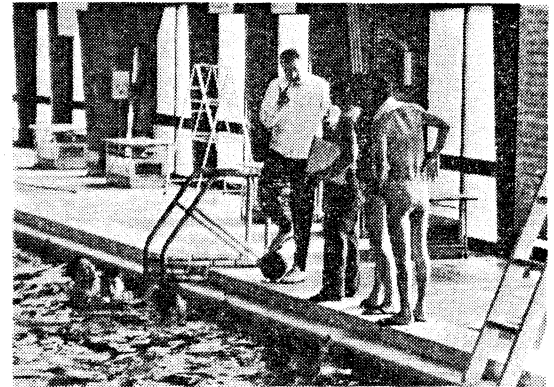


写真2 中央はフリーデル・オツセルマン

18:00～20:00 東大プール

練習内容

1. ボール・ハンドリング
2. G.K.基本練習
3. シュート練習
4. 攻防練習
5. 練習ゲーム

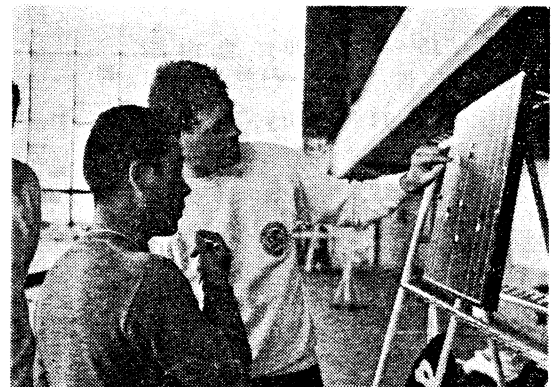


写真3 エミール・ビルドステインと鷗田強化委員長

○3月22日～3月25日 7:00～9:00 都屋内プール

練習内容

1. 練習ゲーム

以上のような日程で強化練習を実施しました。

此外に週2回(月曜、金曜)ミーティングを実施して吾々との間に意見交換をしながら日本の水球の進むべき方針について打合せを行って来ました。練習を始めるに当って打合せを行い次のような方向で6週間の練習計

面をたてました。

- 1) 期間が短いので、ゲーム・センスの強化を主目的にしてチーム作りに重点を置く事、そのために基本練習を短かくして行く、チーム作りの基本的な考え方としては確実なシュートが出来る迄如何にボールをキープして攻撃を続行して行くこと、又日本人は身体が小さいので泳がなければならない、そしてフィールド全部を使って動くようにする。練習ゲーム中にミス・プレイがあった場合にはそのつど笛を吹いてそのミス・プレイを指摘してコーチが水に入ってそれを指示してもらうこと。
- 2) 基本練習についてはポジション別にコーチが分れて指導してもらうようにする。又強化練習の際にグループを二つに分けて一つはベスト・グループをつかって、毎日選手を交代させて最終的にベスト・グループを作って行く。
- 3) 前段に攻撃システムの練習をし、後段に防禦システムの練習をするように計画して練習を実施するようにする。

A ゴール・キーパーの基本練習

1) 出足：

腰を浮かしてかまえて居る所からすぐにしかも強く飛び出す。ピッチを早く2~3m以上泳ぐ必要はないので力一杯腕をきかせて泳ぐ

2) 飛び出し：

上体を前に曲げて腰を浮かして居てそこから飛び出して高く浮いて居ること。そのためには足を充分そして早く使って長く浮いている(飛上りの足をすぐにひきつけて素早く強い踏み足を使う)

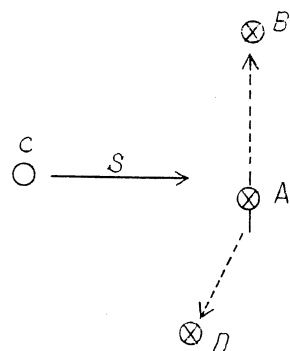
3) 方向転換：

左右への構えの移動練習、左に移る場合には左手を使って上体をよせ、右足のキックを生かして素早く構えるようにする、此の際足を使うことを忘れないように心掛ける。

4) 返球練習：

Cからのシュートを受けて前から来るCのタックルを避けるべくBのサイドに身体をたをしてBに正確にパスをする。

Dにパスする場合にはDの側へにげて同様にDにパスを返す。



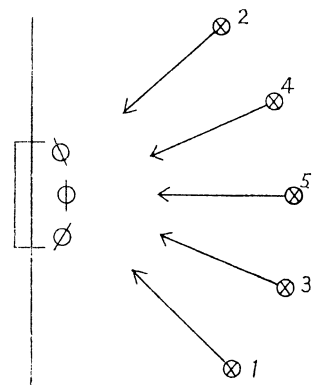
5) スタンディング・シュート

笛と同時にシュート、シュート順は 1, 2, 3, 4, 5

と左右に振り分けて行く、G.K.はその都度位置を変えてシュートを止めるようにする。5~6m線からシュートする。

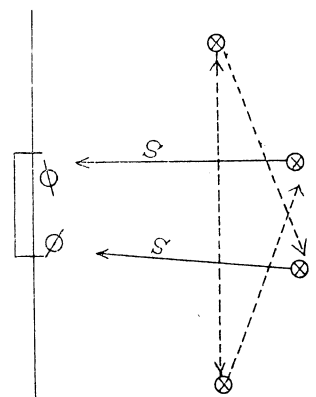
6) スタンディング・シュート

シュートは4人1組で1~2回パスをしてからシュート、G.K.はパスと同時に位置を変えながらやる。G.K.の位置の移動は短時間しかないので腕を使わず脚のキックだけで位置をかえることが肝要である。



7) ドリブル・シュート

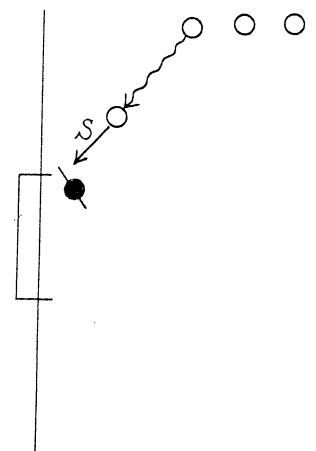
ゴールのサイドにドリブルで入ってシュートをねらう。此の場合シュートを2~3秒まってから投げる。G.K.は此の間脚を充分つかって身体をうかしている



8) ドブル・シュート

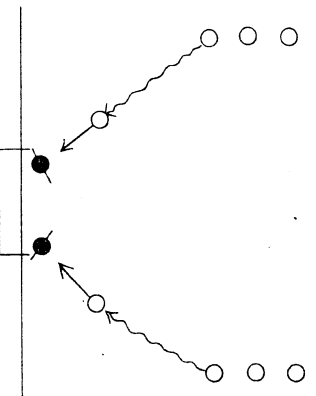
両サイドから交互はドリブル・シュート

左, 右交代にドリブル, そして出来るだけ早いタイミングでコーナーをねらってシュート, G.K.は両コーナー一杯に位置をとって左右に早く動いてかまえる

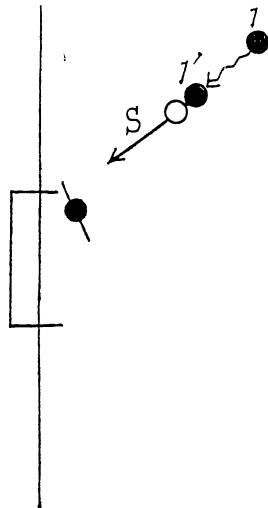


9) ドリブル・シュート

マーク付ドリブル・シュート

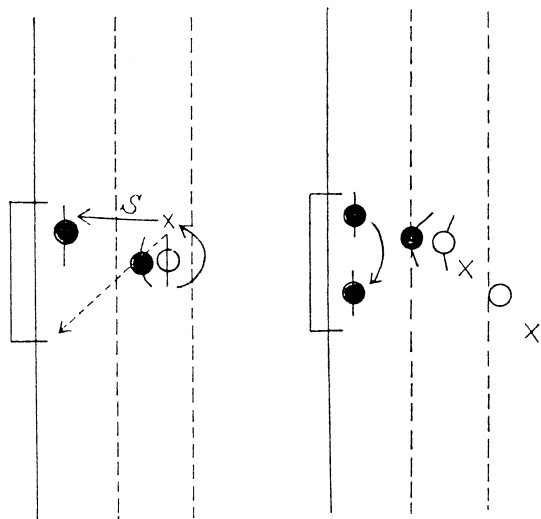


此の場合マーク黒(1)は F.W.の後方3m位に位置してF.W.は止まってゴールをねらう、その間に黒(1)'はタックルしてもよい。G.K.はボールのはなれる瞬間まで待つてシュートを止める、この場合サイド一杯によって脚を充分につかかって浮いている。ポストとG.K.との間をあげずに一杯にポストによって位置することが必要である。



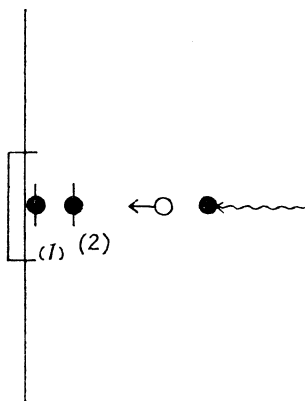
10) ビヤック・シュート

ひつかけるシュートの場合にはマークがインサイドについている場合、左コーナーへのシュートは不可能であるからG.K.は右を守るような位置をとる。



11) ひっくり返りシュート

ゴール前のFWがひっくり返って伸びてシュートする場合にマークはインサイドに入って(左手)いる時にはF.W.は左コーナーへのシュートは不可能であるから右コーナーへのシュートに備えるように位置をとる。

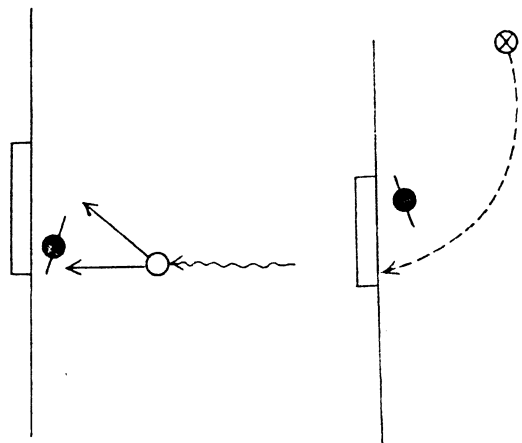


12) ドリブル・シュート

F.W.の縦の突込みの時はマークの位置が離れているか

(1~2m) 又はすぐ近くにマークしているかを判断してシュートのコースを考えて位置をとる。マークの近い場合には肩から後へボールを引けないのでプッシュかナックリングのシュートしか出来ない F.W.と B.W.とのきまりが大きい場合にはゴール・ライン上に位置をとり、F.W.とB.W.とのきまりが近い場合には最後の瞬間に前に出て止める。

13) コーナーより攻めて来た場合に同サイドは完全にとぎすように構え右手は上にあげてコーナーを止め、左手は水平に充分にのばして逆サイドのコーナーへのシュートを止めるようにかまえる。



14) ループ・シュート

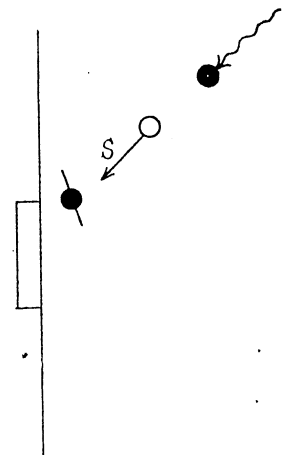
ループ・シュートの止め方としてはF.W.の同サイドに位置をとってから右へのループを止める場合には左手を出して思い切り右へ身体をのばしてボールのひくい所でとめる。この場合右手は内側にかきこむのと同時に浮をとる役をする。左の場合にも同じ要領で行う。

15) ドリブルでマークが

F.W.の1~1.5m位後方にいてのシュート G.K.はシュートの最後の瞬間に前に出るようにしてシュートを止める。

ゴール・キーパーのタイミングの取り方は相手の腕の動きに注意してタイミングをとるようにする。

キーパーの位置は常にゴール・ライン上に位置することが原則である。真中からのシュートの時はシュートの最後の瞬間にゴール・ラインより前に飛び出してシュート圏をせまくすることを



考える。

コーナーを守る場合のタイミングとしては、F.W.が攻めて来た場合にはコーナー一杯に寄って相手がシュートする迄浮いていてボールのはなれる瞬間に飛び出してシュートを止めるように心掛ける。

○シュート

1. ひっくり返りシュート :

スナップだけでシュートする。身体をねかせたままの体勢でボールを頭の後ろにもって来てG.K.にボールのコースをかくすようにしてG.K.のくづれるのを待ってシュートする。

2. 切り返しシュート :

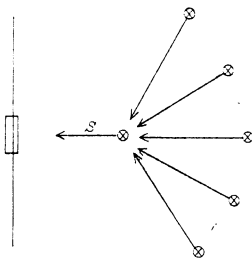
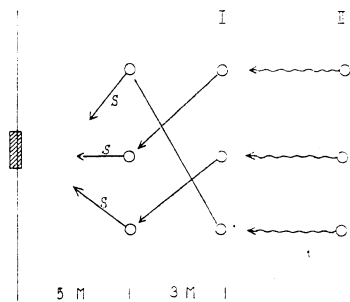
G.K.をよく見てフェイントして行くボールを横からひっかけて切り返す。上からボールを絶対につかまぬこと。

3. スタンディング・シュート

笛の合図でシュートする。早くそしてパスは正確にする。次にはパッサーは泳いで行ってからパスする。

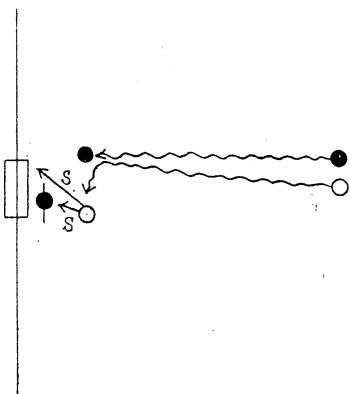
ボールを握む場合ボールのフロートを使って浮いているのはよくない。

後方からのパスを受けて素早くシュートする。



4. マーク付ドリブル・シュート

自分のマークに近づいて行って反則動作(足を入れる)を上から見えないようにける。ゴール・ポストを目指してドリブルして行って(相手を押すようにして泳ぐ)横に切れる



5. ドリブル・シュート :

ドリブルでボールを下からもちあげてG.K.の脇

の下をねらってシュートする、シュートの際は充分体を浮かして肩を回してシュートする。5m位の所からシュート、G.K.に近かすぎると大型キーパーには通用しない。

6. ドリブル・シュート

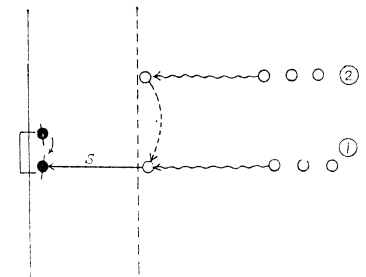
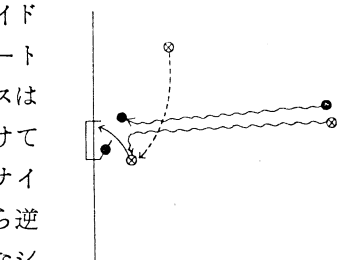
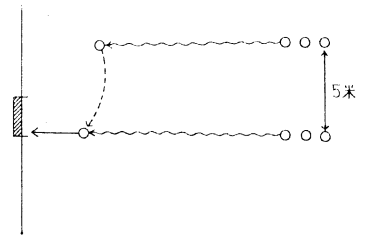
シュターは絶対に止まらずにシュートするようにする。

スタンディング・プレイヤーからパスを受けてを引きつけて逆サイドヘループ・シュートドリブルのコースはゴールポスト目がけて突込みG.K.を右サイドにひきよせてから逆にキレてシュアなシュートをする構えからループをうつようにする。

シュートは6mから

パスを受けてからもちなをさずにそのままシュート出来るタイミングが必要

初めは①がシュート次に②がシュート



7. バック・ボレー・シュート

パスはハーフ・スピード

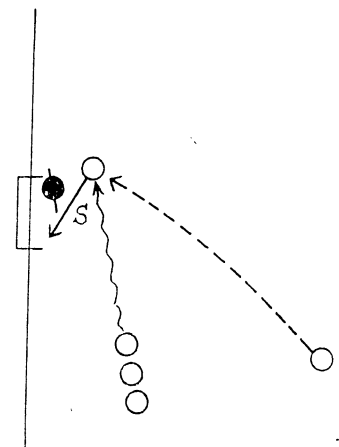
ボールはつかまわずタッチ・シュートをする。

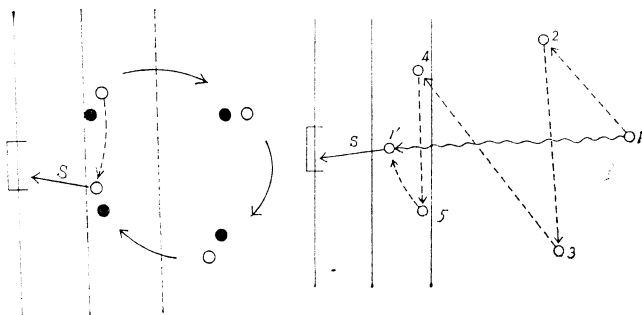
8. コンビネーション・シュート

フリーになったプレイヤーがシュートして行く。

9. (1)かう(2), (3), (4), (5)とパスしな

がら(1)'の位置でタイムリーなパスを受けてシュート、此の際(1)'が止まった状態でのシュートは駄目動いて居ながらの動作でシュートすること。





○アタック・フォーメーションに就いて

1) ゴール前が混まない様にパスをしたらすぐ出て行くようにする。ゴール前に同時に2人突込む事のないように注意する。サイドを充分使うようにする必要がある。ゴール前は10m近く広ろげてそこでプレイする。

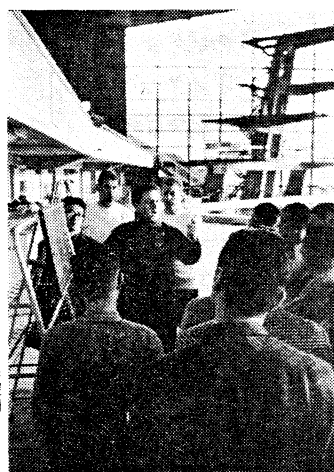


写真4 図上作戦

- 2) 前に向かってドリブルしているようなたいせいの時はシュートは非常に危険があるから(逆チャンスを作られる恐れがある)余程確実なシュート以外はしないようにする。
- 3) パスするのに味方が良いポジションに居ない時に止まって見ていないですぐに泳いでマークをはなして次のチャンスを見て又だめならそれをくりかえして止まっていたはいけない。又パスする味方がつまったらすぐヘルプに行くことが肝要
- 4) 各プレイヤーがもつとフィールドを良く見てプレイするように心掛けると同時に1人だけ泳ぎ廻っているは駄目全体が泳ぎ廻って負担をかるくするようにする
- 5) ゴールの中心に向かって突込んで行って右か左に追い出された場合サイドに追出されて終らぬのでシュート圏外に出てしまう、なるべくどちらかのポストを目掛けて入って横にゆれて丁度真中に来るようにプレイすべきだ、ドリブルのコースを考えねばならない。
- 6) ボールをキープするということは止まっていることではなく、何時でもフリーにパスが出来るように泳いでいなくてはならない。
- 7) 無駄な反則が多すぎる。特にハーフ・ラインから5m位前迄は無駄な反則をさけるべきである。相手の後から絶対に泳がずにサイドから少しづつチャーチして行く、攻防転換の時に相手にプレイヤーをつかまえたり、引き戻したりしてメチャーをとられることは絶対

にさけねばならない。又レフリーは最初の反則をときはつしなければならぬが、レフリーの見ていない所での反則はうまくやるのが非常に重要である。やられた反則に対してすぐにやりかえすことは避けるべきだ。

- 8) 前向きで攻撃をかけている時は非常に危険なので完全にチャンスが出来る迄シュートをしないでキープし完全なシュート・チャンスが来た場合には他のプレイヤーは逆チャンスのマークに心掛けて後えさがるようにすべきである。
- 9) 選手の交代が出来るシステムになっているので各ピリオードの間は全力で泳ぐべきである。
- 10) 1人のプレイヤーのアイデアを他の全部のプレイヤーが知らねばならない。
- 11) パスに対しては常に角度を考えてパスすべきである。マークが内側にいる時のパスは非常に難しいからパスをやめる。まわりがあいている場合には白(2)は左右が後へ下ってパスをうけるようにする。



- 12) 1人のチャンスを生かすために全員がそれをたすけなくてはならない。1人のプレイヤーがフリーになった場合には後方に素早くかへって防禦体勢をとる必要がある。
- 13) 日本の選手は止まっているプレイは絶対は禁物で常に泳ぐことが大切である。動いてプレイして居れば、つかんだり、ひっぱったりする反則がレフリーに発見され易いから大いに泳ぐプレイをすべきである。

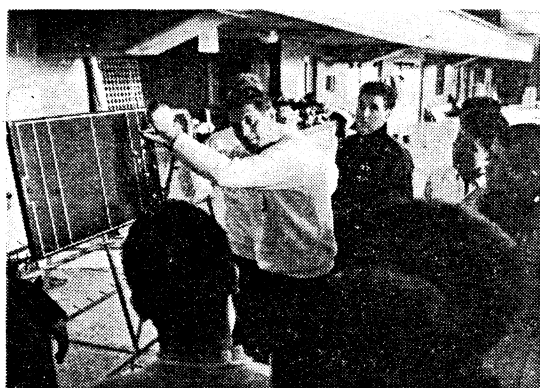
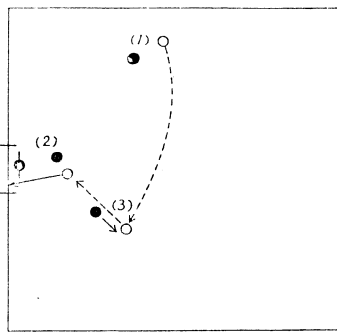


写真5 図上作戦

- 14) フリー・スローの時に味方が止まって居る状態にある時には早くスローをし、味方が動いている時には少しおくらしてスローをする。味方が止まっている時には、動こうとするために味方のプレイヤーがメチャー・ファウル(ハンド・オフやフット・オフをすることが多いので)を犯す危険があるから素早くパスをす

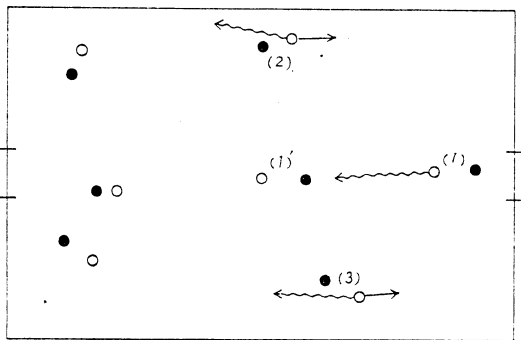
る、又味方のプレイヤーが動いている時には相手がメジャー・ファウル（おさえたり、引きもどしたりの反則）を犯す可能性が多いのでゆっくりスローをしてメジャー・ファウルをもらうようにする。

白(1)からゴール前の白(2)に直接パスすることが良くあるがこれは非常に危険である。白(3)のマークがそのボールをカットする危険性があるから、



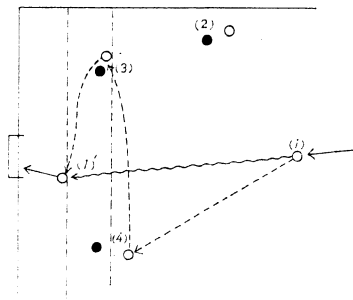
この場合には白(3)は自分のマークを引きつけることが第一で白(1)から白(3)へパスをすることにより白(3)へマークを引きつけて、白(2)のいる場所を拡げることが出来るから、その次に白(3)から白(2)へパスをすることにすべきだ。

攻防転換による速攻について



黒攻撃の時に白がゴール前でボールをカットして逆チャンスを生かして突込んだ場合白(1)が白(2), (3)の所に来た場合に止まっていたはいけないし、又後へさがってもいけない、そうすることによって白(2), (3)の何れかのバックがマークチェンジをして折角の白(1)のノーマークが生かされなくなるから絶対に止まっていたは駄目、素早く泳ぐようにして自分のマークを白(1)へ動かさないようにすることが重要である。

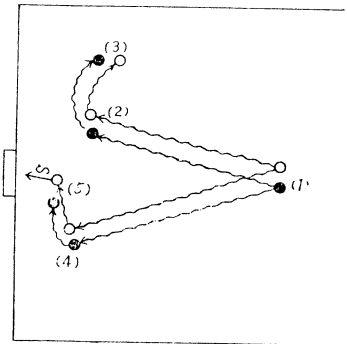
後方からの突込みにあたって、ゴール前はサイドによってゴール前を空けて(1)'をシュートしやすい位置へ導いてシュート、(1)がボールを持って入って来て



いるさいゴール前をクリアするために(4)へパス、(4)から(2)か(3)へパスしてマーク・チェンジが出来ないようにすることが必要、そ

して(1)'が完全なチャンスが出来た後は白は相手方のマークに気を使うようにしてもどる。

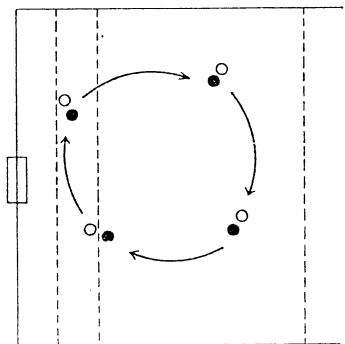
ドリブルで突込んで行って攻撃をする場合にコースが問題となる。つまりマークがサイドについて一諸に泳いでいる場合には右利きを例にとれば(1)~(2)~(3)の如きコースを取って



はシュート圏外に出てしまうので攻撃をすることは出来にくくなるので(1)~(4)~(5)のコースを取ってゴール前で横に切れてフリーなチャンスをつかむようにしなくてはならない。又ゴール前でB.W.が待っている場合にはB.W.を乗り越えて行くことは反則をとられがちであるので外回りの動作でマークを外すようにする。

回転をしながらプレイをする。ドリブルの時にサイドにマークが居る場合には、自分がインサイドに入るようにして泳いで反則を起させるようにする、マークのあいている時にはシュート出来るし、マークがガッチリの時にはシュートをしない

(図 - 1)



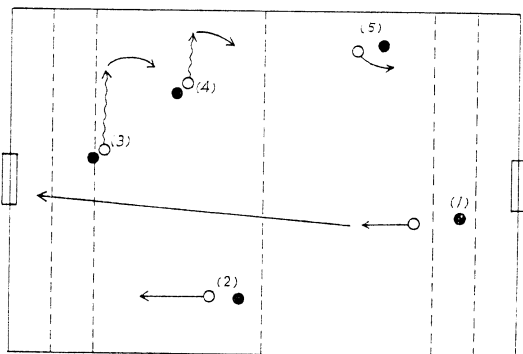
と云うかんねんを徹底させて、次に入ってくるプレイヤーはその判断（味方のシュートが出来る体勢にあるかどうかの判断）を早くして相手の気付かぬ中に素早く突込むようにしてチャンスを作ることを心掛ける必要がある

図のように回転して行ってサイドに逃げたプレイヤーがフリーの場合には縦の突込にパスをして攻撃し、又サイドに行ったプレイヤーがフリーでない場合には、後にいるプレイヤーにパスをして次のチャンスメーカーにパスして攻撃をつづける、又サイドに出たプレイヤーが、ガッチリマークされて居る場合には後方の味方のプレイヤーがヘルプして的確なパスをするように心掛ける。

又縦の突込もガッチリマークされている場合にはゴール前に入って行って、インサイドにもぐりこんでメジャー、ファウルをもらうことも一つの手段である。

後からの突込みには他のサイドに味方プレイヤーが逃げてゴール前をクリアするようにサイドによって、味方のノーマークに対してマーク・チェンジをさせないよ

(図 - 2)



うに心掛けると同時に、そのプレイヤーが完全なるチャンスをつかんだら味方のチャンスメーカーについている相手が逆チャンスでノーマークにならないように味方のプレイヤーは全て後方にかへって全員マークの体勢をとることが必要である。

(1)のプレイヤーが突込んだ場合に(2)、(5)プレイヤーが止まっていたり後へ下った場合にはマークチェンジをされるので素早く泳いで自分のマークを完全に引きつけるように心掛けることが必要である。又(3)のプレイヤーはシュート圏外に出ていかなないようにして、もし自分のマークが(1)にチェンジした場合にはパスを受けてシュート出来るような位置を取ることが必要である。

パスは出来る丈け前にもって行くようにすればロス・タイムは取られないから攻撃が続行される。

○デフェンス・フォーメーションについて

2~4mのマークはサイド・マークで右利のF.W.には左側へ、左利のF.W.には右側に位置を取る。4mから外はアウト・サイド・マークをとって飛んで来るボールに対して利き手の反対の手でボールをカットする。

マークの付き方：

1) 右サイドにマークについた時には左手でカット

左側にマークした場合は右手でカットする。相手が移動して行く場合にはカットのためにあげている手の反対の手は充分つかって相手について行く、そこに止まってカット体制に入ることはいけな、G.K.は長時間これをやられると沈んだ所へシュートされる。又相手が大きいのでカットしても無効である。マークの

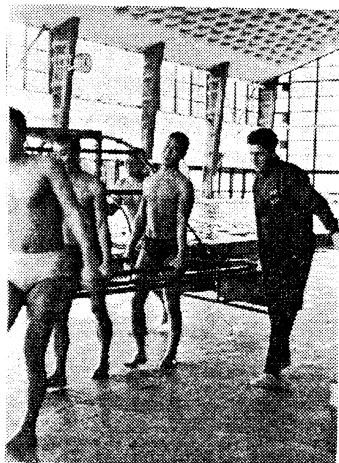


写真 6

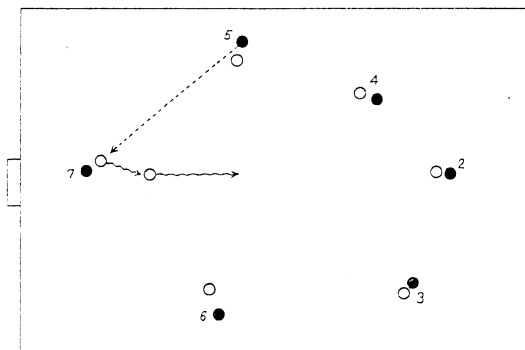
ついているサイドの反対の手は絶対に上に出さないように注意が肝要である。又F.W.が腕を上げB.W.を防禦して居る時は脇の下をもぐって前に出るようになる。

2) ゴール前へのパスの距離が大きい場合にB.W.はF.W.のサイドに位置をとってパスラーがパスをする瞬間にF.W.の腰を押してF.W.の前に出て飛んで来るパスをカットすることが必要である。ボールがF.W.にわたった場合にはインサイドに入って右サイドについた場合には左手をあげ、右サイドについた場合には右手をあげてカット体勢をとり、あいている手でB.W.自身のフロートをとって相手の動きについて行くことが必要であり、F.W.がボールをはなした時にはB.W.もマークをはずしてレフリーの反則てきはつをふせぐことが肝要である。

3) 相手のF.W.シュートをした瞬間にデフェンス側は素早く逆チャンスを生かすべくダッシュする事が肝要である即ち攻防転換を早くやること。

4) マークの原則としては中間では1.5~2.0m, ゴール前6m位の位置では1~1.5m, ゴール前ではガッチリと相手をマークする。又泳いでいる相手にマークする時は利き手につき、止まっている時には利き手の反対側にマークする。

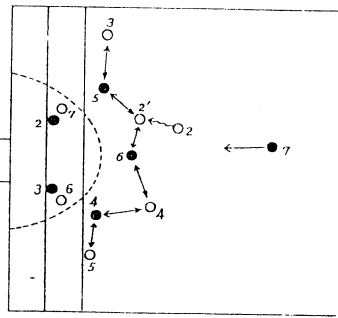
マーク・チェンジについて



黒(5)~(7)へのパスを白がカットしてマークを外されて水あきが出来た状態で逆にせめられた場合、黒の(5)や(6)は自分のマークを気にすることなく、(5)や(6)はゴールに対して最短距離を全スピードでバックして6m附近迄帰ってから自分のチームのマークをかためる必要がある。そうしている中に黒7も帰って来るので、マン・ツーマン・デフェンスが出来上る。又此の際一番長い距離を泳いで来たプレイヤーが直接にシュートをするのではなく(つかれていてシュートが定まらないから)前にいるプレイヤーがシュートを助けてやるのがベターである。

図のようにゴール前に多数で突込んで来た場合には中間位置をとって動き易い位置を取るべきである。

逆チャンスでぬかれた場合に黒(7)が白(2)に対してマークがあきすぎている場合には黒(5)(6), (4)はマークを外して白(3), (4), (5), (2)にマークチェンジが出来るよ



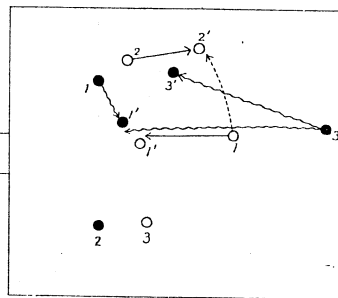
うに行ったり帰ったりして相手のシュートをけんせいする。そして黒(7)が相手をマーク出来る範囲に入った場合に初めてエブリマン・マークに移る。

マーク・チェンジはあくまでゴールに対して最短距離を帰ってくる。シュートを失敗したF.W.は自分のマークを追うことはなく他の味方のプレイヤーが最短距離を帰つて中央で待っていることが前提であるから、C.F.はサイドのプレイヤーのマークに帰って来るのが妥当である。

シュートを失敗したプレイヤーが相手を追かける場合には相手のプレイヤーのまうしろをついて行くことは良くない。

それは相手のビートにぢまされることが一つと、おくれた場合に相手のプレイヤーの足等をひっぱることがあるが、これは絶対にさけねばならない。味方他のプレイヤーが中央に帰ってゾーン・マークをしているからサイドにいるプレイヤーにチェンジするのが至当であるが、相手も素早く泳いだ場合でも前にいるプレイヤーがしばらくの時間を防ぎ得るし又ぬけて来たプレイヤーのシュート圏もゴールから遠いので正確なシュートが出来ないのでゴールをねらっている間に追いつくことも出来る。

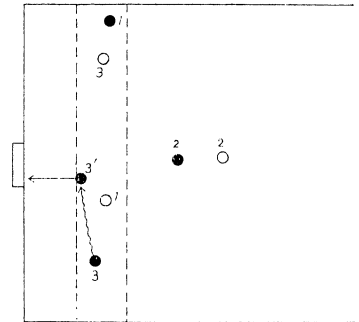
図の如く白(1)がノーマークの場合白(1)からのパスを(2)がさがって受けるのはだめ、その場合には黒(1)が白(1)'にチェンジして防禦する事が出来るから、白(2)は



(1)からのボールをとって前に突込で黒(1)を自分の方に引きつけて置いて白(1)のフリーなチャンスを生かすようにする。黒(3)はこの場合白(1)の後について泳ぐ事なく白(1)と(2)'との間を泳ぐようにして黒(3)が白(2)'にマークすることが出来た時に黒(1)はマーク・チェンジをする。

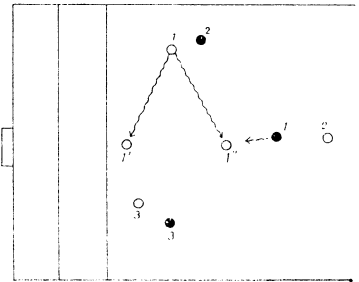
図に示すように黒が攻撃の時に白(1)のマークの位置は

2 m線上に位置をとることが必要である。その理由は白(1)が2 m線の前に出て位置している場合には黒(3)は白(1)の後を泳いでゴール前に行くことが出来るので黒



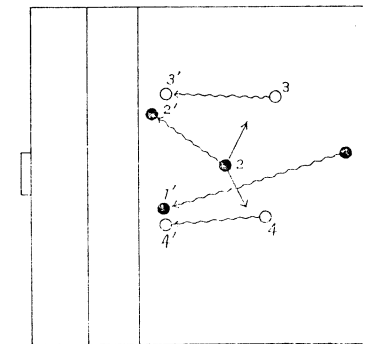
(2)のチャンスをより有効に生かすことが出来るからで、もし白(1)が2 m線上に位置していれば白(1)の後を泳ぐことは出来ず(2 m線内に入るようになるから)白(1)は黒(3)と(2)を同時にマークする事が出来る。

図の如く黒(1)がぬけて来た場合に白(1)が黒(1)にマークチェンジする事は駄目、白(1)は(1)'の位置に早く帰って黒(2), 又は(1)(3)に対して白(1)'が

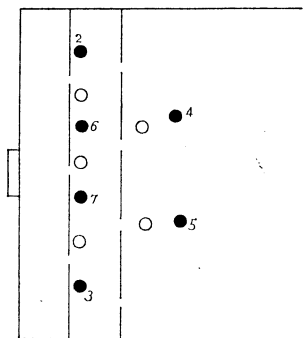


白に対するマーク・チェンジの指示もあたえることが出来る。もし白(1)''の位置にチェンジした場合には黒(2)がゴール前にフリーで突込むことが出来るから、白(1)'の位置に下ってくるのが理想的である。又白(1)'の位置は4 m線外にて位置を取る必要がある。

図のような場合白(4)が後方からノーマークでぬけて来た場合黒(2)は白(3), (4)に少しづつタックルしながら下ってくる。その間に後の黒(1)は全力で帰って来て(4)'黒にあたる、そして黒(1)は(1)'の位置に全力で帰る白(4)'は長い間ゴールをねらうことは出来ない又長い間泳いできているのでつかれて完全なシュートはしにくい。ゾーン・デフェンスについて



ゾーンの攻撃の仕方については、ゴール前を2フロートにして前列2, 後列4の配置をとる。此



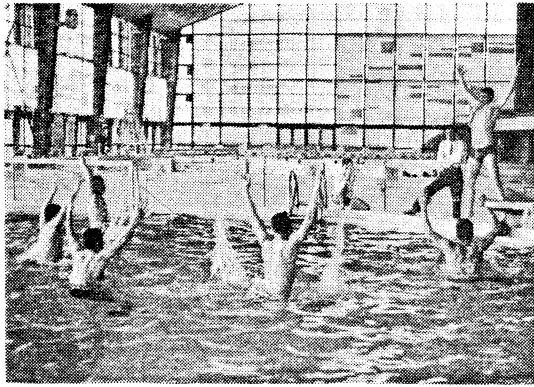


写真7 キーパーの飛上りの練習

の場合黒(2)は左利きのプレイヤー、黒(3)は右利きのプレイヤー、(4)と(5)は泳ぎの早いものを配置して逆に攻撃された時のマークの役をはたす。

攻撃の原則としてはボールをサイドに散らしてG.K.を左右にゆきぶってG.K.のへばった所へシュートを決めるか、空いているサイドへクイックリーなシュートを決める様に攻撃して行く。この場合5~6の体勢にあるのでボールを確実に廻していれば必ず一人のプレイヤーがフリーになるので、フリーになったものが、ゴールをねらう体勢をとるか、ドリブルで突込んで行くかして、G.K.をけんせいして、他の一人の味方プレイヤーをフリーにして完全なるシュートをするようにする。パスも素早いパスが要求されると同時に動きもそれにとまって早くして相手の防禦体勢をかくらんすることが必要である。

1) ボールをもったプレイヤーは一方の目ではG.K.を一方の目では味方プレイヤーの位置を見るようにしてパスをして行く。

2) ボールは確実にハンド・ツー・ハンドのパスが必要である。

3) 位置の取り方は2m以上はなれないようにすべきであり、それ以上遠いとパスをするにも相手をけんせいするにせよ良いポジションではない。

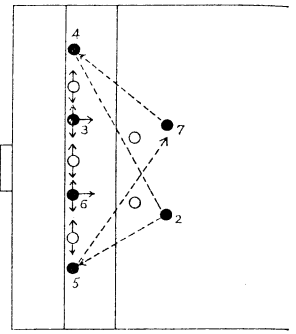


写真8 ハンス・シェパーズ

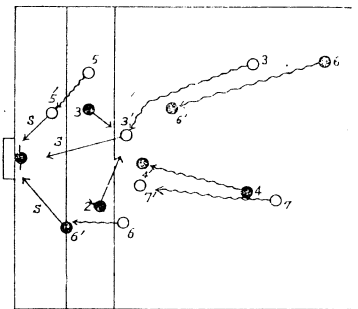
黒(4)、(5)がボールを取った場合には充分ゴールをねらって入って行って、白の体勢を一方に引きよせることが出来る。この場合黒(4)にボールが行った場合黒の(3)、(6)も黒(4)の方へ寄って行って白をそちらへ引きよせて黒(5)

をフリーにしてそこからシュートする。この際は黒は全員が動いて白の防禦体勢をくづすことと黒(3)(6)が(4)、(5)と一直線上にならぬよう少し前に出ることが必要である。

最も大切な事は、ボールのある位置に全員が注意して相手をボールのあるサイドに引きつけるようにしむけてから、逆のサイドへシュートする、パスがクロスしてくると相手も注意力がにぶるのでチャンスが生れて来る。



図の如く白(3)が後方よりぬけて来た場合に4m線上に位置をした時に白(5)か(6)のマークが白(3)'に移った時に白(3)'から白(5)か(6)に正確なパスを送って素早いモーションでG.K.



が寄り切らない中にシュートを定める。又白(3)'の突込みに対して黒がマーク・チェンジしない場合には白(3)'はゴール前に突込んでG.K.を完全に振り落してから確実なシュートをする。シュートのタイミングは2通りある。

- ① G.K.を振っている場合には素早いシュート
- ② G.K.と対になった場合にはG.K.を振り落してからのシュート

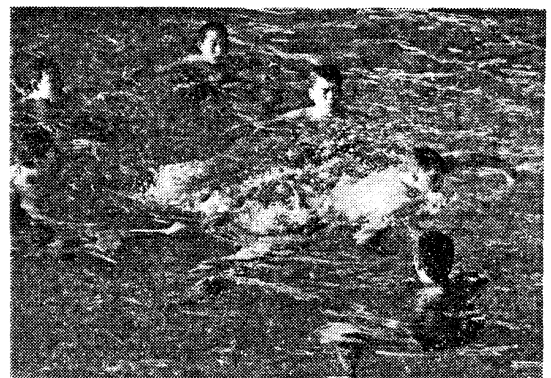


写真9 エミール・ビルドステイン

○ゲームをするに際して特に注意すべきこと。

- 1) チームの中で誰が左利きのプレイヤーか、又誰が強いか、弱いか、誰が一番早いか、遅いか、それぞれの特徴をつかむこと。
- 2) 誰が泳がずにゴール前にスタンディングをするかを

知って処置する。

- 3) 誰が一番エキサイトするプレイヤーかを知る。
- 4) チームの中のF.W.が特別なシュートをするか、ゴール・キーパーと一諸に研究する。又F.W.のシュートは何処をねらうかも知らねばならない。
- 5) チームの中で誰が内側にもぐるかをしらべて良く知っていなくてはならない。レフリーからメジャー・ファウルを取られるようなプレイをする者は危険だから離れて泳ぐようにして注意せねばならない。
- 6) 良いF.W.は試合開始の時に前に出ないで後にいて相手の弱いB.W.をしょってから(相手方のF.W.が来る事が多いので防禦力が弱いから)前に出て行ってシュートを決める。
- 7) 大きくてもスローモーな相手のB.W.には小さくしても素早いプレイヤーをぶつけるようにする。そして相手のゴール前でプレイさせる。強力な相手のB.W.が来た場合には他のプレイヤーと交代させる。
- 8) チームの原動力になるプレイヤーを完全にマークすること。完全に心中出来るプレイヤーを選んでこれにあて相手の原動力をつぶすようにする。
- 9) 相手の攻撃の時に味方のF.W.がゴール前に帰って来て防禦にあたっている時には、そのF.W.は常に前に出すように少しの時間でもあれば(フリー・スローやゴール・スローの時など)マーク・チェンジに心掛

けて味方のF.W.を前に出すようにすること。

- 10) 相手の弱いポジションを味方の強いプレイヤーがあたって攻撃をする。
- 11) 試合中自分の苦手なプレイヤーは常にチェンジして行くようにする。チェンジの時機は防禦体勢の時にたやすくチェンジすることが出来る。
- 12) 試合中における交代は第1クォーターで1人、第2第3クォーターで2人交代しても第4クォーターにはどちらか1人のプレイヤーを入れて置く、常に2人一諸に交代させないようにする。
- 13) 試合開始の時に自分の相手をはっきり確認してからプレイする事が必要である。(例へば相手をもぐったり又一方にかたよって攻撃して来ることがあるから)
- 14) 試合するに当ってコーチは相手チームを充分研究した上に相手のマークを自分のチームの選手に判っきりきめて、そのプレイヤー以外には絶対につかせないようにしてゲームをすすめること、この際前記のような各項の注意事項を充分検討した上で、このことを決定するようにすることが重要である。

6週間にわたる西独水球コーチから指導を受けましたことの概要は以上の通りです。今後東京大会迄に強力なチームを作っていく上に大変有効適切な指導を受けることが出来て感謝して居ります。

38 年度第 1・四半期(4 月～6 月)強化計画

水泳連盟強化対策本部各強化委員会では、38 年度第 1・四半期の強化事業計画をそれぞれ次のとおりに決定した。既に実施中のももあり、オリンピックを目前に控え強化訓練も白熱の度を増している。

1. 競泳強化委員会(4 月～6 月)

1) 日・豪対抗強化合宿及び大会参加

自 4 月 8 日～至 4 月 28 日 21 日間

場所 草津、琵琶湖国際室内プール(女子、生駒ヘルスセンター)

参加人員 合計 64 名

2) 38 年度オリンピック候補選手並びに準候補選手第一次合同練習

自 5 月 15 日～至 5 月 30 日 16 日間

場所 各ブロック毎選定

参加人員 役員 35 名 選手 150 名 合計 185 名

本強化練習は、英才教育一歩前の準英才教育であり、練習の目的は屋外シーズンに入るまでの泳力

と精神力を養成におき室内シーズン最終の行事とする。

2. 飛込強化委員会

1) 本部強化計画

4 月 15 日間 6 月 10 日間

5 月 15 日間 計 40 日間

参加人員 選手 20 名 コーチ 6 名 計 26 名

2) 関西地区候補選手強化計画

4 月～6 月 26 日間

参加人員 選手 5 名 コーチ 3 名 計 8 名

3. 水球強化委員会

第一次強化練習 4 月 26 日～5 月 6 日 11 日間

第二次強化練習 6 月 24 日～7 月 4 日 11 日間

場所 野沢温泉プール 選手 25 名 コーチ 5 名

強化練習会

場所 室内プール

4 月 10 日～19 日 5 月 10 日～25 日 6 月 10 日～19 日

これからのシンクロ競技

島崎恵美子 ほか シンクロ委員一同

一 委員会からの希望

シンクロが、始めて日本に紹介されてから、10年余になります。正式に水連に加盟されてからは、まだ生れたても同然、委員達も一つ一つ教えて頂きながら一生懸命やって居ります。それだけに、前途への希望もふくらみコーチ達の意気も盛んなものです。

何と言っても日本では選手の数が本場に比べて少く1人でも多くの選手が生れてほしいのです。地方各地でシンクロを観て頂き、講習会を開き、普及したいと計画をして居りますがコーチの数が少く、又、プールの使用がむづかしいので実現迄に及んで居りませんがやらなければならない仕事の一つと考えております。出来る事なら競技会が行われる折には、エキビジョンとして出場させて頂き多くの人に観ていただきたい次第です。

シンクロというコスチュームをつける点で非常に問題にされがちで、普及の面から考えても入りにくいのではないかというので、現在は一律の水着をつけるゴムの水泳帽と定めて競技を行っています。ルーティン競技(曲にあわせて泳ぐ)においては、委員も考えあぐんでいますが皆様の御意見を伺いたいと思っています。

選手の上位をしめる者達は外国の選手と比べて、体は小さいですが、技量の点ではさうとうの処迄行っていると思います。近い将来に何とか国際競技を実現し、出場させ、多くを学ばせたい、そして、正確な技術をもものにして、自信をもって、良き指導者の道を歩んでもらいたいと考えます。

水連の方々に支えられ、他国におとらないシンクロの団体を広げたかめる為努力する事をおしみません。

どうぞよろしく御指導下さい。

尚、今年からシンクロも地方予選を行うことになりました。初めての事ですので事務運営等、不明の点もあると思います。何なりと御問い合わせ下さい。地方での競技会開催はシンクロ普及の為大変役立つ事ですので何卒よろしくお願い致します。そうして1人でも多くの選手を中央大会へ送って下さい。

最後に選手の方達に望みたい事として

1. もっともっと泳ぎこむ事

長距離を泳いでいけば、一曲の時間が次第に楽になせる。

1. 呼吸を上手にする事

シンクロは呼吸をとめたりするので乱れがちだが苦しさを顔に出さない様にしてほしい。

1. 泳ぎのフォームを美しく

手の入れ方、ぬき方を良く研究してほしい。2人、4人以上で泳ぐ場合は互いがあわせる事も大切である。

1. スタンツは正確に

言うまでもないことだが水中逆立等の場合は、左右の感じが狂って来るが人の練習を水中でみる事も勉強の方法である。

又、陸上での柔軟体操はスタンツを正確にするのに欠かせない一つである。

二 シンクロナイズド・スイミング競技会の舞台裏から

どの競技会の準備でも大変だと思いますが、この競技の性格上、他の水泳競技会の準備と違った点のあるのを取りあげてみましょう。先ずプールに水中スピーカークッキーのレコードプレーヤーを備えつけなくてはなりません。そのため、競技会の前になると、誰かが重い大型スーツケース程のプレーヤーを水連から運んで来、又持ち帰るのですが、そのままでは重量制限のある丸ビルの一般用エレベーターにはのれず、一々証明書を貰っています。いつだったか、証明書を貰う時間も惜しくて、この重い荷物を両手に持って、七階段を降りた女の子もいた位でしたが。

さてその次に競技参加の提出書類は、申込書、スタンツ記載用紙(2枚)ルーティン記載用紙(7枚)得点用紙(2枚)が必要です。初期の頃には参加選手の少なかったせいもあって、各一通ずつ提出されたものを照合し

てから、役員が分担して、数を揃えました。勿論役員の数も少かったので、カーボン紙を入れて7枚分のルーティン用紙を書きつづけると、終には手が痛くなってしまったのでした。

それから尚困ることは他の書類はともかくルーティン用紙の提出期日が遅れることです。というのは、これに記載してあるのは、音楽に合わせて演技する順序をかなりくわしく書かねばなりません、早く振付けを終わって完成している人は少なく、いつもぎりぎりまで工夫してよりよく演技したいと思う人が多いので、遅れてしまうことがあるようです。選手のこの気持もよくわかるだけに、同情はするのですが、競技会5日前の提出期限は守るべきだと思います。

このルーティン用紙が揃ってから、記録係は規則通りに組込まれる9つのスタントを選んであるかどうか、又そのスタントの難易度をまちがえていないかどうか、更に平均難易率（5つの選択規定スタントの難易度を合計して5で割る）の計算が正しいかどうかを調べ、時には提出した7枚に訂正を加えたりする場合があります。

ルールがよく理解されているならば、このような誤記はない筈なのですが、時たま見うけるのは、新しい競技のせいなのでしょう、それとも、選手の勉強不足のせいなのでしょう。

さて、こんな準備も終えて競技会1日目はスタント演技に始まります。これはアメリカルールにならって、36年度から取入れられたものです。しかしこのため、又記録係の仕事は厄介さを増しました。尤も得点計算法は飛込の場合よりは種目が少いので簡単ですが、この得点を翌日のルーティン競技得点に加算して総合得点を発表しますので、競技後の整理仕事が残るわけです。ルーティンのソロの場合はそのまま加算してよいので問題はありますが、デュエットやチームとなると、各メンバーのスタント得点の平均を加算する規則ですので、得点用紙をあちこち引くりかえしては、数字を拾って平均計算をします。というわけで、第1日も終り選手も大方の役員ものんびりしている時に記録係はパチパチやることになってしまいました。

2日目は、シンクロらしいルーティン競技を行います。この時一番細かく気を遣うのは伴奏係員ではないでしょうか。「ルーティンの演技は音楽と共に始め同時に終らなければならない」規則ですので、選手はレコード演奏の速度、音量に非常に神経質になっています。それで演技前に許される試聴の時の注文に応じてプレイヤーを調整しなくてはならないのです。ところが、選手持参のレコードをみると、33 $\frac{1}{2}$ 、45等と回転速度の異なるもの針を中からかけるもの、ドーナツ盤、はてはテープレコ

ードまであって、非常にまちまちなので、苦心の程を御察し下さい。又この時水中スピーカー係員が協力して、1回1回もぐって調子を調べることになっていきます。

さてそこでやっと、水中バレーともよばれる位美しいルーティン競技の演技が展開されるわけですが、役員の辛さで、演技時間を心配したり得点計算に追われて、いつもゆっくり楽しんで演技を眺めることはできないようです。

どの水泳競技規則にも競技場の設備についていろいろの事項が記載されていますが、シンクロの場合プール大きさについては「広さ7m×7mの区域に於て、深さ2m以上の水域を一部有したもので……」とあるだけで距離とか形とかについてはふれていません。シンクロ競技会によく使う東京都屋内水泳場の飛込プールは八角ですし、深さは5m以上あります。ですから競技会を行うには深さの点さえよければ円形のプールでも、変形プールでもできるわけです。ただし実際に演技する選手達からききますと、プールの底にコースラインがあったり、側面の見通しがきく方が、水中で方向オンチにならないですむのでやりよいそうです。(Y)

三 講習会をかえりみて

春3月——学校の春休みを利用して主に初心者を対象に延1週間の講習を行うのが、ここ数年来のシンクロの年中行事の一つになり、今年も去る3月27日から4月2日まで東京YWCAのプールに於て都内をはじめとし、大阪、芦屋、浜松、広島から50余名の参加者を迎えて行いました。

級を上級（試合経験のある人）中級（或る程度スタントをこなせる人）初級（全く初めての人）の段階に分け、それぞれの泳力に応じたスケジュールを組み最後の日に全員参加でチームの競技会を行い1週間の成果を発表することにしました。上、中級はシーズンに先がけてスタントの正しい体得と錬磨に主眼をおき、別に問題はありませんでしたが初級の受講者は「50m以上泳げる人」というだけの条件なので泳ぐ力に個人差が多くそれを調整し1週間目にはともかくも3分間、沈まずに動いている状態にするには教える方、教わる方々大変な努力でした。まず基本となる4種の泳ぎ（クロール、バック、ブレスト、サイドストローク）を1通り行い、次にリズムに合せ、左右平均した力の配分で不必要なしぶきを立てずカッコよく泳ぐにはどうしたらよいかを説明し練習します。ここまではまだシンクロへの足がかりといったもので聞く耳さえ持てば誰でも自然にリズムに合わせて泳げ

るものです。その次にシンクロのすべての動作の基本であるスカーリング（あおむき姿勢になり両手を腰の位置でかいの様に動かし頭の方へ進む）に移りますがここに至って多くの人が水とは何と重くままならぬものかと感じ早くも理想と現実の差にがくぜんとする様です。シンクロってこんなに力のいるものと思わなかったわ」というのが初心者からよくきく感想です。数種に及ぶスタuntsの中から最も基礎的な難易率の低いものを選び、毎日新しいものを2つ位づつ行うという予定で2日目はえび型、かかえ型の前、後への回転から始めましたが、畳の上ででんぐり返しをする機会も少ないのでしょうか、水中で天地がひっくり返った時は大騒ぎで心を落着けて自分の水中の状態を理解するまで一苦労の様です。「水の中でも自分のひざから目を離さないで…」という「あら、水の中で目を開けているの？」などという人もいますし「私、死ぬかと思った」と、うらめしそうにいう人もいます。もぐれば水は容赦なく鼻から入り、呼吸調整に慣れない為、何度も水を飲み込んでしまい、おまけに顔をふいたり鼻をかんだりするのはシンクロではタブーですといわれ、目はかすみ鼻は痛く情けない思いで家路につくのが2日目あたりです。

限られた時間内で定められた種目をこなしていかなければならないので教える側としても、もう一押ししたい

時もままならず、少数の進度の遅い人にこんせつしていねいにかかり切ってもいられません。3日目位になるとなんとなくこつがみ込めてリズムに合わせて泳ぐ楽しさがかわってくる人がいる一方、一生懸命やってもままならぬ我身に悲観して「先生、私とても駄目です」と泣きべそをかく人もたまに見受けます。今回は5日目になりましたが、日曜でプールの使えない日を1日、競技規則の解説、スタuntsの分解説明、選曲及び演技構成上の注意などの講義にあって、スポーツとしてのシンクロの特殊性を理解してもらっています。

この様にして最終日をむかえ、相当な強行軍にたえ、落伍しないで残った人達の演技を見る時、成程、成せば成るものとコーチ一同又新たなファイトが沸いてきます。

現在は施設、コーチ等の関係から講習会開催が東京に限られ地方からの参加者が少ないのが残念ですが、いずれは機会を見つけて是非地方でも行う様にしたいと考えております。

シンクロが三度のメシの次くらいに好きな人がどんどん増えて日本のプールで足を揚げたりもぐったりするのが珍しい風景でなくなる日が1日も早くくる様祈りつつ筆を置きます。(M)

栗 村 中 丸 氏

日本水泳連盟常務理事、編集委員長 栗村中丸氏は5月11日 急逝されました。同氏は生前防衛施設庁総務部補償課長として 極めて多忙の中を、本誌の編集責任者として卒先事に当られ、又水連の役員として極めて将来を嘱目された方であるとともに読者諸氏にもおなじみ深い方でありましたが若くして逝かれた事は誠に惜しみても余りあるものであります。謹んで御冥福を御祈りする次第です。又、同氏の水泳略歴は次の通りです。

昭和14年 中央大学水泳部主将

昭和22年 中大水泳部監督、34年総監督、36年白水会水泳部副会長

昭和30年～38年 日本水泳連盟常務理事、31年記録委員長、34年編集委員長

なお政府より生前の功労を認められ5月11日付を以って正5位に叙し勲6等単光旭日章を授けられる旨叙勲の御沙汰を拝しました。



野 村 駿 吉 氏

日本水泳連盟顧問 財務委員 野村駿吉氏は5月13日逝去されました。

同氏は昭和21年日本水泳連盟顧問となり更に昭和36年財務委員として日本水泳発展のため尽くされました。なお同氏は日本ゴルフ界の長老であられることはあまりにも有名であります。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

オリンピック水泳競技日程

今年10月11日から10月18日まで国立総合体育館室内プールおよび東京都屋内プールにおいて開催されるオリンピック東京大会水泳競技の日程は、6月8・9日スイスのローザンヌで開催されたF・I・N・A・(国際水泳連盟)の理事会において、いちおう決定されていたが、そののち、若干の修正があつた。

オリンピック東京大会水泳・水球競技日程

昭和39年1月1日 現在

日本水泳連盟

国立総合体育館 室内プール			
日	部	開始～終了時間	競 技 種 目
第一日 (日) 10/11	午前	9. 30 }	1 女子 飛板飛込 予 選(1) 2 男子 100m 自由形 〃 9 組 3 女子 200m 平 泳 〃 5 組
		16. 30 }	4 女子 飛板飛込 予 選(2) 5 男子 100m 自由形 準決勝 6 女子 200m 平 泳 〃 7 男子 200m 背 泳 予 選 6 組
第二日 (月) 10/12	午前	10. 00 }	8 女子 飛板飛込 決 勝 9 女子 100m 自由形 予 選 6 組 10 男子 400m 個人メドレー 〃 4 組
		17. 30 }	11 男子 飛板飛込 予 選(1) 12 男子 200m 背 泳 準決勝 13 女子 100m 自由形 〃 14 女子 200m 平 泳 決 勝 15 男子 100m 自由形 〃
第三日 (火) 10/13	午前	9. 30 }	16 男子 飛板飛込 予 選(2) 17 男子 400m リレー 〃 3 組 18 女子 100m 背 泳 〃 5 組
		16. 00 }	19 男子 飛板飛込 予 選(3) 20 男子 200m 平 泳 〃 7 組 21 女子 100m 背 泳 準決勝 22 女子 100m 自由形 決 勝 23 男子 200m 背 泳 〃
第四日 (水)	午前	10. 00 }	24 水球 準決勝リーグ No. 1 25 男子 400m 自由形 予 選 6 組 26 女子 400m リレー 〃 2 組 27 男子 200m 平 泳 準決勝
		14. 30 }	近代五種 (水泳) 16. 30

日	部	開始～終了時間	競	技	種	目
第四日 (水) 10/14	午後	18. 30 } 21. 00	28	男子	飛板飛込	決勝
			29	男子	400m リレー	〃
			30	女子	100m 背泳	〃
			31	男子	400m 個人メドレー	〃
第五日 (木) 10/15	午前	9. 30 } 13. 00	32	女子	高飛込	予選
			33	女子	400m 個人メドレー	〃 3組
			34	男子	400m メドレーリレー	〃 3組
	午後	17. 00 } 21. 00	35	女子	高飛込	決勝
			36	女子	100m バタフライ	予選 4組
			37	水球	準決勝リーグ	No. 8
			38	男子	400m 自由形	決勝
			39	男子	200m 平泳	〃
40	女子	400m リレー	〃			
第六日 (金) 10/16	午前	10. 00 } 13. 00	41	男子	高飛込	予選(1)
			42	男子	200m バタフライ	〃 6組
			43	女子	400m メドレーリレー	〃 2組
	午後	17. 00 } 21. 00	44	男子	1500m 自由形	予選 6組
			45	女子	100m バタフライ	決勝
			46	男子	400m メドレーリレー	〃
第七日 (土) 10/17	午前	8. 00 } 13. 40	47	男子	高飛込	予選(2)
			48	女子	400m 自由形	〃 4組
			49	男子	800m リレー	〃 3組
	午後	15. 30 } 21. 00	50	男子	高飛込	予選(3)
			51	水球	決勝リーグ	No. 2
			52	男子	200m バタフライ	準決勝
			53	男子	1500m 自由形	決勝
			54	女子	400m 個人メドレー	〃
第八日 (日) 10/18	午前	10. 00 } 12. 00	55	男子	高飛込	決勝
			56	女子	400m 自由形	〃
			57	男子	200m バタフライ	〃
	午後	16. 00 } 18. 00	58	水球	決勝リーグ	No. 4
			59	女子	400m メドレーリレー	決勝
			60	男子	800m リレー	〃
東京都屋内プール						
日	部	開始～終了時間	競	技	種	目
第一日 (日) 10/11	午前	10. 00 } 14. 30	1	水球	予選リーグ	No. 1
			2	〃	〃	2
			3	〃	〃	3
			4	〃	〃	4
	午後	16. 30 } 21. 00	5	〃	〃	No. 5
			6	〃	〃	6
			7	〃	〃	7
			8	〃	〃	8

日	部	開始～終了時間	競 技 種 目		
第二日 (月) 10/12	午 前	10.00 } 14.30	9 水球 予選リーグ	No. 9	
			10	ノ	10
			11	ノ	11
			12	ノ	12
	午 後	16.30 } 21.00	13	ノ	No.13
			14	ノ	14
			15	ノ	15
			16	ノ	16
第三日 (火) 10/13	午 前	10.00 } 14.30	17	ノ	No.17
			18	ノ	18
			19	ノ	19
			20	ノ	20
	午 後	16.30 } 21.00	21	ノ	No.21
			22	ノ	22
			23	ノ	23
			24	ノ	24
第四日 (水) 10/14	午 後	13.00 } 16.30	25 水球 準決勝リーグ	No. 2	
			26	ノ	3
			27	ノ	4
第五日 (木) 10/15	午 後	13.00 } 16.30	28	ノ	No. 5
			29	ノ	6
			30	ノ	7
第六日 (金) 10/16					
第七日 (土) 10/17	午 後	13.00 } 16.30	31 水球 決勝リーグ	No. 1	
			32 水球 順位決定リーグ	No. 1	
			33	ノ	2
第八日 (日) 10/18	午 後	13.00 } 16.30	34 水球 決勝リーグ	No. 3	
			35 水球 順位決定リーグ	No. 3	
			36	ノ	4

水泳競技入場券価格

競 泳, 飛 込 (国立総合体育館室内プール)

午 前	2,000.—	1,000.—	500.—	300.—
午 後	3,000.—	2,000.—	1,000.—	500.—

水 球 (東京都屋内プール)

午 前	1,000.—	500.—	300.—
午 後	1,000.—	500.—	300.—

オリンピック水泳競技日程 (案)

来年10月開催されるオリンピック大会は、余すところあと1年6ヵ月足らずに迫ったが、かねて水泳連盟内に設けられているオリンピック準備委員会は、昨年初頭以来、根上準備委員長が陣頭に立ち大会競技日程、入場券発売と割当問題、機械審判器と競技諸施設、オリンピックプールの設計構造、競技役員構成とその受入、その他競技運営の問題等いわばオリンピック開催のための舞台裏ともいべき諸案件の解決をかかえ、組織委員会、

体協、JOC、FINA事務局、政府各機関等との折衝連絡に日夜忙殺されてきたが、この程関係委員の努力により概ねその大筋が決められた。

その内水泳関係者にとり最も関心の深かった競技日程と入場券の発売方法が別項の如く決定した。しかし競技日程については、本年6月開催されるFINA理事会(ローザンヌ)に提案、正式承認の上最終的決定の運びとなっている。

オリンピック東京大会水泳、水球日程 (案)

国立総合体育館 室内プール					
日	部	開始～終了時間	競 技 種 目	所要時間	
第一日 (日) 10/11	午前	9. 00	(1) 女子飛板飛込	予 選(1)	160分
		13. 30	(2) 男子 100m 自由形	" 9組	90
	午後	16. 00	(3) 女子飛板飛込	予 選(2)	120
		21. 00	(4) 女子 200m 平泳	" 5組	60
			(5) 男子 200m 背泳	" 6組	60
			(6) 男子 100m 自由形	準決勝	30
第二日 (月) 10/12	午前	10. 00	(7) 女子飛板飛込	決 勝	60
		13. 30	(8) 女子 100m 自由形	予 選 6組	60
			(9) 男子 400m 個人メドレー	" 4組	60
	午後	17. 00 21. 30	(10) 男子 200m 背泳	準決勝	30
			(11) 女子 100m 自由形	"	30
			(12) 女子 200m 平泳	決 勝	25
(13) 男子 100m 自由形	"	25			
第三日 (火) 10/13	午前	8. 30	(14) 男子飛板飛込	予 選(1)	220
		14. 00	(15) 男子 400m リレー	" 3組	50
			(16) 女子 100m 背泳	" 5組	50
	午後	16. 00 21. 00	(17) 男子飛板飛込	予 選(2)	160
			(18) 男子 200m 平泳	" 7組	70
			(19) 女子 100m 自由形	決 勝	25
(20) 男子 200m 背泳	"	25			
第四日 (水)	午前	10. 00 15. 00	(21) 男子飛板飛込	決 勝	60
			(22) 男子 400m 自由形	予 選 6組	70
			(23) 女子 400m リレー	" 2組	30
			(24) 男子 200m 平泳	準決勝	30
			(25) 近代五種(水泳)		60

日	部	開始～終了時間	競 技 種 目	所要時間
第四日 (水) 10/14	午後	18. 30 } 21. 00	(26) 水球準決勝リーグ No.4	60
			(27) 男子 400m 個人メドレー 決勝	30
			(28) 女子 100m 背泳 "	25
			(29) 男子 400m リレー "	30
第五日 (木) 10/15	午前	9. 00 } 13. 00	(30) 女子高飛込 予 選	160
			(31) 女子 400m 個人メドレー " 3組	45
			(32) 男子 400m メドレーリレー " 3組	60
	午後	17. 30 } 21. 00	(33) 女子 100m バタフライ 予 選 4組	40
			(34) 水球準決勝リーグ No.8	60
			(35) 男子 400m 自由形 決 勝	30
			(36) 男子 200m 平泳 "	25
(37) 女子 400m リレー "	25			
第六日 (金) 10/15	午前	10. 00 } 13. 00	(38) 女子高飛込 決 勝	60
			(39) 男子 200m バタフライ 予 選 6組	60
			(40) 女子 400m メドレーリレー " 2組	40
	午後	17. 00 } 21. 00	(41) 男子 1500m 自由形 予 選 6組	180
			(43) 女子 100m バタフライ 決 勝	25
(43) 男子 400m メドレーリレー "	25			
第七日 (土) 10/17	午前	8. 00 } 13. 40	(44) 男子高飛込 予 選(2)	220
			(45) 女子 400m 自由形 " 4組	60
			(46) 男子 800m リレー " 3組	60
	午後	15. 30 } 21. 00	(47) 男子高飛込 予 選(2)	160
			(48) 水球決勝リーグ No.2	60
			(49) 男子 200m バタフライ 準決勝	30
(50) 男子 1500m 自由形 決 勝	30			
(51) 女子 400m 個人メドレー "	25			
第八日 (日) 10/18	午前	10. 00 } 12. 00	(52) 男子高飛込 決 勝	60
			(53) 女子 400m 自由形 "	25
			(54) 男子 200m バタフライ "	25
	午後	16. 00 } 18. 00	(55) 水球決勝リーグ No.4	60
			(56) 女子 400m メドレーリレー 決 勝	25
(57) 男子 800m リレー "	30			

東 京 都 屋 内 プ ー ル

日	部	開始～終了時間	競 技 種 目	所要時間
第一日 (日) 10/11	午前	10. 00 } 14. 30	(1) 水球予選リーグ No. 1	60
			(2) " 2	"
			(3) " 3	"
			(4) " 4	"
	午後	16. 30 } 21. 00	(5) " 5	60
			(6) " 6	"
			(7) " 7	"
			(8) " 8	"

日	部	開始～終了時間	競 技 種 目	所属時間	
第二日 (月) 10/12	午 前	10.00 } 14.30	(9) 水球予選リーグ No. 9	60	
			(10) "	10	"
			(11) "	11	"
			(12) "	12	"
	午 後	16.30 } 21.00	(13) "	13	60
			(14) "	14	"
			(15) "	15	"
			(16) "	16	"
第三日 (火) 10/13	午 前	10.00 } 14.30	(17) "	17	60
			(18) "	18	"
			(19) "	19	"
			(20) "	20	"
	午 後	16.30 } 21.00	(21) "	21	60
			(22) "	22	"
			(23) "	23	"
			(24) "	24	"
第四日 (水) 10/14	午 後	13.00 } 16.30	(25) 水球準決勝リーグ No. 1	60	
			(26) "	2	"
			(27) "	3	"
第五日 (木) 10/15	午 後	13.00 } 16.30	(28) "	5	60
			(29) "	6	"
			(30) "	7	"
第六日 (金) 10/16					
第七日 (土) 10/17	午 後	13.00 } 16.30	(31) 水球決勝リーグ No. 1	60	
			(32) 水球順位決定リーグ No. 1	"	
			(33) "	2	"
第八日 (日) 10/18	午 後	13.00 } 16.30	(34) 水球決勝リーグ No. 3	60	
			(35) 水球順位決定リーグ No. 3	"	
			(36) "	4	"

水 泳 競 技 入 場 券 価 格

競 泳, 飛 込 (国立総合体育館室内プール)

午 前	2,000.—	1,000.—	500.—	300.—
午 後	3,000.—	2,000.—	1,000.—	500.—

水 球 (東京都屋内プール)

午 前	1,000.—	500.—	300.—
午 後	1,000.—	500.—	300.—

オリンピック競泳準候補選手決定

日本水泳連盟強化本部に於ては5月22日オリンピック競泳候補選手の変更と競泳準候補選手を次の通り決定発表した。

候補辞退 ④ 清水啓吾(ゼネラル物産) 中川 清(ゼネラル物産) 佐藤喜子(ロート製薬) 西田千穂子(旭化成)
 新決定 ⑦ 庄司敏夫(BSタイヤ) 浦 満広(八幡製鉄) 福井 清(大洋漁業) 三好恭弘(三好製紙)
 齋藤 哲(立正高) 青木守喬(日大豊山高) 松永涼子(ロート製薬)

準候補

男子	女子																																				
学生部会 (20) 奥田 桂次(早大) 田中 英雄(") 門口 伯康(") 久保田宇利(日大) 栗林 徳治(") 金親 義弘(") 遠藤 英康(") 丸井 久人(") 藤丸 靖久(中大) 兵藤 正時(") 馬場 政儀(") 林 祐士郎(") 沢田 義勝(") 小寺 隆昌(明大) 杉山 悟(") 平沢 瑞夫(法大) 古屋 英昭(") 中村 康博(立大) 片岡 輝男(") 高嶺 隆二(慶大) 関東ブロック (7) 宇田 宏(修徳高) 福田 憲二(日大豊山高) 藤田 修孝(") 岡本 勇(国土館高)	宮良 高志(日大豊山高) 猪野 正之(") 野口 和雄(") 中部ブロック (4) 大池 巖(愛知学高) 松波 守(") 鈴木 欽次(磐田農高) 岡田 和夫(興誠高) 近畿ブロック (6) 岩村 尙男(姫工大附高) 折戸 博(桜宮高) 溝脇 国和(") 前田 治(") 山田 一男(天理高) 坂本 憲正(桜宮高) 中国ブロック (7) 金本 博幸(柳井商工) 田村 稔(宇部興産) 重永 義則(") 沢田 豊治(") 鶴峯 治(海上自衛隊) 門永 吉典(柳井商工) 井上富美造(海上自衛隊) 四国ブロック (2) 弘瀬 高尚(高知高) 川村 豊(")																																				
九州ブロック (7) 重松 親征(BSタイヤ) 青木 剛(佐伯鶴城) 青田 正明(臼杵高) 大渡 幹士(諫早商工) 古川 剛(") 久保健一郎(") 末次 学(三瀬高)	加藤 靖子(ロート製薬) 中井 宏子(五条高) 佐藤 公子(天理高) 西本 淑子(") 和田 靖子(東津レ) 中国ブロック (2) 高松 千歳(宇部興産) 梅田 雅子(竹原高) 四国ブロック (1) 中平 明子(土佐女中) 九州ブロック (4) 青木いち子(旭化成) 森実 芳子(杷木中) 重信 幸子(") 松元 妙子(旭化成)																																				
男子合計 53	女子合計 25																																				
関東ブロック (7) 高島 美枝(成女高) 木村 遊子(東田中) 牧谷 仁子(佼成中) 国島由美子(成女中) 霜村美沙子(成徳中) 中島 孝子(三菱銀行) 若月 幸恵(成女中)	女子合計 25																																				
中部ブロック (5) 永坂美恵子(淑徳女高) 皆月 洋子(") 石川 和子(富士中) 稲本 美鈴(淑徳女中) 小森美知子(")	女子合計 25																																				
近畿ブロック (6) 村松美智子(ロート製薬)																																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>関東ブロック</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>中部</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>近畿</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>中国</td> <td>7</td> <td>2</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>四国</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>九州</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>学生部会</td> <td>20</td> <td>0</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>53</td> <td>25</td> <td>78</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	合計	関東ブロック	7	7	14	中部	4	5	9	近畿	6	6	12	中国	7	2	9	四国	2	1	3	九州	7	4	11	学生部会	20	0	20	合計	53	25	78
	男	女	合計																																		
関東ブロック	7	7	14																																		
中部	4	5	9																																		
近畿	6	6	12																																		
中国	7	2	9																																		
四国	2	1	3																																		
九州	7	4	11																																		
学生部会	20	0	20																																		
合計	53	25	78																																		

オリンピック入場券の予約前売について

加盟団体、学生部会支部へ御願ひ。

来る昭和39年10月に行われるオリンピック大会の水泳および水球競技の入場券の予約前売券中、各府県割当の券は全部日本水泳連盟が取扱うことになりました。従って水連では加盟団体中沖縄を除く50団体と学生部会の4支部および水連本部の55口に分けて之を取扱の窓口として、この窓口毎に予約をまとめて頂き組織委員会の割当を消化したいと考えております。

就きましてはこの予約事務は相当に繁雑な帳簿組織と伝票制度により処理されますので、現在の水連の事務局の能力では困難かと予想されますので、今般株式会社大和銀行を取扱機関に指定して予約事務の一切を代行させることに致しました。

(之は入場券の取扱をする競技団体が水陸両連盟だけであり、大和銀行は陸連の入場券取扱の代行機関にも指定され、且、事務一切を無償で遂行するとの申出を得ておりますので、之に決めた次第でありますので御了

承下さい)

取扱券数は水泳、水球各競技の売出枚数の約2割ということになっており、近日組織委員会との打合せで、この数は確定致しますが、確定次第常務理事会に於て加盟団体割当を行います。

各競技団体に於かれては、この入場券取扱責任者を御指定の上、入場券の必要数(希望概数)も添えて5月末日迄に御報告下さい。

この入場券の予約書式の印刷物が完了次第、速やかにブロック毎にこの取扱事務一切の詳細な説明会を開催致します(6月の予定)が之は追て日時、場所を各加盟団体の御申出による取扱責任者宛に御知らせ申し上げます。

(加盟団体所在地から説明会会場までの2等往復旅費は当日差上げます)

なお加盟団体には取扱手数料として取扱金額の2%程度を差上げられることになっております。

第5回末弘記念日本室内選手権

4月6、7日 東京都屋内プール (50m)

男子の部

100m 自由形

予選A

- 1 岡部 幸明 (早大) 56.9
- 2 石川 浩 (法大) 59.6
- 3 戸崎 修身 (立大) 1:00.9
- 4 毛利 清三 (白水会) 1:01.1
- 5 松尾 清彦 (三水会) 1:02.1

B

- 1 竹本 昭和 (早大) 59.2
- 2 山影 武士 (関西高OB) 59.2
- 3 小泉 弘 (立大) 1:00.9
- 4 堤 秀雄 (大洋漁業) 1:01.0
- 5 衣斐 輝文 (白水会) 1:02.2

C

- 1 森田 武男 (日大豊山高) 58.9
- 2 田村 稔 (宇部興産) 59.5
- 3 吉見 行雄 (日大) 59.6
- 4 梶原文雄 (法大) 59.9
- 5 池田 芳玄 (天理大) 1:01.0
- 6 前田 正明 (桜宮高) 1:01.4

D

- 1 福井 誠 (八幡製鉄) 56.6
- 2 久保田宇利 (日大) 58.4
- 3 小島 弦 (東大) 59.7
- 4 田代 信一 (早大) 59.8
- 5 石津 敏夫 (駿台ク) 1:01.9

E

- 1 鈴木 清男 (法大) 1:00.4
- 2 浅沼 宏志 (青学大) 1:01.6
- 3 吉田 英機 (日大) 1:02.2
- 4 谷増 敏男 (山陽高OB) 1:02.2

F

- 1 福井 清 (大洋漁業) 57.5
- 2 高嶺 隆二 (三水会) 59.8
- 3 坂口 達也 (白水会) 1:00.3
- 4 片岡 輝男 (立大) 1:01.2
- 5 堀川 俊一 (高知高OB) 1:01.5

G

- 1 後藤 忠治 (日大) 57.7
- 2 菅 正文 (白水会) 58.7

- 3 田村 武司 (三水会) 1:01.5
- 4 岡本 顕 (大田高OB) 1:01.8

決勝

- 1 福井 誠 (八幡製鉄) 55.8
(日本新)
- 2 岡部 幸明 (早大) 56.9
- 3 後藤 忠治 (日大) 57.7
- 4 福井 清 (大洋漁業) 57.8
- 5 久保田宇利 (日大) 58.6
- 6 森田 武男 (日大豊山高) 59.1
- 7 菅 正文 (白水会) 59.1
- 8 竹本 昭和 (早大) 59.4

200m 自由形

予選A

- 1 福井 誠 (八幡製鉄) 2:04.6
- 2 田村 稔 (宇部興産) 2:14.4
- 3 菅 正文 (白水会) 2:16.2
- 4 金本 博幸 (柳井商工) 2:17.2
- 5 竹林 功男 (三水会) 2:17.4

B

- 1 藤本 達夫 (松下電器) 2:07.8
- 2 森田 武男 (日大豊山高) 2:10.4
- 3 吉見 行雄 (日大) 2:11.8

C

- 1 後藤 忠治 (日大) 2:07.0
- 2 門口 伯康 (早大) 2:11.1
- 3 西野 勝弘 (駿台ク) 2:15.3
- 4 伊藤 勝二 (東北ブロック) 2:17.0

D

- 5 内田 泉 (海自一術) 2:17.5
- 1 山影 武士 (関西高OB) 2:10.1
- 2 竹本 昭和 (早大) 2:15.1
- 3 堤 秀雄 (大洋漁業) 2:17.2

E

- 1 岡部 幸明 (早大) 2:06.1
- 2 小島 弦 (東大) 2:15.0
- 3 大池 巖 (愛知高) 2:15.9
- 4 阿部 紀夫 (法大) 2:16.7

F

- 1 高嶺 隆二 (三水会) 2:11.8
- 2 久保田宇利 (日大) 2:13.2

- 3 田代 信一 (早大) 2:14.9
- 4 岡本 顕 (大田高OB) 2:16.0

G

- 1 庄司 敏夫 (BSタイヤ) 2:06.8
- 2 吉村 喜平 (旭化成) 2:12.4
- 3 仲谷 昌夫 (佐伯鶴城OB) 2:15.1
- 4 石垣 正三 (名大付OB) 2:17.4
- 5 前田 正明 (桜宮高) 2:17.7

H

- 1 池田 芳玄 (天理大) 2:13.9

決勝

- 1 福井 誠 (八幡製鉄) 2:02.8
- 2 庄司 敏夫 (BSタイヤ) 2:05.2
- 3 岡部 幸明 (早大) 2:05.7
- 4 藤本 達夫 (松下電器) 2:05.8
- 5 後藤 忠治 (日大) 2:06.8
- 6 森田 武男 (日大豊山高) 2:09.8
- 7 山影 武士 (関西高OB) 2:10.2
- 8 門口 伯康 (早大) 2:11.1

400m 自由形

予選A

- 1 庄司 敏夫 (BSタイヤ) 4:32.9
- 2 奥田 桂次 (早大) 4:38.3
- 3 多田 寿之 (尾道高OB) 4:38.6
- 4 西野 勝弘 (駿台ク) 4:51.1
- 5 大池 巖 (愛知学高) 4:52.9
- 6 内田 泉 (海自一術) 4:55.8

B

- 1 佐々木末昭 (白水会) 4:30.5
- 2 吉無田春男 (八幡製鉄) 4:30.6
- 3 山田 忠信 (早大) 4:40.3
- 4 竹林 功男 (三水会) 4:54.8
- 5 長野 優 (三潞高OB) 4:56.3

C

- 1 浦 満広 (八幡製鉄) 4:39.9
- 2 木田 和夫 (佐伯鶴城高) 4:41.5
- 3 松本登八郎 (日大) 4:43.5
- 4 渡辺 恒夫 (駿台ク) 4:44.5
- 5 山本 紀勝 (海自一術) 4:49.6
- 6 鈴木 勝 (三水会) 4:59.3

D

- 1 門口 伯康(早大) 4:42.3
- 2 佐原 年昭(白水会) 4:44.1
- 3 藤丸 靖久(三瀬高OB)4:48.3
- 4 弓削 敏光(海自一術) 4:54.2

E

- 1 靱山 稔(日本鋼管) 4:40.2
- 2 吉村 喜平(旭化成) 4:44.4
- 3 中坊 昌美(BSタイヤ)4:46.7
- 4 伊藤 勝二(東北ブロック)
4:48.8
- 5 笠井 利昭(日大) 4:53.5
- 6 井原 啓之(立大) 4:53.7

F

- 1 藤本 達夫(松下電器) 4:33.6
- 2 中野 悟(桜宮高) 4:37.8
- 3 梶本 邦弘(白水会) 4:46.8
- 4 仲谷 昌夫(佐伯鶴城高)4:47.9

決勝

- 1 藤本 達夫(松下電器) 4:29.0
- 2 吉無田春男(八幡製鉄) 4:29.4
- 3 庄司 敏夫(BSタイヤ)4:29.5
- 4 佐々木末昭(白水会) 4:30.6
- 5 浦 満広(八幡製鉄) 4:32.6
- 6 多田 寿之(尾道高OB)4:37.6
- 7 中野 悟(桜宮高) 4:38.3
- 8 奥田 桂次(早大) 4:38.7

1500m 自由形

予選A

- 1 吉無田春男(八幡製鉄) 18:31.3
- 2 靱山 稔(日本鋼管) 18:43.1
- 3 中野 悟(桜宮高) 18:45.6
- 4 多田 寿之(尾道商OB)19:13.2
- 5 弓削 敏光(海自一術) 19:16.2
- 6 梶本 邦弘(白水会) 19:17.2
- 7 中坊 昌美(BSタイヤ)19:18.5

B

- 1 佐々木末昭(白水会) 18:28.6
- 2 山田 忠信(早大) 18:30.5
- 3 木田 和夫(佐伯鶴城) 18:39.9
- 4 唐松 長一(駿台ク) 19:06.8
- 5 松木登八郎(日大) 19:18.7
- 6 長野 優(三瀬高OB)19:47.0

C

- 1 浦 満弘(八幡製鉄) 18:43.3
- 2 奥田 桂次(早大) 18:51.2
- 3 佐原 年昭(白水会) 19:11.2

- 4 渡辺 恒夫(駿台ク) 19:13.4
- 5 藤丸 靖久(三瀬高OB)19:21.6
- 6 笠井 利昭(日大) 19:33.0
- 7 山本 紀勝(海自一術) 19:39.5

決勝

- 1 佐々木末昭(白水会) 17:51.9
- 2 吉無田春男(八幡製鉄) 18:06.8
- 3 山田 忠信(早大) 18:18.7
- 4 靱山 稔(日本鋼管) 18:27.6
- 5 中野 悟(桜宮高) 18:32.1
- 6 浦 満広(八幡製鉄) 18:33.0
- 7 木田 和夫(佐伯鶴城高)18:33.8
- 8 奥田 桂次(早大) 18:36.4

100m 平泳

予選A

- 1 古川 剛(諫早商高) 1:13.5
- 2 高島 光生(三瀬高OB)1:14.3
- 3 折戸 博(桜宮高) 1:18.0
- 4 寺尾 友孝(立大) 1:18.2
- 5 加根魯純二(国士館大) 1:18.3

B

- 1 中野 勇治(宇部興産) 1:12.2
- 2 大渡 幹士(諫早商高) 1:14.3
- 3 鶴峯 治(海自一術) 1:15.1
- 4 辻 孝男(佐伯鶴城) 1:16.7
- 5 本間 勝彦(相川高) 1:17.0

C

- 1 石川 健二(日大豊山高)1:12.5
- 2 伊藤 靖博(BSタイヤ)1:14.6
- 3 小寺 隆昌(駿台ク) 1:14.9
- 4 樋口 裕(白水会) 1:15.2
- 5 栗林 徳治(五条高OB)1:18.7

D

- 1 重松 盛人(八幡製鉄) 1:14.4
- 2 兵藤 正時(白水会) 1:16.4
- 3 前田 鎮禰(泉丘高) 1:17.4
- 4 合田 伸嘉(法大) 1:17.7
- 5 小笹 勝二(立大) 1:18.5

E

- 1 松本健次郎(早大) 1:11.6
- 2 和気 統(日大) 1:14.3
- 3 野々村嘉昭(白水会) 1:15.0
- 4 平野 国雄(青学大) 1:19.0
- 5 外山 信行(三水会) 1:19.5

F

- 1 敷石 義秋(日大) 1:12.6

- 2 鈴木 欽治(磐田農高) 1:17.0
- 3 荻田 文彦(早実高) 1:20.0

決勝

- 1 松本健次郎(早大) 1:11.9
- 2 中野 勇治(宇部興産) 1:12.6
- 3 敷石 義秋(日大) 1:12.6
- 4 石川 健二(日大豊山高)1:12.9
- 5 古川 剛(諫早商高) 1:13.8
- 6 和気 統(日大) 1:13.8
- 7 大渡 幹士(諫早商高) 1:14.1
- 8 高島 光生(三瀬高OB)1:14.4

200m 平泳

予選A

- 1 重松 盛人(八幡製鉄) 2:40.9
- 2 古川 剛(諫早商高) 2:44.5
- 3 樋口 裕(白水会) 2:44.8
- 4 小牧 紘一(三水会) 2:51.6
- 5 上村 好司(愛知中) 2:53.4
- 6 加賀 円造(東邦高) 2:57.5

B

- 1 兵藤 正時(白水会) 2:44.0
- 2 大渡 幹士(諫早商高) 2:44.3
- 3 本間 勝彦(相川高) 2:48.0
- 4 加根魯純二(国士館大) 2:50.4
- 5 外山 信行(三水会) 2:55.7

C

- 1 石川 健二(日大豊山高)2:38.7
- 2 合田 伸嘉(法大) 2:45.0
- 3 鈴木 欽次(磐田農高) 2:48.2
- 4 古屋 英昭(諫早商高) 2:52.2
- 5 辻 孝男(佐伯鶴城高)2:53.9
- 6 折戸 博(桜宮高) 2:54.4
- 7 古田 和雄(東田中) 2:55.3

D

- 1 和気 統(日大) 2:39.3
- 2 鶴峯 治(海自一術) 2:43.9
- 3 野々村嘉昭(白水会) 2:44.2
- 4 小寺 隆昌(駿台ク) 2:44.3
- 5 前田 鎮禰(泉丘高) 2:45.7
- 6 荻田 文彦(早実高) 2:51.1
- 7 天野 政司(吉原市商) 2:55.3
- 8 秀島 敏男(白水会) 2:56.9

E

- 1 松本健次郎(早大) 2:37.0
- 2 中野 勇治(宇部興産) 2:39.2
- 3 伊藤 靖博(BSタイヤ)2:39.5

- 4 高島 光生 (三潞高OB) 2:40.4
 5 山本 利勝 (海自一術) 2:52.0
 6 寺尾 友孝 (立 大) 2:53.2
 7 山崎 武久 (高知高OB) 2:55.3

F

- 1 敷石 義秋 (日 大) 2:38.8
 2 小笹 勝二 (立 大) 2:48.7
 3 栗林 徳治 (五条高OB) 2:49.7
 4 川島 文雄 (磐田農高) 2:52.5

決勝

- 1 松本健次郎 (早 大) 2:36.2
 2 和気 統 (日 大) 2:39.0
 3 中野 勇治 (宇部興産) 2:39.1
 4 敷石 義秋 (日 大) 2:39.2
 5 石川 健二 (日大豊山高) 2:39.6
 6 高島 光生 (三潞高) 2:39.6
 7 伊藤 靖博 (BSタイヤ) 2:41.7
 8 重松 盛人 (八幡製鉄) 2:41.7

100m バタフライ

予選A

- 1 中島 功 (BSタイヤ) 1:01.5
 2 三好 恭弘 (白水会) 1:03.7
 3 江本 正 (柳井商工) 1:04.5
 4 馬場 政義 (白水会) 1:06.1
 5 北村 慶二 (諫早高OB) 1:08.2

B

- 1 岩本 光司 (早 大) 1:02.5
 2 F. ベアード (アメリカンS) 1:03.3
 3 管 隆則 (佐伯鶴城OB) 1:03.9

- 4 赤毛 秀次 (立 大) 1:05.9
 5 金親 義弘 (日 大) 1:05.9
 6 横山 徹郎 (日大豊山高) 1:06.6

C

- 1 大林 敦 (白水会) 1:00.5
 2 井筒 賢造 (早 大) 1:04.4
 3 北村 修一 (修徳高) 1:05.2
 4 杉浦 直樹 (日 大) 1:07.1
 5 曾我 尚志 (青学大) 1:08.9

D

- 1 佐藤 好助 (八幡製鉄) 1:01.2
 2 大賀 睦郎 (明大中野OB) 1:02.8
 3 中村 康博 (立 大) 1:03.1
 4 上田 紀男 (法 大) 1:04.2

- 5 桑原 穰 (海自一術) 1:06.4
 6 山野内伸二 (佐伯鶴城) 1:08.4

E

- 1 増永 文昭 (日鉦佐賀関) 1:01.0
 2 神坂 忠一 (立 大) 1:02.9
 3 田中 英雄 (早 大) 1:05.2
 4 向井 岩喜 (法 大) 1:06.4
 5 尾谷 庸三 (海自一術) 1:07.5
 6 岡本 明 (国士館高) 1:08.6

決勝

- 1 中島 功 (BSタイヤ) 1:00.7
 2 佐藤 好助 (八幡製鉄) 1:00.9
 3 大林 敦 (白水会) 1:00.9
 4 増永 文昭 (日鉦佐賀関) 1:01.1
 5 大賀 睦郎 (明大中野高) 1:02.0
 6 岩本 光司 (早 大) 1:02.5
 7 神坂 忠一 (立 大) 1:02.7
 8 中村 康博 (立 大) 1:03.2

200m バタフライ

予選A

- 1 大林 敦 (白水会) 2:17.1
 2 岩本 光司 (早 大) 2:19.1
 3 江本 正 (柳井商工) 2:24.5
 4 赤毛 秀次 (立 大) 2:24.5
 5 金親 義弘 (日 大) 2:27.5
 6 F. ベアード (アメリカンS) 2:34.0

- 7 業天 健 (法 大) 2:36.9

B

- 1 増永 文昭 (日鉦佐賀関) 2:16.3
 2 管 隆則 (佐伯鶴城OB) 2:21.3
 3 田中 英雄 (早 大) 2:21.9
 4 神坂 忠一 (立 大) 2:24.0
 5 横山 徹郎 (日大豊山高) 2:31.5

C

- 1 中村 康博 (立 大) 2:20.4
 2 中島 功 (BSタイヤ) 2:21.9
 3 北村 修一 (修徳高) 2:25.5
 4 馬場 政儀 (白水会) 2:29.4
 5 芥川己之助 (三水会) 2:32.6
 6 坂本 憲正 (桜宮高) 2:35.7

D

- 1 井筒 賢造 (早 大) 2:21.7
 2 大賀 睦郎 (明大中野OB) 2:28.0
 3 山野内伸二 (佐伯鶴城) 2:28.7

- 4 北村 慶二 (諫早商高OB) 2:34.3

E

- 1 三好 恭弘 (白水会) 2:18.7
 2 佐藤 好助 (八幡製鉄) 2:19.2
 3 上田 紀男 (法 大) 2:21.1
 4 門永 吉典 (柳井商工) 2:30.8
 5 橋本 功 (桜宮高) 2:39.2

決勝

- 1 増永 文昭 (日鉦佐賀関) 2:14.3
 2 大林 敦 (白水会) 2:16.5
 3 佐藤 好助 (八幡製鉄) 2:18.2
 4 三好 恭弘 (白水会) 2:18.7
 5 岩本 光司 (早 大) 2:19.6
 6 中村 康博 (立 大) 2:19.8
 7 上田 紀男 (法 大) 2:20.8
 8 管 隆則 (佐伯鶴城OB) 2:21.3

100m 背泳

予選A

- 1 富田 一雄 (BSタイヤ) 1:03.8
 2 林 祐四郎 (白水会) 1:05.1
 3 中原 紀 (八幡製鉄) 1:05.2
 4 管 征夫 (白水会) 1:08.4
 5 沢田 義勝 (長良高OB) 1:09.2
 6 柴田 利男 (宇部興産) 1:09.6
 7 松田 史剛 (立 大) 1:09.6
 8 浅井 力 (東邦高) 1:12.3

B

- 1 田中 広征 (早 大) 1:05.6
 2 渡辺 和夫 (東京トヨベ) 1:05.7
 3 大隅 潔 (駿台ク) 1:06.5
 4 田中 透 (日 大) 1:09.3
 5 井上 彬 (白水会) 1:09.6
 6 酒井 良明 (BSタイヤ) 1:10.1
 7 平沢 瑞夫 (竜ヶ崎OB) 1:11.4

C

- 1 福島 滋雄 (日 大) 1:02.1 (日本新)
 2 角間 三男 (早 大) 1:07.8
 3 杉山 悟 (磐田農OB) 1:08.5
 4 岡部 徹 (白水会) 1:11.5

D

- 1 伊藤 圭祐 (早 大) 1:04.3
 2 五十嵐武清 (日 大) 1:04.7
 3 田中 晴夫 (修徳高) 1:10.7

- 4 岡田 和夫 (興誠商高) 1:12.3
5 辻 義継 (桜宮高) 1:13.6

E

- 1 青木 守喬 (日大豊山高)1:06.6
2 三木 隆二 (日本鋼管) 1:07.6
3 井上富美造 (海自一術) 1:09.5
4 岡本 勇 (国土館高) 1:11.4
5 小林 弘 (日大豊山高)1:12.8

決勝

- 1 福島 滋雄 (日大) 1:03.0
2 富田 一雄 (BSタイヤ)1:03.6
3 伊藤 圭祐 (早大) 1:03.8
4 渡辺 和夫 (東京トヨペ)1:05.0
5 林 祐士郎 (白水会) 1:05.4
6 中原 紀 (八幡製鉄) 1:05.7
7 五十嵐武清 (日大) 1:05.8
8 田中 広征 (早大) 1:05.8

200m 背泳

予選A

- 1 富田 一雄 (BSタイヤ)2:20.1
2 大隅 潔 (駿台ク) 2:21.3
3 角間 三雄 (早大) 2:25.3
4 青木 守喬 (日大豊山高)2:27.5
5 杉山 悟 (磐田農OB)2:29.6
6 沢田 義勝 (長良高OB)2:33.4
7 菅 征夫 (白水会) 2:34.5
8 辻 義継 (桜宮高) 2:39.5

B

- 1 中原 紀 (八幡製鉄) 2:21.6
2 五十嵐武清 (日大) 2:24.0
3 酒井 良明 (BSタイヤ)2:30.8
4 三木 隆二 (日本鋼管) 2:31.0
5 田中 晴夫 (修徳高) 2:35.5
6 井上 彬 (白水会) 2:36.8
7 岡本 勇 (国土館高) 2:39.2

C

- 1 伊藤 圭祐 (早大) 2:22.3
2 林 祐士郎 (白水会) 2:24.5
3 渡辺 和夫 (東京トヨペ)2:25.5
4 田中 透 (日大) 2:31.7
5 松田 史剛 (立大) 2:35.4

D

- 1 福島 滋雄 (日大) 2:14.5
(日本新)
2 田中 広征 (早大) 2:25.0
3 柴田 利男 (宇部興産) 2:31.1

- 4 井上富美造 (海自一術) 2:36.3

決勝

- 1 福島 滋雄 (日大) 2:13.5
(日本新)
2 富田 一雄 (BSタイヤ)2:18.3
3 伊藤 圭祐 (早大) 2:19.9
4 大隅 潔 (駿台ク) 2:20.6
5 中原 紀 (八幡製鉄) 2:21.3
6 五十嵐武清 (日大) 2:24.4
7 田中 広征 (早大) 2:24.9
8 林 祐士郎 (白水会) 2:24.9

400m 個人メドレー

予選A

- 1 福島 滋雄 (日大) 5:16.6
2 片岡 輝男 (立大) 5:22.8
3 田井 次郎 (法大) 5:35.7
4 三木 隆二 (日本鋼管) 5:46.5

B

- 1 高嶺 隆二 (三水会) 5:21.9
2 藤丸 靖久 (三潞高OB)5:26.9
3 山影 武士 (関西高OB)5:30.1
4 唐松 長一 (駿台ク) 5:30.9
5 森田 武男 (日大豊山高)5:31.1
6 榎山 稔 (日本鋼管) 5:40.4

決勝

- 1 福島 滋雄 (日大) 5:04.2
2 山影 武士 (関西高OB)5:16.0
3 高嶺 隆二 (三水会) 5:18.2
4 片岡 輝男 (立大) 5:24.8
5 藤丸 靖久 (三潞高OB)5:25.1
6 唐松 長一 (駿台ク) 5:26.9
7 田井 次郎 (法大) 5:32.6
8 森田 武男 (日大豊山高)5:39.6

女子の部

100m 自由形

予選A

- 1 江坂 君子 (榎山職) 1:07.4
2 小林由美子 (ロート製薬)1:10.0
3 上原 恵子 (旭化成) 1:10.2
4 浦上 涼子 (筑紫女高) 1:10.7
5 渡辺 浩子 (白木屋) 1:11.2
6 淵井 紀子 (二階堂高) 1:11.2
7 常田 汐子 (") 1:12.8
8 道家 高子 (東洋レ) 1:12.8
9 玉井 伸子 (五条高) 1:14.2

B

- 1 道家 知子 (榎山高) 1:08.3
2 小畑 昭子 (ロート製薬)1:08.9
3 内野 典子 (東田中) 1:09.8
4 東 美代子 (五条高) 1:09.9
5 原 富子 (東洋レ) 1:12.2
6 浅野 桂子 (二階堂高) 1:12.7
7 高島 美枝 (成女学) 1:12.8
8 石川 和子 (富士中) 1:15.8

C

- 1 深谷 澄子 (榎山高) 1:10.1
2 北鹿渡郁子 (成女学) 1:10.2
3 村松美智子 (ロート製薬)1:10.5
4 横井真由美 (横浜学) 1:10.9

決勝

- 1 江坂 君子 (榎山職) 1:06.4
2 小畑 昭子 (ロート製薬)1:08.0
3 東 美代子 (五条高) 1:09.2
4 道家 知子 (榎山高) 1:09.2
5 小林由美子 (ロート製薬)1:10.1
6 上原 恵子 (旭化成) 1:10.1
7 深谷 澄子 (榎山高) 1:10.3
8 内野 典子 (東田中) 1:11.4

200m 自由形

予選A

- 1 早川 一枝 (富士中) 2:25.8
2 小林由美子 (ロート製薬)2:27.3
3 青木いち子 (旭化成) 2:34.7
4 浦上 涼子 (筑紫女) 2:35.8
5 石渡 雅子 (天理大) 2:36.8
6 竹内 久子 (榎山高) 2:41.9
7 浅野 桂子 (二階堂高) 2:44.1
8 玉井 伸子 (五条高) 2:45.1

B

- 1 木村トヨ子 (筑紫女) 2:22.6
2 高松 千歳 (宇部興産) 2:32.0
3 齊 尚子 (榎山高) 2:35.2
4 横井真由美 (横浜学) 2:36.9
5 木村 遊子 (東田中) 2:37.5
6 寺井 貴子 (ロート製薬)2:38.4
7 渡辺 浩子 (白木屋) 2:40.9
8 淵井 紀子 (二階堂高) 2:44.2

C

- 1 内田 久江 (筑紫女) 2:29.7
2 村松美智子 (ロート製薬)2:33.4
3 内野 典子 (東田中) 2:36.8

- 4 原 富子 (東洋レ) 2:37.5
- 5 上原 恵子 (旭化成) 2:40.0
- 6 高島 美枝 (成女学) 2:42.0
- 7 石川 和子 (富士中) 2:50.5

D

- 1 小畑 昭子 (ロート製薬) 2:31.5
- 2 江坂 君子 (椛山職) 2:31.8
- 3 北鹿渡 郁子 (成女学) 2:36.4
- 4 加藤 毬子 (淑徳高) 2:38.5
- 5 道家 高子 (東洋レ) 2:40.8
- 6 東 美代子 (五条高) 2:43.0
- 7 大崎 世子 (横浜学) 2:50.9

決勝

- 1 木村トヨ子 (筑紫女高) 2:21.2
(日本新)
- 2 早川 一枝 (吉原市高) 2:25.3
- 3 江坂 君子 (椛山職) 2:26.3
- 4 小林由美子 (ロート製薬) 2:27.0
- 5 小畑 昭子 (") 2:31.0
- 6 高松 千歳 (宇部興産) 2:31.9
- 7 村松美智子 (ロート製薬) 2:32.1
- 8 内田 久江 (筑紫女) 2:32.2

400m 自由形

予選A

- 1 早川 一枝 (吉原市高) 5:15.5
- 2 内田 久江 (筑紫女) 5:22.7
- 3 高松 千歳 (宇部興産) 5:25.3
- 4 青木いち子 (旭化成) 5:25.6
- 5 竹内 久子 (椛山高) 5:48.0

B

- 1 木村トヨ子 (筑紫女) 5:15.6
- 2 寺井 貴子 (ロート製薬) 5:26.6
- 3 齋 尚子 (椛山高) 5:28.1
- 4 木村 遊子 (東田中) 5:32.1
- 5 石渡 雅子 (天理大) 5:35.1
- 6 加藤 毬子 (淑徳高) 5:37.5

決勝

- 1 木村トヨ子 (筑紫女) 4:58.9
(日本新)
- 2 早川 一枝 (吉原市高) 4:59.1
(日本新)
- 3 寺井 貴子 (ロート製薬) 5:20.4
- 4 高松 千歳 (宇部興産) 5:22.4
- 5 青木いち子 (旭化成) 5:23.1
- 6 齋 尚子 (椛山高) 5:23.2
- 7 内田 久江 (筑紫女高) 5:24.6

- 8 木村 遊子 (東田中) 5:37.1

100m 平泳

予選A

- 1 元川 睦美 (朝羽高) 1:28.3
- 2 生田 敏子 (旭化成) 1:28.8
- 3 磯村 昌子 (淑徳高) 1:28.9
- 4 松本 直桃 (筑紫女) 1:31.1
- 5 牧谷 仁子 (佼成中) 1:31.5
- 6 高野美代子 (東田中) 1:32.2
- 7 阿部 和子 (二階堂高) 1:35.0

B

- 1 田上 和子 (八代東高) 1:25.7
- 2 松本 信子 (佐伯高) 1:26.9
- 3 山重百合子 (横浜学) 1:27.4
- 4 渡辺 和子 (ロート製薬) 1:29.4
- 5 浅井 弘美 (淑徳高) 1:29.7
- 6 小牧 敬子 (白木屋) 1:31.5
- 7 安達 絹代 (椛山高) 1:35.0

C

- 1 山本 憲子 (八幡製鉄) 1:23.3
- 2 青木 幸子 (東洋レ) 1:26.8
- 3 岡本 玲子 (ロート製薬) 1:27.0
- 4 吉沢 和子 (横浜学) 1:32.8
- 5 田中 治美 (清水丘高) 1:33.1

決勝

- 1 山本 憲子 (八幡製鉄) 1:21.8
(日本新)
- 2 田上 和子 (八代東高) 1:24.8
- 3 青木 幸子 (東洋レ) 1:26.3
- 4 岡本 玲子 (ロート製薬) 1:26.7
- 5 松本 信子 (佐伯高) 1:27.0
- 6 山重百合子 (横浜学) 1:27.7
- 7 元川 睦美 (朝羽高) 1:28.6
- 8 生田 敏子 (旭化成) 1:29.5

200m 平泳

予選A

- 1 磯村 昌子 (淑徳高) 3:06.8
- 2 松本 信子 (佐伯高) 3:07.3
- 3 元川 睦美 (朝羽高) 3:09.1
- 4 吉沢 和子 (横浜学) 3:18.5
- 5 安達 絹代 (椛山高) 3:23.9
- 6 浦田 喜江 (清水丘高) 3:25.2
- 7 佐藤 園子 (三菱銀行) 3:27.7

B

- 1 山本 憲子 (八幡製鉄) 2:58.3
- 2 渡辺 和子 (ロート製薬) 3:07.9

- 3 浅井 弘美 (淑徳高) 3:09.2
- 4 生田 敏子 (旭化成) 3:09.7
- 5 山重百合子 (横浜学) 3:10.6
- 6 松本 直桃 (筑紫女) 3:12.0
- 7 牧谷 仁子 (佼成中) 3:14.8
- 8 阿部 和子 (二階堂高) 3:25.9

C

- 1 田上 和子 (八代東高) 3:00.0
- 2 青木 幸子 (東洋レ) 3:01.4
- 3 岡本 玲子 (ロート製薬) 3:06.7
- 4 田中 治美 (清水丘高) 3:14.5
- 5 小牧 敬子 (白木屋) 3:15.2
- 6 高野美代子 (東田中) 3:15.5
- 7 牧野 妙子 (椛山高) 3:26.8
- 8 松本 敏子 (二階堂高) 3:29.3

決勝

- 1 田上 和子 (八代東高) 2:59.8
- 2 山本 憲子 (八幡製鉄) 3:00.8
- 3 青木 幸子 (東洋レ) 3:00.9
- 4 磯村 昌子 (淑徳高) 3:06.5
- 5 岡本 玲子 (ロート製薬) 3:07.1
- 6 元川 睦美 (朝羽高) 3:08.5
- 7 松本 信子 (佐伯高) 3:08.8
- 8 渡辺 和子 (ロート製薬) 3:10.7

100m バタフライ

決選A

- 1 高橋 栄子 (佐伯鶴城高) 1:11.1
(日本新)
- 2 池田婦美子 (鹿本高) 1:17.0
- 3 和田 靖子 (東洋レ) 1:17.7
- 4 伊藤 咲子 (淑徳高) 1:22.1
- 5 松田奈津子 (五条中) 1:22.6
- 6 大村三八子 (清水丘高) 1:24.3
- 7 佐藤 光代 (椛山高) 1:26.4
- 8 西岡須磨子 (大宮中) 1:27.7

B

- 1 斎藤 弘子 (椛山高) 1:14.2
- 2 山田佐代子 (ロート製薬) 1:17.5
- 3 川上 静江 (淑徳高) 1:19.5
- 4 岩野栄美子 (宇部興産) 1:21.3
- 5 高橋 叔子 (成女学) 1:21.3
- 6 土屋 節子 (二階堂高) 1:23.2
- 7 加藤 靖子 (ロート製薬) 1:25.4
- 8 麻生真由美 (横浜学) 1:26.3

決勝

- 1 高橋 栄子 (佐伯鶴城高) 1:11.0

(日本新)

- 2 齋藤 弘子(椛山高) 1:13.6
- 3 山田佐代子(ロート製薬)1:15.4
- 4 和田 靖子(東洋レ) 1:15.5
- 5 池田婦美子(鹿本高) 1:15.8
- 6 川上 静江(淑徳高) 1:17.5
- 7 岩野栄美子(宇部興産) 1:21.1
- 8 高橋 叔子(成女高) 1:22.7

200m バタフライ

予選A

- 1 高橋 栄子(佐伯鶴城高)2:36.1
(日本新)

- 2 齋藤 弘子(椛山高) 2:48.6
- 3 山田佐代子(ロート製薬)2:55.4
- 4 加藤 靖子(") 2:56.4
- 5 川上 静江(淑徳高) 2:57.5
- 6 岩野栄美子(宇部興産) 2:59.2
- 7 大村三八子(清水丘高) 3:04.3
- 8 池田婦美子(鹿本高) 3:10.3

B

- 1 和田 靖子(東洋レ) 3:00.0
- 2 高橋 叔子(成女高) 3:04.3
- 3 松田奈津子(五条中) 3:05.3
- 4 伊藤 咲子(淑徳高) 3:09.4
- 5 麻生真由美(横浜学) 3:09.9
- 6 西岡須磨子(大宮中) 3:21.8

決勝

- 1 高橋 栄子(佐伯鶴城高)2:35.8
(日本新)
- 2 齋藤 弘子(椛山高) 2:48.2
- 3 山田佐代子(ロート製薬)2:50.3
- 4 川上 静江(淑徳高) 2:55.1
- 5 和田 靖子(東洋レ) 2:56.5
- 6 岩野栄美子(宇部興産) 2:56.5
- 7 加藤 靖子(ロート製薬)2:58.3
- 8 高橋 叔子(成女高) 3:04.0

100m 背泳

予選A

- 1 松本 凉子(ロート製薬)1:17.2
- 2 岡田八詠子(五条高) 1:17.3
- 3 松元 妙子(旭化成) 1:19.2
- 4 中島 孝子(三菱銀行) 1:21.8
- 5 水落志保美(成女高) 1:23.7
- 6 中里ミツエ(東北ブロック)
1:24.2
- 7 阪本 訓子(東田中) 1:25.6

B

- 1 木原美知子(岡山旭中) 1:15.7
- 2 岡本 博美(白木屋) 1:16.3
- 3 佐藤美代子(成女中) 1:17.2
- 4 武樋マキ子(二階堂高) 1:23.2
- 5 多田美美代(羽衣学) 1:25.6

C

- 1 田中 聡子(八幡製鉄) 1:14.5
- 2 瀬崎 淳子(椛山高) 1:20.6
- 3 大宮美枝子(淑徳高) 1:21.9
- 4 林 かほり(東洋レ) 1:22.5
- 5 梅田 雅子(竹原高) 1:26.4
- 6 石沢 栄子(二階堂高) 1:27.5
- 7 菅井 礼子(") 1:27.8

決勝

- 1 田中 聡子(八幡製鉄) 1:10.6
(日本新)

- 2 四本 博美(白木屋) 1:15.5
- 3 木原美知子(岡山旭中) 1:15.7
- 4 松永 凉子(ロート製薬)1:16.0
- 5 岡田八詠子(五条高) 1:17.7
- 6 松元 妙子(旭化成) 1:18.6
- 7 佐藤美代子(成女中) 1:18.9
- 8 瀬崎 淳子(椛山高) 1:20.9

200m 背泳

予選A

- 1 四本 博美(白木屋) 2:42.9
- 2 大宮美枝子(淑徳高) 2:51.6
- 3 林 かほり(東洋レ) 2:54.2
- 4 瀬崎 淳子(椛山高) 2:56.8
- 5 武樋マキ子(二階堂高) 2:59.5
- 6 中里ミツエ(東北ブロック)
3:03.1
- 7 多田美美代(羽衣学) 3:05.5

B

- 1 松永 凉子(ロート製薬)2:43.1
- 2 松元 妙子(旭化成) 2:45.5
- 3 水落志保美(成女高) 3:03.7
- 4 梅田 雅子(竹原高) 3:03.8

C

- 1 岡田八詠子(五条高) 2:43.9
- 2 木原美知子(岡山旭中) 2:44.1
- 3 佐藤美代子(成女中) 2:54.9
- 4 中島 孝子(三菱銀行) 2:57.8
- 5 阪本 訓子(東田中) 3:03.4

決勝

- 1 四本 博美(白木屋) 2:40.6
- 2 岡田八詠子(五条高) 2:41.5
- 3 松永 凉子(ロート製薬)2:41.9
- 4 木原美知子(岡山旭中) 2:42.2
- 5 松本 妙子(旭化成) 2:45.9
- 6 大宮美枝子(淑徳高) 2:50.8
- 7 佐藤美代子(成女中) 2:51.6
- 8 林 かほり(東洋レ) 2:52.8

400m 個人メドレー

予選A

- 1 村松美智子(ロート製薬)6:16.7
- 2 大宮美枝子(淑徳高) 6:19.7
- 3 高橋 叔子(成女高) 6:29.6
- 4 高野美代子(東田中) 6:31.5
- 5 佐藤 光代(椛山高) 6:51.8

B

- 1 江坂 君子(椛山職) 5:52.5
(日本新)

- 2 齋藤 弘子(椛山高) 6:14.8
- 3 加藤 靖子(ロート製薬)6:20.7
- 4 木村 遊子(東田中) 6:30.3
- 5 江口 匂枝(二階堂高) 6:37.5

決勝

- 1 江坂 君子(椛山職) 5:51.0
(日本新)

- 2 村松美智子(ロート製薬)6:03.2
- 3 齋藤 弘子(椛山高) 6:03.6
- 4 加藤 靖子(ロート製薬)6:06.4
- 5 大宮美枝子(淑徳高) 6:16.8
- 6 木村 遊子(東田中) 6:19.9
- 7 高橋 叔子(成女中) 6:26.2
- 8 高野美代子(東田中) 6:34.0



豪 州

去年のことを今更載せるのは気がひけるが、重大な競技会であり、世界新記録も多数樹立されているので、報告することにする。

○英連邦大会選考 10/23~27 メルボルン 55Y

男子

110Y自

1 P. フェルプス	55.5
2 D. ディクソン	55.8
3 P. ドーク	56.6

220Y自

1 M. ローズ	2:02.4
2 R. ウィンドル	2:04.1
3 A. ウッド	2:04.5
4 P. ドーク	2:04.6
5 T. スラトーン	2:05.0

440Y自

1 M. ローズ	4:22.3
2 A. ウッド	4:23.3
3 R. ウィンドル	4:26.1

1650Y自

1 M. ローズ	17:24.8
2 A. ウッド	17:33.0
3 R. ウィンドル	17:56.9
4 R. フェーガン	17:58.4

110Y平

1 I. オブライエン	1:12.2
2 W. パートン	1:12.5

220Y平

1 I. オブライエン	2:36.8
2 W. パートン	2:40.1

110Yバ

1 K. ベリー	59.4(Y世新)
----------	-----------

220Yバ

1 K. ベリー	2:09.7(")
----------	-------------

2 N. ヘイズ	2:13.8
3 B. ヒル	2:19.8

110Y背

1 J. キャロル	1:05.0
-----------	--------

220Y背

1 J. キャロル	2:21.4
-----------	--------

440Y混

1 W. エブサリー	5:15.9
2 A. アリグザンダー	5:16.9

440Y継

1 選 抜	3:45.1(Y世新)
-------	-------------

(ローズ56.9, ドーク56.1,
ディクソン55.8, フェルプス56.3)

880Y継

1 選 抜	8:21.0
-------	--------

(ウインドル, ドーク, ウッド, ローズ)

440Y混継

1 選 抜	(キャロル1:05.8, オブライエン1:12.3, ベリー1:00.0, フェルプス55.6)
-------	---

女子

110Y自

1 D. フレイザー	1:00.0(世新)
1 D. フレイザー	(28.4) 59.5(")
2 L. ベル	1:04.0
3 R. ソーン	1:04.6

440Y自

1 D. フレイザー	4:58.4
2 I. コンラッズ	5:01.8

440Y継

1 選 抜	4:13.8(Y)
-------	-----------

(ソーン1:04.1, エヴェラズ1:05.1,
ベル1:04.7, フレイザー59.9)

○第7回英連邦大会 11/23~30 パース 55Y

男子

110Y自

1 R. パウンド(加)	56.8	55.8
2 R. マクグレガー	55.8	56.1
3 D. ディクソン(豪)	56.0	56.1
4 P. ドーク(")	56.2	57.3

440Y自

1 M. ローズ(豪)	4:20.0
2 A. ウッド(")	4:22.5
3 R. ウィンドル(")	4:23.1
4 S. ギルクリスト(加)	4:32.7

1650 Y 自		
1 M. ローズ(豪)	(9:15.4)	17:18.1
2 R. ウィンドル(〃)		17:44.5
3 A. ウッド(〃)		17:55.6
4 S. ギルクリスト(加)		18:04.6

110 Y 平		
1 I. オブライエン(豪)	1:11.3	1:11.4
2 W. バートン(〃)	1:13.1	1:13.9
3 S. ラビノヴィッチ(加)	1:12.8	1:14.1

220 Y 平		
1 I. オブライエン(豪)	2:38.0	2:38.2
2 W. バートン(〃)	2:40.8	2:42.1
3 N. ニコルソン(イングランド)	2:42.4	2:42.6

110 Y バ		
1 K. ベリー(豪)	59.5 (Y 世新)	
2 N. ヘイズ(〃)		1:02.3

220 Y バ		
1 K. ベリー(〃)	(1:01.1)	2:10.8 (Y 世新)
2 N. ヘイズ(豪)		2:16.3
3 B. ヒル(〃)		2:18.7

110 Y 背		
1 G. サイクス(イングランド)		1:04.5
2 J. キャロル(豪)		1:05.4

220 Y 背		
1 J. キャロル(豪)		2:20.9
2 A. フィングルトン(〃)		2:21.0
3 A. ロバートソン(ニュージーランド)		2:23.0

440 Y 混		
1 A. アリグザンダー(豪)		5:15.3
2 J. オラヴァイネン(〃)		5:16.3
3 J. ケルソ(加)		5:16.5

440 Y 継		
1 豪州	3:43.9 (Y 世新)	
	(フェルプス56.4, ローズ56.2, ドーク55.8, ディクソン55.5)	
2 カナダ		3:48.3

880 Y 継		
1 豪州	8:13.4 (Y 世新)	
	(ローズ2:02.2, ウッド2:04.2, ストラージ2:03.3, ウィンドル2:03.7)	
2 カナダ		3:42.4

440 Y 混継		
1 豪州	4:12.4	
	(キャロル1:04.4, オブライエン1:12.8, ベリー58.7, ディクソン56.5)	

2 イングランド		4:19.9
3 カナダ		4:19.9
女子		

110 Y 自		
1 D. フレイザー(豪)	1:00.7 (27.2)	59.5 (世新)

2 R. ソーン(〃)	1:03.7	1:03.8
3 M. ステュワート(加)	1:03.6	1:04.4
4 L. ベル(豪)	1:04.6	1:04.4
5 D. ウイルキンソン(イングランド)	1:04.3	1:04.6

440 Y 自		
1 D. フレイザー(豪)		4:51.4
2 I. コンラズ(〃)		4:55.0
3 E. ロング(イングランド)		5:00.4

110 Y 平		
1 A. ロンスブロー(イングランド)		1:21.3
2 V. ハッドン(ニュージーランド)		1:21.3
3 D. フレイザー(イングランド)		1:21.7

220 Y 平		
1 A. ロンスブロー(イングランド)	2:52.2	2:51.7 (Y 世新)
2 J. エンフィールド	2:53.7	2:54.7
3 V. ハッドン(ニュージーランド)	2:55.2	2:56.3

110 Y バ		
1 M. ステュワート(加)	1:09.1	1:10.1
2 M. コッチェリル		1:11.2
3 L. マッギル(豪)		1:11.6

110 Y 背		
1 L. ルドルローヴ(イングランド)	1:10.9 (Y 世新)	1:11.1
2 P. サーシャント(豪)	1:11.3	1:11.5
3 S. ルイズ	1:12.2	1:12.2
4 J. ボルトン(豪)	1:11.7	1:12.4

220 Y 背		
1 L. ルドグロヴ(イングランド)	2:35.2 (Y 世新)	2:35.2 (Y 世新)
2 S. ルイズ		2:36.7
3 P. サーシャント(豪)	2:35.5 (Y 世新)	2:37.5

440 Y 混		
1 A. ロンスブロー(イングランド)		5:38.6
2 L. マッギル(豪)		5:46.1

440 Y 継		
1 豪州	4:11.0 (Y 世新)	
	(ベル1:04.3, エヴァルズ1:04.2,	

ソーン1:03.3, フレイザー59.2)

2 カ ナ ダ 4:21.1
3 イングランド 4:21.3

440 Y 混継

1 豪 州 4:45.9(Y世新)
(サージェント1:10.8, ルイグロック1:24.2,
(Y世新)

マッギル1:11.7, フレイザー59.2)

2 イングランド 4:47.9(Y世新)
3 カ ナ ダ 4:48.1(")

ドーン・フレイザーは遂に待望の1分の壁を破って、前人未踏の境地に突入した。この画期的な記銀は62年度のスポーツ10大ニュースの一つとしてとりあげている。彼女以外には今後も当分破ることは不可能であろう。

○ニュー・サウス・ウエールズ州選手権 1/5~19

シドニー 55 Y 塩

男子

110 Y 自

1 C. スタプレス 57.0

220 Y 自

1 R. ウィンドル 2:01.1(Y世新)
2 A. ウッド 2:06.2
3 R. リング 2:06.4

440 Y 自

1 R. ウィンドル 4:22.5
2 A. ウッド 4:26.5
3 R. リング 4:27.8

880 Y 自

1 R. ウィンドル 9:06.9
2 A. ウッド 9:21.6
3 R. リング 9:25.6
4 R. フェーカン 9:25.7

1650 Y 自

1 R. ウィンドル 17:18.0
2 A. ウッド 17:39.9
3 R. フェーカン 17:50.8

220 Y 平

1 I. オブライエン 2:40.9

110 Y パ

1 K. ベリー (27.6)59.0(Y世新)

220 Y パ

1 K. ベリー 2:08.4(世新)
2 N. ヘイズ 2:13.6
3 B. ヒル 2:15.5

440 Y 混

1 W. エブサリー 5:12.9(豪新)

女子

110 Y 自

1 I. コンラッズ 1:03.6
2 A. ラステリー(和) 1:04.7

220 Y 自

1 I. コンラッズ 2:16.3
2 A. ラステリー(和) 2:18.7

440 Y 自

1 I. コンラッズ 4:57.1

880 Y 自

1 N. ダンカン 10:31.3

110 Y 平

1 V. ハッドン(ニュージーランド) 1:21.0

220 Y 平

1 V. ハッドン(ニュージーランド) 2:55.3

110 Y パ

1 L. マッギル 1:11.3

220 Y パ

1 L. マッギル 2:39.4
2 A. ラステリー(和) 2:40.1

110 Y 背

1 S. コスティン 1:12.7

220 Y 背

1 S. テコンティン 2:37.5

440 Y 混

1 A. ラステリー(和) 5:35.2

○全豪選手権 2/15~23 パース 55 Y

男子

110 Y 自

1 D. ディクソン 55.7 55.5
2 R. ウィンドル 56.7 55.6
3 J. ライアン 56.5
8 岩崎邦宏 57.8 59.3

220 Y 自

1 R. ウィンドル 2:02.8
2 A. ストラーン 2:05.7
3 岩崎邦宏 2:07.1 2:06.1

440 Y 自

1 R. ウィンドル 4:23.0
2 R. リング 4:26.7
3 A. ストラーン 4:27.3
4 R. フェーガン 4:28.5
5 J. ビック 4:29.6
6 藤島祥三 4:30.9 4:30.0
岩本和行 4:38.9
岩崎邦宏 4:39.1

多田寿之	4:39.7	(リング, ピック, フェーガン, ウィンドル)	
木田和夫	4:41.1	2 ビクトリア	8:28.4
880Y自		3 日 本	8:38.9
1 R. ウィンドル	9:10.5	(岩崎, 藤島, 木田, 山影)	
2 藤島祥三	9:18.6	2:07.5 2:09.8 2:13.5 2:08.1	
3 岩本和行	9:46.2	440Y混継	
4 木田和夫	9:42.2	1 N S W	4:11.8(豪新)
6 多田寿之	9:53.3	(キャロル1:04.3, オブライエン1:11.7, ベリー59.6, ウィンドル56.2)	
1650Y自		2 日 本	4:20.2
1 R. ウィンドル	17:59.5	(青木, 山本, 管, 岩崎)	
2 藤島祥三	18:15.8	1:06.5 1:11.7 1:03.3 58.7	
3 R. フェーガン	18:07.5	女子	
4 R. リング	18:12.5	110Y自	
5 木田和夫	18:33.6	1 ターナ	1:04.3 1:04.4
7 岩本和行	18:44.2	2 L. ベル	1:04.9
多田寿之	19:03.7	3 R. ソーン	1:05.0 1:05.2
110Y平		6 佐藤喜子	1:07.6 1:06.7
1 I. オブライエン	1:11.3	220Y自	
2 山南宏一	1:12.8	1 I. コンラッズ	2:18.6
3 石川健二	1:11.9	2 ターナ	2:21.5
4 W. バートン	1:13.8	3 R. ソーン	2:24.3
5 高島光生	1:15.5	4 江坂君子	2:28.5 2:26.3
220Y平		5 佐藤喜子	2:28.5 2:27.2
1 山南宏一	2:39.1	440Y自	
2 I. オブライエン	2:37.4	1 I. コンラッズ	4:56.7
3 石川健二	2:40.0	2 木村トヨ子	5:01.9 4:57.4(日新)
4 W. バートン	2:41.7	3 早川一枝	5:03.7 4:58.4(日新)
5 高島光生	2:43.3	5 江坂君子	5:11.5 5:09.0
110Yバ		880Y自	
1 K. ベリー	59.4	1 早川一枝	10:12.1(日新)
2 B. ヒル	1:02.2	2 木村トヨ子	10:25.3
7 管	1:03.6	3 D. ホーレー	10:33.1
110Y背		4 I. コンラッズ	10:37.9
1 A. フィングルトン	1:05.4	110Y平	
2 J. キャロル	1:05.6	1 M. ルイグロック	1:22.0
4 青木守喬	1:06.4	2 山本憲子	1:22.6 1:22.6
5 山影武士	1:07.3	220Y平	
220Y背		1 M. ルイグロック	2:54.2
1 A. フィングルトン	2:23.5	2 田上和子	3:00.8 2:59.7
2 J. キャロル	2:24.8	3 山本憲子	3:01.1 3:00.5
6 青木守喬	2:29.7	220Y混	
440Y混		1 山影武士	5:13.3
1 山影武士	5:13.3	2 W. エブサリー	5:14.6
2 W. エブサリー	5:14.6	880Y継	
880Y継		1 N S W	8:28.4
1 N S W	8:28.4	220Yバ	
		1 高橋栄子	1:09.6(日新)1:09.8(日新)
		2 L. マッギル	1:12.8
		3 斎藤弘子	1:12.4 1:12.8

1 高橋栄子	2:32.2(y世新)	2 日 本	4:26.5
2 L. マッギル	2:41.5	(木村, 江坂, 齋藤, 佐藤)	(日新)
3 齋藤弘子	2:47.1	1:05.4 1:07.0 1:07.6 1:06.5	
110 y 背		440 y 混継	
1 田中聡子	1:10.2(y世新) 1:10.0	1 日 本	4:46.7
	(y世新)	(田中, 山本, 高橋, 江坂)	(日新)
2 B. ウースレー	1:12.9	1:10.2(y世新)	
3 P. サージェント	1:13.0	特別レース	
6 木原美知子	1:15.1 - 1:14.8	220 y 背	
220 y 背		1 田中聡子	(1:10.9)2:28.5(世新)
1 B. ウースレー	2:41.3 2:38.7	ジュニア	
6 木原美知子	2:44.5 2:43.6	220 y 自	
田中聡子	2:28.9(世新)	1 早川一枝	2:24.9 2:23.3
440 y 混		2 L. ベル	2:24.4
1 L. マッギル	5:41.2	440 y 自	
2 江坂君子	5:48.9(日新)5:42.0(日新)	1 早川一枝	5:05.9 5:05.3
5 齋藤弘子	5:58.9 5:57.1	220 y 背	
440 y 継		1 B. ウースレー	2:40.2
1 N S W	4:23.7	2 木原美知子	2:43.6
	(コンラッツ, ベル, エヴァルス, ウォグラー)		

水 連 便 り

鶴田義行氏紫綬褒賞を受賞さる

日本水泳界の大先輩鶴田義行氏は、今般多年にわたる水泳界への功績によりさきに政府より紫綬褒賞を受賞された。同氏の今回の受賞は、昨年の高石現会長に続くものであるが、重なる栄誉は一に個人の名誉として讃えられるばかりでなく水泳界あげての喜びとしてここに御報告するものである。なお、同氏の今回の栄誉をたたえ4月5日東京山の上ホテルで関係者多数が参集しその祝賀パーティが開催された。

好調のすべり出し

本年度のシーズンのふたあけともいうべき室内大会では日本新が10, 日豪対抗競技には世界新を折りまげてこれまた室内大会を凌ぐ新記録が続出して、開幕にふさわしいスタートを切ったことは、オリンピック制覇への意気込みを思わせるに十分なものがあつた。シーズンが浅いので、まだとやかく言へないが、特に福島君の個人メドレーを含めた世界記録への意欲と進境、好調福井誠君

のダッシュ、佐藤君等バタフライ勢の進出、800m リレー要員が出した世界新等々世界のトップを目指す成果としてその努力は大いに賞されよう。

しかし800 リレーにしても人材豊富なアメリカは、既にこれを凌ぐ記録(失格で非公認)を出していることでもあり、オーストラリアはローズ、コンラッツが控えてばいるので、日本にとって決して楽観できない。更に山中福井、藤本君でなどのベテランに頼らざるを得ないいわば背水の陣では短距離の不振とともに或る意味で日本の泣きどころとも言へそうであり、体力的にも山中君を酷

使できない現在、長距離を含め英才新人の出現を待望する希いは一入なものがある。

初の55秒台突入

室内選手権の100m決勝レースで福井誠君(八幡製鉄)が、日本人初の55秒台を出したことはなんと言っても朗報である。しかし同君によれば、練習不足だったので100に出た、中距離を泳ぎたいということであるが、オリンピックには400mメドレーレーもあることであるし、期待されるものが多いわけである。それにしても昨年度の世界ランキング100mの55秒台以上を出した選手は全部で21名もいることを考えると、日本の短距離陣の不振が今更考えさせられなんとかならないものかとの感が深い。

新方式のスターター

去る4月上旬行われた室内選手権大会から、スターターは携帯マイクを持ち選手がスタート台に立つと同時に「男子400m自由形決勝」というようにその競技種目をはっきりと伝える方式をとることとしたが、これはレースに望む選手自体にも観客にも競技内容を盛りあがらせ充実感を増して好評である。アメリカでは前から行っていたようであるが、よいことはどしどしとり入れ立派な競技運営を行って貰いたいものである。

ヨーリック選手の計時マン

室内選手権大会に1人の外国人が計時員として時計を押ししている姿が目についたが、これはメルボルン大会の200mバタフライで優勝したアメリカのヨーリック選手である。もち論今は現役を退いて在日米空軍の軍医大尉として在京勤務となっているが、バタフライの表彰式にはメダルを自ら渡したり、プールサイドで懸命にレースの模様を見つめている姿は往年の名選手のおもかげ十分といったところ。

中学生アメリカ各地で大活躍

藤垣監督に引率されアメリカへ遠征した男女中学生は各地で大活躍しアメリカのエイジグループの新記録をたてるなど好成績をあげてこの程帰国した。中学生のアメリカ行は昨年に引続き2回目であるが、低学年層を対象とした水泳の普及とその組織は言うまでもなくアメリカは先進国であり、家族とコーチぐるみの水泳熱はわれわれの考え以上のものがあるようである。アメリカでの体験は大きなプラスとなって現れることは疑いないが、水泳競技の社会的基盤ができあがってれば、勢い層は厚くならうし、人材も切れ目なく輩出するという仕組みになるわけで見習うべき点が多い。教育形態と社会環境が違ふといってしまうればそれまでであるが、事大主義と官僚的支配意識の抜けきらない日本の現状の脱皮は果していることであろうか。

((編集後記))

編集委員長栗村中丸氏が本号編集なかばに突然逝去されました。逝去の前日、本号について打合せをしていた時は全然異状を感じなかったのに……人の世のはかなさをしみじみ感じた次第です。そんなわけで本誌の発行が予定より遅れました。次号は、新委員長によって8月末頃日米対抗記念号を発行の予定です。御諒承下さい。

編集委員 (いろは順)

市村 一, 奥平 幸夫, 金田平八郎, 上野徳太郎, 坂本亮四郎, 三枝美貴子,
佐藤 幸男, 菊池 章, 島田桃一郎, 島田 博史, 鈴木 祐一

日本水泳連盟
機関誌

水 泳

第151号

昭和38年5月25日印刷

昭和38年5月30日発行

日本水泳連盟

編集兼 伊藤 謹 平

発行人 印刷所

株式会社 成島印刷所
東京都中央区日本橋本石町3の4
電話 日本橋(241)1701.6509.7082

東京都千代田区丸の内2-2
丸ビル722区

発行並 日本水泳連盟
申込所

電話 和田倉(201)3090・4885番
振替口座東京 5178番